

2020年度

講義計画と内容

教育学研究科

【注意事項】

UTAS (<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>) の内容と相違がある場合には、UTASの内容を正としてください。

2020年3月30日

目 次

I. 2020年度 大学院教育学研究科授業日程	1
II. 教育学研究科の成績評価基準について	2
III. 試験時の不正行為について	3
IV. レポート作成時の留意点について	4
V. 授業科目表	5
VI. 講義内容（シラバス）	
総合教育科学専攻	
基礎教育学専修	
基礎教育学コース	17
教育社会科学専修	
比較教育社会学コース	43
生涯学習基盤経営コース	81
大学経営・政策コース	104
心身発達科学専修	
教育心理学コース	119
臨床心理学コース	145
身体教育学コース	180
学校教育高度化専攻	
教職開発コース	206
教育内容開発コース	228
学校開発政策コース	252
vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	275
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	285
ix. 地図	286

2020年度 教育学研究科授業日程

入進学ガイダンス 4月 2日(木) (※大学経営・政策コースは4日(土))		【A1A2】 授業期間 9月25日(金) ～ 1月25日(月) A1A2修了試験 1月12日(火)午後、13日(水)、14日(木)、 19日(火)午前、22日(金)、25日(月) (※大学経営・政策コースは1月23日(土)。) 補講・集中講義 1月19日(火)午後、20日(水)、21日(木) 授業振替日 1月 7日(木) 月曜日の授業 授業休止日 11月20日(金)全日 : 駒場祭準備 11月24日(火)午前 : 駒場祭後片付け 1月15日(金)全日 : 大学入学共通テスト準備 ※ 11月13日(金)、16日(月)、18日(水)はA1科目の補講日のため、A1A2の授業を休止します。 ※ 大学経営・政策コースは11月14日(土)がA1科目の補講日のため、A1A2の授業を休止します。	
【S1S2】 授業期間 4月 3日(金) ～ 7月22日(水) S1S2修了試験 7月14日(火)、15日(水)、16日(木)、 17日(金)、20日(月) (※大学経営・政策コースは7月18日(土)。) 補講・集中講義 7月21日(火)、22日(水) 授業振替日 5月 7日(木) 水曜日の授業 授業休止日 5月15日(金)午後 : 五月祭準備 ※ 5月22日(金)午前、29日(金)、6月1日(月)はS1科目の補講日のため、S1S2の授業を休止します。		【A1】 授業期間 9月25日(金) ～ 11月18日(水) A1修了試験 11月6日(金)、9日(月)、11日(水)、 12日(木)、17日(火) (※大学経営・政策コースは11月7日(土)。) 補講・集中講義 11月13日(金)、16日(月)、18日(水) (※大学経営・政策コースは11月14日(土)を含む。)	
【S1】 授業期間 4月 3日(金) ～ 6月 1日(月) S1修了試験 5月15日(金)午前、22日(金)午後、 25日(月)、26日(火)、27日(水)、28日(木) (※大学経営・政策コースは5月30日(土)。) 補講・集中講義 5月22日(金)午前、29日(金)、6月1日(月) 授業振替日 5月 7日(木) 水曜日の授業 授業休止日 5月15日(金)午後 : 五月祭準備		【A2】 授業期間 11月19日(木) ～ 1月25日(月) A2修了試験 1月12日(火)午後、13日(水)、14日(木)、 19日(火)午前、22日(金)、25日(月) (※大学経営・政策コースは1月23日(土)。) 補講・集中講義 1月19日(火)午後、20日(水)、21日(木) 授業振替日 1月 7日(木) 月曜日の授業 授業休止日 11月20日(金)全日 : 駒場祭準備 11月24日(火)午前 : 駒場祭後片付け 1月15日(金)全日 : 大学入学共通テスト準備	
【S2】 授業期間 6月 2日(火) ～ 7月22日(水) S2修了試験 7月14日(火)、15日(水)、16日(木)、 17日(金)、20日(月) (※大学経営・政策コースは7月18日(土)。) 補講・集中講義 7月21日(火)、22日(水)		【冬季休業】 12月26日(土) ～ 1月 4日(月) 【春季休業】 1月26日(火) ～ 3月31日(水)	
【夏季休業】 7月23日(木) ～ 9月23日(水)			

休業期間の集中講義日程

7月27日(月) ～ 9月 4日(金)

2020年度 修士論文日程

修士論文題目届提出期間	11月24日(火) ～ 12月 1日(火)
修士論文提出期間	1月 5日(火) ～ 1月 8日(金)16時30分締切
修士論文要旨提出期間	1月 5日(火) ～ 1月12日(火)16時30分締切

授業時間帯

午前	第1時限	8時30分	～	10時15分
	第2時限	10時25分	～	12時10分
午後	第3時限	13時00分	～	14時45分
	第4時限	14時55分	～	16時40分
	第5時限	16時50分	～	18時35分
	第6時限	18時45分	～	20時30分

※変更が生じる可能性もありますので、最新の情報は掲示板を確認してください。

教育学研究科の成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基 準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習・研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

1. 筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

2. 平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

3. レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

レポート作成時の留意点について

レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他者の文章やデータ、Web 上の情報等を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効となるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点が無効とされ、学生処分の対象となる。また、レポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も同様に取り扱われる。

(2) 教育学研究科授業科目表

〔 自 2020年4月
至 2021年3月 〕

総合教育学専攻 基礎教育学専修

2020(令和2)年度 大学院講義題目一覧(基礎教育学コース)

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-211-01	教育哲学基本研究	教育哲学演習Ⅰ	教授	山名 淳	2	S1S2		*2
23-211-02	教育人間学基本研究	教育思想演習	教授	小玉 重夫	2	S1S2		*2
23-211-03	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	准教授	片山 勝茂	2	S1S2		*2
23-211-04	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	教授	小国 喜弘	2	S1S2		*2
23-211-05	教育臨床学基本研究	教育臨床学基本演習	教授	田中 智志	2	S1S2		*2
23-211-06	教育臨床学基本研究	臨床現象学Ⅰ	准教授	大塚 類	2	S1S2		
23-211-07	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	教授 教授 教授 教授 准教授 准教授	田中 智志 小玉 重夫 山名 淳 小国 喜弘 片山 勝茂 大塚 類	2	通年	* 隔週	*2
23-211-08	教育哲学特殊研究	教育哲学演習Ⅱ	教授	山名 淳	2	A1A2		*2
23-211-09	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	教授	小玉 重夫	2	A1A2		*2
23-211-10	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	准教授	片山 勝茂	2	A1A2		*2
23-211-11	教育史特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	教授	小国 喜弘	2	A1A2		*2
23-211-12	教育史特殊研究	教育思想史特殊講義Ⅲ	非常勤講師	山内 紀幸	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-211-13	教育臨床学特殊研究	教育臨床学演習	教授	田中 智志	2	A1A2		*2
23-211-14	教育臨床学特殊研究	臨床現象学Ⅱ	准教授	大塚 類	2	A1A2		
23-211-15	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-16	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-17	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-18	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-19	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-20	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-21	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-211-22	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-23	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-24	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-25	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-26	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

比較教育社会学コース

【備考欄の*印は、比較教育社会学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-212-01	教育社会学基本研究	現代日本社会における 教育・仕事・家族	教授	本田 由紀	2	S2		*2
23-212-02	教育社会学基本研究	市民社会・国家・教育	准教授	仁平 典宏	2	A2		*2
23-212-03	高等教育論基本研究	高等教育の社会学Ⅰ	教授	橋本 鉦市	2	S1		*2
23-212-04	比較教育システム論基本研 究	教育社会学の諸概念	教授	中村 高康	2	S1		*2
23-212-05	比較教育システム論基本研 究	教育社会学方法論研究	教授	三輪 哲	2	A1A2		*2
23-212-06	比較教育学基本研究	質的方法論研究Ⅰ	教授	恒吉 僚子	2	S1		*2
23-212-07	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	教授	本田 由紀	2	A1A2		*2
23-212-08	教育社会学特殊研究	教育改革の国際比較研 究	教授	恒吉 僚子	2	A1		*2
23-212-09	教育社会学特殊研究	教育言説の社会学	准教授	仁平 典宏	2	S1		
23-212-10	教育社会学特殊研究	障害の社会理論を読む	准教授	星加 良司	2	S1S2		
23-212-11	教育社会学特殊研究	教育社会の計量分析	教授	佐藤 香	2	S1S2		*2
23-212-12	教育社会学特殊研究	Ethnicity, Nationalism and Education	非常勤講師	高橋 史子	2	A1A2		
23-212-13	教育社会学特殊研究	教育と子どもの歴史社会 学	非常勤講師	小針 誠	2	A2		
23-212-14	高等教育論特殊研究	高等教育の社会学Ⅱ	教授	橋本 鉦市	2	S2		*2
23-212-15	比較教育システム論特殊研 究	教育と選抜の諸問題	教授	中村 高康	2	A1A2		*2
23-212-16	比較教育学特殊研究	質的方法論研究Ⅱ	准教授	額賀 美紗子	2	A1		*2
23-212-17	比較教育学特殊研究	グローバル時代の国際 移動と教育	准教授	額賀 美紗子	2	A2		
23-212-18	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-212-19	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-20	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-21	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-22	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-23	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-24	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-25	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-26	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-27	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-28	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	客員教授	岡本 智周	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-29	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	客員教授	岡本 智周	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-30	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	教授	橋本 鉦市	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-31	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	教授	橋本 鉦市	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-32	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-33	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-34	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-35	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-36	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-37	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育学専攻 教育社会科学専修

生涯学習基盤経営コース

【備考欄の*印は、生涯学習基盤経営コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅱ	教授	牧野 篤	2	8-9月	集中講義(8-9月)	*2
23-213-02	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峯	2	S1S2		*2
23-213-03	図書館情報学基本研究	図書館情報学総合研究	教授	影浦 峯	2	通年	隔週	
23-213-04	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅱ	准教授	李 正連	2	A1		*2

23-213-05	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅰ	准教授	新藤 浩伸	2	A2		*2
23-213-06	社会教育学特殊研究	プログラム評価論	非常勤講師	安田 節之	2	8-9月	集中講義(8-9月)	*2
23-213-07	社会教育学特殊研究	社会教育学・生涯学習論研究	非常勤講師	久井 英輔	2	A2	集中講義(A2)	
23-213-08	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	教授	影浦 峯	2	A1A2		*2
23-213-09	図書館情報学特殊研究	図書館情報学理論研究	准教授	河村 俊太郎	2	S1S2		*2
23-213-10	図書館情報学特殊研究	図書館と情報資料	客員教授	海野 敏	2	A1		
23-213-11	図書館情報学特殊研究	日本における図書館の思想史	非常勤講師	根本 彰	2	A1A2		
23-213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-13	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-14	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	李 正連	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-15	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	李 正連	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-16	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-17	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-18	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-19	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-20	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-21	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-22	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員教授	海野 敏	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-23	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員教授	海野 敏	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育学専攻 教育社会科学専修

大学経営・政策コース

【備考欄の*印は、大学経営・政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-214-01	大学経営政策基本研究	比較大学論	教授	福留 東土	2	A1A2		*2
23-214-02	大学経営政策基本研究	大学経営政策演習(1)	教授 准教授	福留 東土 両角 亜希子	2	通年	隔週	*2
23-214-03	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究	教授 准教授	福留 東土 両角 亜希子	2	通年	* 隔週	*2
23-214-04	大学経営政策基本研究	大学経営論	准教授	両角 亜希子	2	S1		*2

23-214-05	大学経営政策基本研究	高等教育政策論	准教授 非常勤講師 非常勤講師	両角 亜希子 石橋 晶 松坂 浩史	2	A1A2		*2
23-214-06	大学経営政策基本研究	高等教育論	客員教授	小方 直幸	2	S2		*2
23-214-07	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(3)	教授 准教授 客員教授 非常勤講師	福留 東土 大西 晶子 杉本 和弘 深堀 聡子	2	S1S2		*2
23-214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(4)	准教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	両角 亜希子 浅野 茂 佐藤 浩章 松下 佳代	2	A1A2		*2
23-214-09	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和 直樹	2	8-9月	* 集中講義(8-9月)	*2
23-214-10	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(2)	非常勤講師	濱中 義隆	2	A1A2		*2
23-214-11	大学経営政策特殊研究	比較大学経営論(2)	教授	福留 東土	2	8-9月	* 集中講義(8-9月)	*2
23-214-12	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究(1)	准教授	両角 亜希子	2	通年	不定期開講(詳細は 掲示等参照)	*2
23-214-13	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 准教授 客員教授 客員教授	福留 東土 両角 亜希子 小方 直幸 杉本 和弘	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-214-14	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 准教授 客員教授 客員教授	福留 東土 両角 亜希子 小方 直幸 杉本 和弘	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

教育心理学コース

【備考欄の*印は、教育心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-215-01	教授・学習心理学基本研究	学習と問題解決の心理学	非常勤講師	清河 幸子	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-215-02	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	教授	遠藤 利彦	2	S1S2		*2
23-215-03	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達Ⅰ	教授	針生 悦子	2	S1S2		*2
23-215-04	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学Ⅰ	教授	岡田 猛	2	S1S2	合併科目(学際情報 学府)	*2
23-215-05	教育情報科学基本研究	心理統計学特論	准教授	岡田 謙介	2	A1A2		
23-215-06	教育情報科学基本研究	心理統計学演習	准教授	岡田 謙介	2	S1S2		
23-215-07	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情 緒的発達	教授	遠藤 利彦	2	A1A2		*2
23-215-08	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達Ⅱ	教授	針生 悦子	2	A1A2		*2
23-215-09	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学Ⅱ	教授	岡田 猛	2	A1A2	合併科目(学際情報 学府)	*2
23-215-10	教育情報科学特殊研究	心理統計学の近年の展 開	准教授	宇佐美 慧	2	S1S2		
23-215-11	教育情報科学特殊研究	メタ分析	非常勤講師	山田 剛史	2	8-9月	集中講義(8-9月)	

23-215-12	教育情報科学特殊研究	心理測定のための数学的道具	非常勤講師	前川 眞一	2	S1S2		
23-215-13	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-14	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-15	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-16	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-17	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-18	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-19	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-20	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-21	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-22	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-23	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-24	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-25	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-26	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育学専攻 心身発達科学専修

臨床心理学コース

【備考欄の＊印は、臨床心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	教授 講師	下山 晴彦 野中 舞子	1	S1S2	* 修士2年必須	*5
23-216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ）	教授 講師	下山 晴彦 野中 舞子	1	A1A2	* 修士2年必須	*5
23-216-03	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理学特論Ⅰ	教授 講師	下山 晴彦 野中 舞子	2	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-05	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智 正博	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-06	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	教授 准教授	下山 晴彦 滝沢 龍	2	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-07	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	教授 准教授 講師	能智 正博 滝沢 龍 野中 舞子	2	A1A2	* 修士1年必須	*5

23-216-08	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	教授 教授	下山 晴彦 高橋 美保	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	教授 教授 講師	能智 正博 高橋 美保 野中 舞子	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-11	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法Ⅰ	教授	能智 正博	2	S1S2		*2
23-216-12	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法Ⅱ	准教授	滝沢 龍	2	S1S2		*2
23-216-13	臨床心理カリキュラム論特殊研究	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	客員教授	原田 隆之	2	A2	* 集中講義(A2)隔年で開講。2021年度は開講しない。	
23-216-15	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	教授 教授	下山 晴彦 高橋 美保	2	S1S2	* 隔年で開講。2021年度は開講しない。	*5
23-216-16	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用(心の健康教育に関する理論と実践)	教授 講師	下山 晴彦 野中 舞子	2	A1A2	* 隔年で開講。2021年度は開講しない。	
23-216-17	発達臨床心理学特殊研究	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	准教授	滝沢 龍	2	A1A2		*2
23-216-18	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅠ	非常勤講師	日下 華奈子	2	S1S2	*	*2
23-216-19	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅡ	非常勤講師	日下 華奈子	2	A1A2	*	*2
23-216-20	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅢ	非常勤講師	林 潤一郎	2	S1S2	*	
23-216-21	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅣ	非常勤講師	林 潤一郎	2	A1A2	*	
23-216-22	発達臨床心理学特殊研究	障害学演習	教授	福島 智	2	A1A2		*2
23-216-23	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-24	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-25	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-26	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-27	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-28	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-29	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-30	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-31	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-32	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

23-216-33	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	教授 准教授	下山 晴彦 星加 良司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-34	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	教授 准教授	下山 晴彦 星加 良司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-35	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-36	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
	臨床心理システム論特殊研究	コミュニティアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	-	-	2	-	隔年で開講。2020年度は開講しない。	
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(福祉分野に関する理論と支援の展開)	-	-	2	-	* 隔年で開講。2020年度は開講しない。	
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用(教育分野に関する理論と支援の展開)	-	-	2	-	* 隔年で開講。2020年度は開講しない。	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

身体教育学コース

【備考欄の*印は、身体教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-217-01	身体教育学基本研究	身体教育学の諸問題Ⅰ	教授	野崎 大地	2	S1S2		*7
23-217-02	教育生理学基本研究	身体システム論Ⅰ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	S1S2	合併科目(新領域創成科学研究科)	*7
23-217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論Ⅰ	教授	多賀 厳太郎	2	S1		*7
23-217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題Ⅰ	教授 准教授	佐々木 司 東郷 史治	2	S1S2		*6
23-217-05	身体教育学特殊研究	身体教育学の諸問題Ⅱ	教授	野崎 大地	2	A1A2		*7
23-217-06	身体教育学特殊研究	スポーツ脳科学特論	客員教授	柏野 牧夫	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-217-07	教育生理学特殊研究	身体システム論Ⅱ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	A1A2	合併科目(新領域創成科学研究科)	*7
23-217-08	教育生理学特殊研究	日常生活下調査から認知・行動変容までの教育・健康科学応用	客員准教授	菊地 裕絵	2	A2		
23-217-09	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論Ⅱ	教授	多賀 厳太郎	2	A1		*7
23-217-10	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題Ⅱ	教授 准教授	佐々木 司 東郷 史治	2	A1A2		*6
23-217-11	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-12	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-13	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-14	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

23-217-15	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-16	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-17	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-18	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-19	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	准教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-20	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	准教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-21	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-22	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-23	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-24	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-25	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-26	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教職開発コース

【備考欄の*印は、教職開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-301-01	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	授業における学習研究	教授	秋田 喜代美	2	S1S2	隔週	*1
23-301-02	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)	授業研究の理論と方法	教授	藤江 康彦	2	S1		*1
23-301-03	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	保育学研究	教授	秋田 喜代美	2	A1A2	隔週	*3
23-301-04	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)	教職経験の研究	准教授	浅井 幸子	2	S1		*3
23-301-05	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	包摂と排除の教育学:比較教育福祉社会史の視点から	非常勤講師	倉石 一郎	2	S1S2	集中講義(S1S2) 合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*3
23-301-06	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教師の学びと教師教育	非常勤講師	姫野 完治	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*3
23-301-07	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	こども環境デザイン特論	非常勤講師	佐藤 将之	2	A1A2	合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*3
23-301-08	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*1
23-301-09	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	民主主義国家と歴史・政治教育ーオーストリアとドイツの事例から	非常勤講師	近藤 孝弘	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*3
23-301-10	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	A1A2	合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*1
23-301-11	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育法制の理論と展開	非常勤講師	佐藤 修司	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容 開発コース・学校開発 政策コース)	*1

23-301-12	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	准教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教育内容 開発コース)	*1
23-301-13	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	言語教育の事例研究	教授	斎藤 兆史	2	A1A2	合併科目(教育内容 開発コース)	*1
23-301-14	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	人文社会教育の事例研 究	准教授	北村 友人	2	S1	合併科目(教育内容 開発コース)	*3
23-301-15	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	授業の実地研究	教授	藤江 康彦	2	A1A2	合併科目(教育内容 開発コース)	*1
23-301-16	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	藤村 宣之	2	A1A2	合併科目(教育内容 開発コース)	*1
23-301-17	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	教授	秋田 喜代美	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-18	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	教授	秋田 喜代美	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-19	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-20	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-21	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	准教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-22	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	准教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース

【備考欄の*印は、教育内容開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-302-01	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研 究)	数学的・科学的思考の 発達と学習過程	教授	藤村 宣之	2	S1S2		*1
23-302-02	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語教授法	教授	斎藤 兆史	2	S1S2	合併科目(総合文化 研究科)	*1
23-302-03	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts	准教授	北村 友人	2	A1	合併科目(新領域創 成科学研究科・総合 文化研究科)	*3
23-302-04	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	国語科教育の理論と実 践	非常勤講師	濱田 秀行	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*1
23-302-05	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	民主主義国家と歴史・政 治教育ーオーストラリアと ドイツの事例から	非常勤講師	近藤 孝弘	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*3
23-302-06	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*1
23-302-07	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	包摂と排除の教育学:比 較教育福祉社会史の視 点から	非常勤講師	倉石 一郎	2	S1S2	集中講義(S1S2) 合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*3
23-302-08	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教師の学びと教師教育	非常勤講師	姫野 完治	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*3
23-302-09	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	こども環境デザイン特論	非常勤講師	佐藤 将之	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*3
23-302-10	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育法制度の理論と展開	非常勤講師	佐藤 修司	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・学校開発政策 コース)	*1
23-302-11	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	言語教育の事例研究	教授	斎藤 兆史	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース)	*1

23-302-12	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	人文社会教育の事例研究	准教授	北村 友人	2	S1	合併科目(教職開発 コース)	*3
23-302-13	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	准教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教職開発 コース)	*1
23-302-14	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	藤村 宣之	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース)	*1
23-302-15	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	教授	藤江 康彦	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース)	*1
23-302-16	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-17	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-18	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-19	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-20	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	准教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-21	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	准教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-22	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	有本 真紀	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-23	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	有本 真紀	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-24	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	Research Methods in Education	非常勤講師	荒木 啓史	2	A2	集中講義(A2)	

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース

【備考欄の*印は、学校開発政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-303-01	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	教授	勝野 正章	2	S1S2		*1
23-303-02	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策基礎論	准教授	橋野 晶寛	2	S1S2		*3
23-303-03	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	現代教育法の課題	非常勤講師	中川 律	2	S1S2		*3
23-303-04	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策研究方法論	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		*1
23-303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育法制の理論と展開	非常勤講師	佐藤 修司	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*1
23-303-06	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	包摂と排除の教育学:比 較教育福祉社会史の視 点から	非常勤講師	倉石 一郎	2	S1S2	集中講義(S1S2) 合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*3
23-303-07	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	教師の学びと教師教育	非常勤講師	姫野 完治	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*3
23-303-08	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	こども環境デザイン特論	非常勤講師	佐藤 将之	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*3
23-303-09	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	国語科教育の理論と実 践	非常勤講師	濱田 秀行	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*1

23-303-10	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から	非常勤講師	近藤 孝弘	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*3
23-303-11	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	A1A2	合併科目(教職開発 コース・教育内容開発 コース)	*1
23-303-12	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育行政事例研究Ⅲ	非常勤講師	吉良 直	2	A1A2		
23-303-13	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅱ	教授	勝野 正章	2	A1		*3
23-303-14	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)	学校経営実地研究	教授	勝野 正章	2	A1A2		*1
23-303-15	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育政策実地研究	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		
23-303-16	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-17	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-18	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-19	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-20	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-21	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

教職課程認定区分(教科)	記号
中高専修(本学で認定されている課程の教科すべて)	*1
中専修社会・保健体育・保健、高専修地歴・公民・保健体育	*2
小専修、中専修社会、高専修地歴・公民	*3
小専修	*4
中専修社会、高専修公民	*5
中専修保健、高専修保健	*6
中専修保健体育、高専修保健体育	*7

総合教育科学専攻 基礎教育学専修 基礎教育学コース

時 間 割 コー ド	23-211-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山名 淳				
授 業 科 目	教育哲学基本研究				
講 義 題 目	教育哲学演習 I Seminar in Educational Philosophy I				

授 業 の 目 標・概 要	教育哲学・思想史にかかわる人物とその哲学・思想をとりあげ、その内容について検討を行う。可能な限り、授業担当者の主たる研究関心である「記憶」と「想起」というテーマとのかかわりにおいて、それらの内容を批判的に吟味したい。本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)(集合的)記憶論および想起文化論との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。
授 業 計 画	前年度の授業においては、哲学の領域における記憶論を中心に検討を行った。今年度は、その関心を引き継ぎつつ、より積極的に教育哲学・思想史との対話可能性も探りたい。関連文献を授業担当者が挙げた後、文献ごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。ゲスト・スピーカーを招いて他分野における記憶論についての情報に積極的にふれ、教育哲学との対話の機会となることを企画している。最後に、各受講生の立場から記憶と想起に関する期末レポートをまとめてもらう。
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、担当者による報告(あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー)を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式(グループ討議か全体討議か)については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次回の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	とくに指定しない。授業時に関連資料を配付する。
履 修 上 の 注 意・備 考	「教育哲学演習Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育思想演習 Seminar in Educational Thought				

授 業 の 目 標・概 要	教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。夏学期は、東京でオリンピックが予定されていることをふまえ、ベンヤミンが「政治の美学化」として批判した全体主義に陥る道を回避するもう一つの可能性は果たしてあるのかどうか、その条件を「芸術の政治化」「教育の政治化」の視点から徹底的に考えてみたい。テキストとしては、予備的考察として、授業担当者(小玉)の近著などを検討した上で、ジェンダー、セクシュアリティ研究の最先端を走るジュディス・バトラの近著『分かれ道』、最新著 The Force of Nonviolence: The Ethical in the Political などを取り上げたい。
授 業 計 画	詳細は、初回の授業時に決めるが、大まかには、以下のような流れを考えている。1 自己紹介とガイダンス 2～3 言語、グローバリゼーション、民族、権力をめぐる諸論文の検討 4～12 バトラ『分かれ道』の検討 12～15 Butler The Force of Nonviolence: The Ethical in the Political の検討
授 業 の 方 法	報告と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	こちらで用意をして参加者に配布の予定。
履修上の注意・備考	初回の授業時に担当の分担を決める予定。
そ の 他	
関連ホームページ	http://researchmap.jp/read0190814/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育人間学基本演習 Basic Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	「徳倫理学と道徳教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).加藤尚武・児玉聡編(2015)『徳倫理学基本論文集』勁草書房。
履 修 上 の 注 意・備 考	正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史基本研究				
講 義 題 目	日本教育史演習 I Seminar in Japanese Educational History I				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度はまずは博士課程院生ならびに修論執筆者の研究発表を中心に行い、後半において、M1 による研究発表を行うことにする。
授 業 計 画	第一回:オリエンテーション第二回:事例検討 1 第三回:事例検討 2 第四回:事例検討 3 第五回:事例検討 4 第六回:事例検討 5 第七回:事例検討 6 第八回:事例検討 7 第九回:事例検討 8 第十回:事例検討 9 第十一回:事例検討 10 第十二回:事例検討 11 第十三回:まとめ
授 業 の 方 法	S1 については基本的にオンラインで行う。ただし、状況に応じて、数人ずつを教場で、他をオンラインで、など、臨機応変に開催方法を工夫するものとする。また、コロナウィルスが収束していた場合、S2 についてはすべて教場開催に戻す可能性もある。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/584035169

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	教育臨床学基本演習 Basic Seminar in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業の到達目標は、現代教育を規定している諸概念について、臨床哲学的な考察を行うことである。教育の臨床哲学は、人間一人ひとりのかけがえない「一つの命」に応答することを教育の基本様態と位置づけつつ、存在論的な深みから、ひとがよりよく生きる方途としての教育を構想する試みである。教育臨床学の基礎概念を思想史的知見を踏まえつつ確認することで、よりよく生きるための教育の基礎づくりを試みる。
授 業 計 画	第1回 授業の概要(教育臨床学)第2回 教育の臨床哲学第3回 人間性への問い第4回 人間性の歴史第5回 主体性への問い第6回 主体性の歴史第7回 何が人間的・主体的と呼ばれるのか第8回 デューイのデモクラシー第9回 デューイの経験第10回 デューイの自然第11回 大正新教育の思想1第12回 大正新教育の思想2第13回 大正新教育の実践1第14回 大正新教育の実践2第15回 授業のまとめと最終レポート
授 業 の 方 法	教育臨床学の基本的な方法は、私たちがよりよく生きるために、そしてよりよい教育を構想するために、私たち自身の思考様式を批判的に考察することである。そのために、現代社会における主要な教育概念を取りあげ、その前提命題を問い直しつつ、その機能・逆機能を把握する。授業は基本的に演習形態である。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業の初回に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	履修者は、教科書や参考書を適宜読み込み、報告・議論の準備をしてください。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅰ Seminar in Clinical PhenomenologyⅠ				

授 業 の 目 標・概 要	【授業の目標】現象学の創始者であるエドムント・フッサールは、他者について以下のように記述している。「私固有のものの類似物」、「私の変様体であり、他の自我」、「原理的に私にとって原本的には近づきえない心」、「他者は……たいていはうまく近づけない」等々(『デカルト的省察』より)。本授業では、私たちにとって他者とはどういう存在者であり、そうした他者を理解するとはどういうことなのか(そもそも他者は理解できるのか?)ということについて、フッサールの他者経験論を手がかりにしながら考えることを目的としている。【授業の概略】授業の概略は以下のとおりである。まず、『デカルト的省察』の第5省察で展開しているフッサールの他者経験論を確認する。そのうえで、フッサールの他者経験論に基づいた質的研究(児童養護施設の子どもたちの他者経験／他者理解の変遷を追った事例研究)を抜粋しながら読み進めていく。具体的な事例を手がかりにすることで、受講者自身のこれまでの他者理解や他者経験と共鳴させ、〈他者とは何か?〉〈他者理解とは何か?〉という問いについて具体的に考えられることを期待している。事例研究の面白さは、書き手の経験と読者の経験(かけ離れた経験である場合もある)が共鳴し、読者の記憶を呼び覚ますところにある。と同時に、事例の解釈が変わることにより、これまでは忘却されていた記憶が、その事例に連なる出来事として想起されるところにも面白さがある。私たちは同じ事例に何度も出会い直すことができるのである。現象学に基づく事例研究ばかりでは飽きてくるので、適宜、人間の普遍的な在りようについて描いている(と考えられる)小説、エッセイ、漫画なども題材としながら、他者と他者理解についての思考を深めたい。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション:質的研究の難しさ 第2回 文献講読①:〈最たる超越〉としての他者 第3回 文献講読②:『デカルト的省察』第5省察 第4回 文献講読③:『デカルト的省察』第5省察 第5回 文献講読④:『デカルト的省察』第5省察 第6回 文献講読⑤:『デカルト的省察』第5省察 第7回 文献講読⑥:『デカルト的省察』第5省察 第8回 閑話休題:穂村弘のエッセイ 第9回 文献講読⑦:第1章 相互主観性理論(1) 第10回 文献講読⑧:第1章 相互主観性理論(2) 第11回 文献講読⑨:第3章 一方向的な感情移入 第12回 文献講読⑩:第3章 身体感覚と感情の共有 第13回 文献講読⑪:第4章 身体的な他者／世界理解(1) 第14回 文献講読⑫:第4章 身体的な他者／世界理解(2) 第15回 閑話休題 授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店(基本的に邦訳を使うが、意味がわからない場合には、適宜原著や英訳を参照する)大塚類 2009『施設で暮らす子どもたちの成長:他者と共に生きることへの現象学的まなざし』(東京大学出版会)←データで渡します
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の進め方について相談したいので、第1回目の授業への出席をお願いします。当事者性をもった積極的な参加を期待します。できれば通年での受講が望ましいです。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-07	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、片山 勝茂、大塚 類				
授 業 科 目	基礎教育学特殊研究				
講 義 題 目	基礎教育学総合演習 Colloquium in Basic Theories of Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。
授 業 計 画	それぞれの回の担当者は早めに決めて、十分な準備をしてもらう。そして当日、それぞれのコース内容に従った特定の研究対象について、系統的なプレゼンテーションをしてもらう。その後、教官全員、ならびに当日の参加者との間で質疑応答をする一年を通して、取り上げるのが特定のコースに集中しないように、適宜バランスをとる事に配慮する
授 業 の 方 法	研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの院生は必ず履修すること
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学特殊研究				
講 義 題 目	教育哲学演習 II Seminar in Educational Philosophy II				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育哲学・思想史にかかわる人物とその哲学・思想をとりあげ、その内容について検討を行う。可能な限り、授業担当者の主たる研究関心である「記憶」と「想起」というテーマとのかかわりにおいて、それらの内容を批判的に吟味したい。本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)(集合的)記憶論および想起文化論との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を得ることができる。
授 業 計 画	前年度の授業においては、哲学の領域における記憶論を中心に検討を行った。今年度は、その関心を引き継ぎつつ、より積極的に教育哲学・思想史との対話可能性も探りたい。関連文献を授業担当者が挙げた後、文献ごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。ゲスト・スピーカーを招いて他分野における記憶論についての情報に積極的にふれ、教育哲学との対話の機会となることを企画している。最後に、各受講生の立場から記憶と想起に関する期末レポートをまとめてもらう。
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、担当者による報告(あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー)を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式(グループ討議か全体討議か)については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	とくに指定しない。授業時に関連資料を配付する。
履修上の注意・備考	「教育哲学演習 I」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。冬学期は、夏学期の議論をふまえて、政治学と美学の交差する地平をジェンダー論やセクシュアリティ論の成果をふまえて検討する。特に、社会で周辺化され、言葉を奪われた存在が自らのこばを持つ可能性とその条件を、考えたい。秋にはアメリカ大統領選が予定されており、そこでの争点となるであろう周辺化されるものたちの視点からの排除と包摂の論理の組みかえに迫るために、テキストとしては、夏学期の文献に加えて、スピヴァク『ナショナリズムと想像力』、『サバルタンは語ることができるか』、アレント『カント政治哲学講義録』等を検討したい。
授 業 計 画	詳細は、初回の授業時に決めるが、大まかには以下のような流れを考えている。1 ガイダンスと自己紹介 2 「言葉を奪われた存在が自らのこばを持つ可能性とその条件」に関する基調報告(小玉) 3～8 スピヴァク『ナショナリズムと想像力』、『サバルタンは語ることができるか』の検討 9～15 アレント『カント政治哲学講義録』の検討
授 業 の 方 法	報告と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	こちらで用意して参加者に配布の予定。
履修上の注意・備考	初回の授業時に分担等を行う予定。
そ の 他	
関連ホームページ	http://researchmap.jp/read0190814/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育人間学特殊研究 Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	「教育人間学基本演習」に引き続き、「徳倫理学と道德教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献（教科書）を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、（他の人々とコミュニケーションをとりながら）批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と（疑問点や討論の論点を提示する）コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	Department for Education (2019) Character Education: Framework Guidance (Department for Education).R・ハーストハウス(2014)『徳倫理学について』土橋茂樹訳、知泉書館。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	日本教育史演習Ⅱ Seminar in Japanese Educational History Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は「高度経済成長と教育実践」をテーマとし、後期についても引き続き、1960年代の教育実践を取り上げる。
授 業 計 画	各人の関心による個別論文発表。
授 業 の 方 法	予め指定した文献について各人の発表とそれに基づく集団討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。前期受講者の参加が望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-12	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	山内 紀幸				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	教育思想史特殊講義 III History of Educational Thought III				

授 業 の 目 標・概 要	一般に教育現象を捉えるとき、心理学や認知科学を通じて、そのエビデンスが明らかにされる。しかし、そうした科学は「教育とは何か」の一端を顕にすることはできても、「教育はどうあるべきか」という決定には寄与しない。教育における意思決定を支えるものは「教育思想」である(今井 2009)。エビデンスに対して、「教育思想」は優位性を有している。学校教育システムにしても、現代の子育てにしても、そこには「教育思想」が介在し、日々の意思決定を支えている。この「教育思想」はどのように探究できるだろうか。「教育思想」は現代社会において突如として現れるものでなく、制度、経済、民族、科学の様々なベクトルが交差する中で、歴史の中で生成されてくるものである。教育思想の歴史を問題にするということは、現代の「教育思想」を歴史的な産物とみなし、それを絶えず相対化していくことを要請する。かつては、自分たちが当たり前と思っているものとは全く違った教育思想も存在してきた。それを知ることで、自分たちの「教育思想」がすべてでないことに気付くだろう。また、教育思想の展開を追うことで、自分たちの教育思想が歴史的産物であり、今後に変化していくことを理解するだろう。本講義は、「教育思想史特殊講義Ⅱ」に引き続き、古典といわれる教育思想家から現代の教育思想家までを探究し、その教育思想の時代性に迫っていく。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. プラトン: イデアと教育の理想 3. コメニウス: すべての人にすべてを教えるとは 4. ルソー: 教育論に秘めた社会改革の野望 5. フレーベル: 「恩物」に隠された秘密を探れ 6. ヘルバルト: 「教育的タクト」はいかにして養成できるのか 7. モンテッソーリ: 「規律は自由を通じて生まれる」のか 8. キルパトリック: 「プロジェクト」の源流を辿る 9. 倉橋惣三: 保育とは何か 10. フーコー: 国民に仕立て上げる方法 11. ルーマン: 人を教えることはできるのか 12. ハンナア-レント: 子どもによる世界の刷新とは 13. まとめ
授 業 の 方 法	演習形式。アクティブラーニング型の授業をめざし、受講者がトピックを抽選で選び、内容をプレゼンテーションする。最後に雑誌としてまとめていく
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	なし。以下の参考書を参照
履 修 上 の 注 意・備 考	※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学特殊研究				
講 義 題 目	教育臨床学演習 Seminar in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	この演習では、「教育臨床学概説」を踏まえつつ、水と油のように違うと考えられてきた、ハイデガーの存在論と、デューイの経験論の重なりを確かめ、そこに、現代教育学の基礎を見いだす、という試みである。自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基本概念は、この存在論と経験論の方なりのなかで、より確かなものとして再構成される。
授 業 計 画	第1回 教育臨床学の目的第2回 教育臨床学の方法第3回 教育臨床学の概念第4回 臨床哲学の主題1——ハイデガーの存在論 1 第5回 臨床哲学の主題2——ハイデガーの存在論 2 第6回 臨床哲学の主題3——ハイデガーの存在論 3 第7回 臨床哲学の主題4——存在と共存在 第8回 臨床哲学の主題5——存在論の可能性第9回 臨床哲学の主題6——デューイの経験論 1 第10回 臨床哲学の主題7——デューイの経験論 2 第11回 臨床哲学の主題8——デューイの経験論 3 第12回 教育の関係性1——経験と自然第13回 教育の関係性2——経験論の可能性第14回 教育の関係性3——教育学の基礎概念第15回 演習のまとめと最終レポート
授 業 の 方 法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発言分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学特殊研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅱ Seminar in Clinical PhenomenologyⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	【授業の目標】現象学の創始者であるエドムント・フッサールは、他者について以下のように記述している。「私固有のものの類似物」、「私の変様体であり、他の自我」、「原理的に私にとって原本的には近づけない心」、「他者は……たいていはうまく近づけない」等々（『デカルト的省察』より）。本授業では、私たちにとって他者とはどういう存在者であり、そうした他者を理解するとはどういうことなのか（そもそも他者は理解できるのか？）ということについて、フッサールの他者経験論を手がかりにしながら考えることを目的としている。【授業の概略】授業の概略は以下のとおりである。前期から引き続き、フッサールの他者経験論に基づいた質的研究（児童養護施設の子どもの他者経験／他者理解の変遷を追った事例研究）を抜粋しながら読み進めていく。具体的な事例を手がかりにすることで、受講者自身のこれまでの他者理解や他者経験と共鳴させ、〈他者とは何か？〉〈他者理解とは何か？〉という問いについて具体的に考えられることを期待している。事例研究の面白さは、書き手の経験と読者の経験（かけ離れた経験である場合もある）が共鳴し、読者の記憶を呼び覚ますところにある。と同時に、事例の解釈が変わることにより、これまでは忘却されていた記憶が、その事例に連なる出来事として想起されるところにも面白さがある。私たちは同じ事例に何度も出会い直すことができるのである。現象学に基づく事例研究ばかりでは飽きてくるので、適宜、人間の普遍的な在りようについて描いている（と考えられる）小説、エッセイ、漫画なども題材としながら、他者と他者理解についての思考を深めたい。授業の後半は、受講者の興味関心に基づく文献購読になる予定。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション 第2回 文献講読①：第5章(1)期待が外れるという否定 第3回 文献講読②：第5章(2)他者から蒙る否定 第4回 文献講読③：第6章(1)身体接触の変化 第5回 文献講読④：第6章(2)身体接触に基づく過去の再想起 第6回 文献講読⑤：第7章(1)他者のなかの一人である哀しみ 第7回 文献講読⑥：第7章(2)共同主観となることによる新たな哀しみ 第8回 閑話休題①：楳図かずお「戦闘」 第9回 閑話休題②：楳図かずお「戦闘」 第10回 閑話休題③：楳図かずお「戦闘」 第11回 文献講読⑦：受講者による提案 第12回 文献購読⑧：受講者による提案 第13回 文献購読⑨：受講者による提案 第14回 文献購読⑩：受講者による提案 第15回 本講義のまとめ 授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になるとと思われる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	大塚類 2009 『施設で暮らす子どもたちの成長：他者と共に生きることへの現象学的まなざし』（東京大学出版会）←データで渡します
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の進め方について相談したいので、第1回目の授業への出席をお願いします。当事者性をもった積極的な参加を期待します。前期からの続きになります。できれば通年で受講が望ましいです。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履 修 上 の 注 意・備 考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	http://researchmap.jp/read0190814/
オ ン ラ イ ン 授 業 U R L	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履 修 上 の 注 意・備 考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	http://researchmap.jp/read0190814/
オ ン ラ イ ン 授 業 U R L	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて履修すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	原則として、週に一回の集団指導を浅井幸子准教授と合同で行う。そのほか、適宜、必要に応じて個別指導をする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-211-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	原則として、週に一回の集団指導を浅井幸子准教授と合同で行う。そのほか、適宜、必要に応じて個別指導をする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜指示する
履修上の注意・備考	研究室に所属する博士課程院生は履修すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 比較教育社会学コース

時 間 割 コー ド	23-212-01	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	現代日本社会における教育・仕事・家族 Education, Work and Family in the Present Japanese Society				

授 業 の 目 標・概 要	日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取るとともに現実の中で活動している方々に接することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれへの対策について認識を深める。一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画第1回：オリエンテーションおよび概論第2回：近年の教育政策の動向第3回：教育と貧困第4回：教育機会と教育費第5回：教育内容と教育方法第6回：教育理念と政治思想第7回：公教育のゆらぎ第8回：家族の現状第9回：家族政策の動向第10回：少子化と子育て第11回：仕事の現状第12回：労働政策の動向第13回：教育と仕事の接合第14回：仕事と家族の両立第15回：期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	文献を講読する授業と、多様なゲスト(NPO や行政職員、研究者など)を招いて議論をする授業とを組み合わせることにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	テキストは初回の授業で指示する。
履修上の注意・備考	現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-02	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	市民社会・国家・教育 Civil Society, State, and Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学ではこれまで選抜・配分を中心的なテーマとしてきたが、近年では、シティズンシップ教育や政治的公共性にも注目するようになりつつある。しかし、社会学の観点からシティズンシップ教育を捉える上で重要なことは、思弁的な議論に耽溺したり一部の事例を称揚することではなく、経験的にその存立構造や機能を明らかにすることである。実際に後期近代社会では、多くの場合、政治的公共圏が無前提に成立することも、「市民主体なるもの」が素朴に成立することもなく、政治的コミュニケーションは多様な形で阻害・忌避・抑制されている。この点を踏まえた上で、本授業では、市民的コミュニケーションの成立／不全のメカニズムについて、相互行為のシステムや制度的環境との連関の中で、適切に捉えていくための枠組を検討していく。
授 業 計 画	第 1 回：イントロダクション 第 2 回～第 13 回：テキスト購読に基づくディスカッション 第 14 回：総括討論とまとめ
授 業 の 方 法	毎回指定された文献や論文を購読し、レジュメで内容を確認した上で、ディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	テーマに関心があれば専門領域は問わない。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	http://www016.upp.so-net.ne.jp/nihenori
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-03	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論基本研究				
講 義 題 目	高等教育の社会学 I Sociology of Higher Education I				

授 業 の 目 標・概 要	近代大学の誕生から産業化・知識社会化に伴う発展、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育の制度・政策・組織・歴史・科学・言説などの変容と課題を中心に、基本的な国内外の社会学的な理論・分析アプローチを学修する。
授 業 計 画	第1回:イントロダクション:高等教育研究の概要 第2回:知識と組織第3回:権威と調整第4回:制度と信念第5回:統合と分化第6回:高等教育へのアクセス第7回:大学教授職第8回:カレッジ・インパクト第9回:大学文化と外部環境第10回:高等教育界の政治第11回:高等教育をめぐる言説研究第12回:高等教育の政策過程 第13回:総括討論
授 業 の 方 法	毎回、様々な重要論文を取り上げ、その内容紹介とレビューを各一人ずつ担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	リーディングスはコピーを用意する。随時指定。パートン・クラーク(有本訳)1983=1994『高等教育システム:大学組織の比較社会学』東信堂 P・ガンポート(伊藤・橋本・阿曾沼監訳)2007=2015『高等教育の社会学』玉川大学出版部 Tight, M. 2012, Researching higher education (2nd ed), Open University Press.Tight, M. 2019, Higher education research: the developing field
履 修 上 の 注 意・備 考	S2(金 5・6 限)の「高等教育の社会学Ⅱ」と連続開講を予定している。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-04	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学の諸概念 Concepts in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において頻繁に用いられる重要概念は多数あるが、そのなかには必ずしも十分な理解がなされずに使用されたり、あるいは原典とは異なる意味で用いられるようになったりした用語もある。この授業では、そうした諸概念を毎週テーマとして取り上げ、原典の講読とその応用事例の講読を対比的に進める中で、当該概念のもつ意味を深く理解することにより、教育社会学的研究の基礎力を高めることを目指す。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回 ミニ原典講読+ミニ応用事例検討第3回 教育社会学の概念①原典講読第4回 教育社会学の概念①応用事例検討第5回 教育社会学の概念②原典講読第6回 教育社会学の概念②応用事例検討第7回 教育社会学の概念③原典講読第8回 教育社会学の概念③応用事例検討第9回 教育社会学の概念④原典講読第10回 教育社会学の概念④応用事例検討第11回 教育社会学の概念⑤原典講読第12回 教育社会学の概念⑤応用事例検討第13回 教育社会学の概念⑥原典講読第14回 教育社会学の概念⑥応用事例検討
授 業 の 方 法	指定された文献について、毎回報告者を決めて内容を報告してもらう。そのうえで、内容理解のためのディスカッションを行なう。応用事例の検討についても同様に行ない、同時に原典との対比において何がわかるのかという観点からのディスカッションも行ないたい。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	初回に説明する。
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	三輪 哲				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学方法論研究 Research Methods in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育社会学研究において重要性の高い中級レベルの多変量解析の技法について、理論的基礎と統計ソフトウェアを用いた実践的技能を学ぶ。さらには得られた結果から教育社会学的解釈を引き出す考察能力を涵養する。扱う題材は、マクロレベルでは教育政策の効果や地域と学校教育の関係など、ミクロレベルでは学生/生徒の意識・行動・事故リスクとその変化など、多岐にわたる。授業においては、各自が機器を操作しつつ、受講者によるテキスト講読発表、補足的講義、分析実習を併用しながら進行する。なお、より初歩的な内容から学びたい者には、S1S2 にて開講する「文化・人間情報学特論 XXI」(学際情報学府)を先に受講しておくことを推奨する。
授 業 計 画	今年度は、「傾向スコア法」に焦点をあてる。1: 多変量解析の基本 2: 多変量解析の展開 3: 傾向スコア法の基礎概念 4: 分析実習 1(ソフトウェア操作入門、記述統計など) 5: 共変量選択と傾向スコア推定 6: 分析実習 2(線形モデル、一般化線形モデル) 7: 傾向スコア調整の方法 8: 分析実習 3(傾向スコアを用いた層別解析、マッチング、ウェイト) 9: 共変量評価と因果効果推定 10: 分析実習 4(その他の傾向スコア法) 11: 傾向スコア法の限界と困難への対処 12: 分析実習 5(Treatment effect model など関連する技法) 13: 実証論文事例にみる傾向スコア法なお、内容については受講者の状況に応じて柔軟に対応する予定である。
授 業 の 方 法	講義,演習,実習
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	Bai, H. and M. H. Clark, 2018, Propensity Score Methods and Applications, Sage.
履 修 上 の 注 意・備 考	ほぼ毎回、課題が課されることになる。分析法の教育社会学研究への応用に主眼を置くため、推定・検定など詳細な統計学的知識に関心がある者は参考書等により別途自学されたい。
そ の 他	本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習(実習)科目」として認定される授業科目である(予定)。社会調査士資格については、 http://jasr.or.jp/ を参照のこと。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-06	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	比較教育学基本研究				
講 義 題 目	質的方法論研究 I Qualitative Research Methods I				

授 業 の 目 標・概 要	本講義はオンライン講義として作られている。質的方法の特徴、有効性、量的方法との違いや相互補完性、質的方法のいくつかの主要系譜の特徴(例 エスノグラフィー、ライフヒストリー、グラウンデッド・セオリー、質的事例研究)を理解した上で、質的方法の中でも、フィールド・ノーツの作成とコーディングの過程に焦点を当て、それを、実際に教育の場等の映像を用いながら学んでいく。リサーチ・クエスションの設定と質的方法の特性を生かした用い方がどのようなものなのか、どのような課題があり、どのような長所があるのか、また、基本的な方法として、どのような点に注意していけばいいのかを、理解することを目指す。
授 業 計 画	第一回目に講義内容を説明する。
授 業 の 方 法	講義、学校等の映像を用いたフィールドノーツのとり方と分析方法、オンラインでのグループでの討論とクラス全体での発表討論を組み合わせた形式になる。演習形式のため、毎回のオンラインの出席と課題提出を含めた作業・練習をこなすことが前提となっている。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業の初回に入手方法を知らせる。
履修上の注意・備考	二時間続きである。また、限られた回数で質的方法の基礎を習得することを目指す演習のため、確実に参加することが重要である。
そ の 他	社会調査士科目
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/827954933

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会学の研究課題 Research Issues in the Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。
授 業 計 画	第1回:オリエンテーション第2回:教育とガバナリティ第3回:教育と自己アイデンティティ第4回:教育とエビデンス、アカウンタビリティ第5回:教育とネオリベリズム第6回:「能力」の社会的構成第7回:メリトクラシーとインドクトリネーション第8回:グローバル化と資本主義の多様性第9回:ナショナリズムと排外主義第10回:第4次産業革命とソサエティ 5.0 第11回:スキル偏向的技術変化と教育第12回:ストリート官僚制と過剰包摂第13回:圧縮された近代・半圧縮近代・ポスト近代第14回:ダイバーシティ・権利・自由第15回:期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	学部において「教育社会学概論」および「教育社会学理論演習」を事前に履修していることが望ましいが、他大学からの大学院進学者でも受講できる。欧米を中心とした教育社会学の先端的イシューと研究方法を知ることができる授業であるため、教育社会学分野で研究を進めようとする者はもちろん、教育学および社会科学全般に従事する者および教育現場・教育行政に関わる者にとって有益な知識を得ることができる。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-08	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育改革の国際比較研究 Educational Reform : Cross-National Comparisons				

授 業 の 目 標・概 要	今日、世界各国で教育改革が行なわれ、情報が行き交い、国際学力テストで高得点をあげた国・地域には海外からの視察団が集中するような状況も生まれています。本講義では、グローバルなアジェンダになっているテーマの中から、1) 国際的競争力、「グローバル人材」育成(例 英語、グローバル競争に向けた STEM 教育)、2) 社会的公正の実現(例 民族・人種のマイノリティをはじめとした文化的マイノリティへの対応、貧困問題)、3) 従来の教科以外の領域の能力をも含めて、全人的に子供を伸ばす教育(例 社会情動的な教育、価値教育)に注目し、日本の教育改革を一つの軸にしながら、いくつかの国を戦略的に取り上げ、国を越えて共有する共通課題や国際的な教育改革レトリック、それと各国の個別的な文脈とを組み合わせながら、現代における教育のあり方について理解を深めます。テーマに関連した実践の場での観察を入れながら、考察を深めてゆきます。海外のゲスト・スピーカーなどをオンラインでお願いする予定である(通訳付)。
授 業 計 画	第一、二回 日本の教育改革「グローバル人材」、社会的公正、全人的な教育 2020年(本年度)、小学校から新学習指導要領の実施から始まります。今回の改革が、どのような社会に向けて、どのような資質・能力を育成しようとしているのか、諸外国の例や国際的議論に照らし合わせながら(資料を配布)考えてゆきます。各自の今までの研究を生かした議論をしながら、理解を深めていきたいと思います。1) OECD のグローバル・コンピテンシー。日本版のグローバル・コンピテンシーはいかなるものなのでしょうか。日本の「グローバル人材」論の批判的検討。シンガポールの「グローバル人材」教育。グローバリゼーションと国家形成。2) 小学校英語。参照、他の東アジア、韓国、中国の小学校英語。東南アジアの英語教育の模索、マレーシア、シンガポール。第三、四回前の週の内容を発展させる形で、新しい学習指導要領の実施に伴い、外国語教育、プログラミング教育、「主体的・対話的で深い学び」等、教員が直面している変化を軸にして、小学校観察、ないし、映像で検討をし、海外や日本の教師、研究者をゲスト・スピーカー(オンライン)として招きながら、学校の変化をどのように考えて行けばよいのかを考察します。第五、六回 教育の質と平等(1) 少子高齢社会、人口減少社会の日本では、外国人・移民の増加、公正な多文化共生社会の構築の必要性が求められます。多文化共生に向けての課題を映し出す教育の場の映像と資料を用いながら、ヴァリエーション、類型化、課題や可能性等を検討します。第七、八回 教育の質と平等 (2) 移民国家アメリカでは、教育の質と平等の両立は継続的に教育改革のテーマであり続けてきました。この教育の質と平等の問題について、講義と公民権運動、ハウジングにおける差別等の記録映像(日本語解説付)、資料分析、グループ討論等を予定しています。第九、十回 貧困子供の貧困に関わる場の訪問、ないし、ゲスト・スピーカーによる活動紹介(状況により対面ないしオンライン)、映像の検討を行ないながら、配布資料(データ)を用いて考察する。グループ討論。第十一、十二回 全人的な教育1) イスラム的な教育モデル(植民地支配のレガシーと脱却) ゲスト・スピーカー(マレーシアからの客員教授)。2) 社会情動的な学習(social and emotional learning)―欧米モデルを考える。CASEL。3) 東アジア。中国。韓国。道徳、価値教育、全人的な教育。第十三、十四回本講義内容に関して、自分の研究と結び付けながら、問題提起(発表)をしながら、議論をする。全体のまとめ。
授 業 の 方 法	講義、学生の発表、映像とゲスト・スピーカーによる話題提供、を組み合わせます。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	二時間続けて受講すること。
そ の 他	
関連ホームページ	https://ryokotsuneyoshi.jimdosite.com/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-09	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育言説の社会学 Sociology of Discourse on Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはワークも活用しながら理解を深めていきたい。なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、卒業論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の布置を理解できるようになることが主な目的である。
授 業 計 画	第1回:イントロダクション第2回～第14回:テキスト購読に基づくディスカッション
授 業 の 方 法	毎回指定された文献や論文を購読し、ディスカッションを行う。担当者は議論喚起的なレジュメを作成する。一部のテーマについては、自分で分析を試行するワークを併用する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で指示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する論文は事前にしっかり読むこと。言説を用いる予定のある人、すでに研究を進めている人は、疑問点などを整理しておくこと。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www016.upp.so-net.ne.jp/nihenori/ (担当者の HP)
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-10	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	障害の社会理論を読む Social Theories of Disability				

授 業 の 目 標・概 要	<目的・目標>「障害(disability)」という現象は、「できなさ(disability)」を生み出し、意味づけ、価値づける社会の営みの合わせ鏡である。このように考えるとき、「障害」を解消しようとする試みは、社会変革を志向する企てとなり、その社会の中で既得権を持つ人々からの抵抗を呼び起こすものとなる。この授業では、ここに生じるコンフリクトを解きほぐすための手がかりを探りたい。<授業概要>1980年代に英米で学問分野として成立したディスアビリティ・スタディーズ(障害学)において、従来障害者個人への介入を志向する、医学を中核とした実践科学によって担われてきた障害研究は、ディスアビリティの構築に関与している現行の社会のありようを問うという、すぐれて社会学的なテーマと接続することになった。本授業ではこのパラダイムシフトの持つ意味を確認した上で、障害平等に向けた実践の基礎理論についての検討を行う。
授 業 計 画	1. ガイダンス2. 障害概念の探究 13. 障害概念の探究 24. 障害概念の探究 35. 障害概念の探究 46. 「障害平等」をめぐる理念と課題 17. 「障害平等」をめぐる理念と課題 28. 「障害平等」をめぐる理念と課題 39. 「障害平等」をめぐる理念と課題 410. 自由報告 111. 自由報告 212. 自由報告 313. 自由報告 4※受講者の人数や関心等により内容を変更することがある。
授 業 の 方 法	受講生による文献報告をはじめ、ディスカッションを中心に授業を展開する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会の計量分析 Quantitative Analyses of Educational Society				

授 業 の 目 標・概 要	既存の社会調査データを比較検討したうえで、実際に調査を企画・設計して実施し、データ分析をおこなうことを通じて、社会調査に関する実践的な知識・技術を習得することを目的とする。講義では、各自の興味・関心にもとづいて調査テーマを決め、それと関連した既存調査データを検討して、調査票の設計、母集団やサンプリング、面接調査か郵送調査かといった調査法など、適切な方法を選んで調査を企画する。調査実施後、調査票の点検・ナンバリング等のエディティング、入力・クリーニングをおこない、さらにデータ分析にもとづく論文を執筆することで、知識・技術を身につけていく。
授 業 計 画	1 社会調査の方法: 入手可能な既存の社会調査データを紹介し、そのうちの典型的な調査について、どのような調査方法をもっているかを確認することで、社会調査方法論について実践的に学習する 2 社会調査データの特徴: 社会調査データの構造と変数既存調査の調査票とデータセットを検討し、質問項目の背後にある仮説および変数の種類(名義・順序・間隔・比率)について学習し、属性項目の度数分布からサンプリングの偏りなどを検討する 3 調査の企画(1): 各自の問題関心に合わせて調査テーマを決定し、それにもとづく調査計画を企画する。母集団の選定、サンプリング、調査方法を選定する 4 調査の企画(2): 調査仮説にもとづいて、目的変数・説明変数・統制変数を決定し、それぞれの尺度を選択する 5 調査票の設計: 既存調査の質問項目を参考にしながら、調査仮説を踏まえた質問項目を設計し、質問紙全体の構造化をおこない、ワーディングについて学習し、調査票を確定する 6 調査実施の準備: 調査スケジュールを確定し、関係機関へのサンプリング依頼状、サンプリング方法の検討、調査対象者本人への調査依頼状などを、調査倫理をふまえて作成する 7 調査の実施: 調査の実施各自の分担を決め、調査を実施する 8 回収調査票とエディティング: 回収した調査票の点検・ナンバリング、アフターコーディングをおこない、データ入力の準備をする。9 データ入力とクリーニング: 入力とクリーニング各自で分担して入力をおこない、クリーニングを完了させ、単純集計票およびコードブックを作成する 10 基礎的分析と検定: 単純集計およびクロス集計表による分析と解釈、 χ^2 乗検定について学習し、検定の概念を理解する 11 回帰分析のバリエーション: 相関係数から単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析について学習し、回帰分析の概念と方法を理解する 12 グラフ作成と論文執筆: 分析結果の効果的な図表化、ときにグラフ作成について学習し、それをふまえた論文執筆をおこなう 13 中間発表と講評および最終レポートに向けての指導: 分析にもとづく論文作成の中間発表をおこない、より適切な論文構成や図表の表示、論旨の明確化などを指導する
授 業 の 方 法	講義・演習形式。各回、講義に続いて演習問題に解答する。また、中間発表でのプレゼンテーションをおこなう。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	配布資料をもちいる。
履修上の注意・備考	かなりの作業量になるので、この点をふまえて履修すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 史子				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	Ethnicity, Nationalism and Education Ethnicity, Nationalism and Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	<Course Objectives>- The aim of this course is to learn the basic concepts and theories relevant to ethnicity, nationalism and education and discuss them in class to improve understanding.- To critically read the classical and current literature on the topics mentioned above and to consider how it relates to the student's own research.<Expected Outcomes of This Course>The students will be able to • explain the basic concepts and theories of ethnicity, nationalism and education. • critically discuss and evaluate the recent studies of the topics mentioned above, and • consider and explain the contributions of their own research to the international discussions of the field. If a student is conducting research or has a research proposal on the relevant topics, he/she is expected to present it, including an explanation of how it is related to what we learned in this course.
授 業 計 画	(1) Introduction(2) Traditional Theories of Ethnicity and Nationalism(3) Traditional Theories of Ethnicity and Nationalism (cont.)(4) National Identity and Citizenship(5) Attitude toward Immigrants(6) Multiculturalism and Nationalism(7) Returned Assimilation(8) Review(9) Acculturation of Immigrants and Education(10) Multicultural Education(11) Critical Race Theory and Whiteness in Education(12) Students' Presentations(13) Students' Presentations (cont.)
授 業 の 方 法	To better understand the literature, it is important for all the students to finish the reading assignments before each class and contribute to the class discussions.
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	Please find the selected reading list for reference. The complete reading list will be uploaded on the website and distributed in class.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	If you are thinking of taking this course, please attend the class meeting on the first week.If you cannot make it, please contact me via email.
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	https://multicultural-japan.jimdofree.com/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-13	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	小針 誠				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育と子どもの歴史社会学 Historical Sociology of Education and Childhoods in modern Japan				

授 業 の 目 標・概 要	教育や子どもの歴史社会学を志す研究者は、関連する国内外の先行研究をどのように乗り越え、どのような知見を新たに提示すべきなのだろうか。本演習では、本や論文に「書いてあること」の理解(知識・技能)にとどまらず、批判的な読みを通じた「書評」の作成、史資料の分析と発表、相互批評という主体的・対話的で深いコミットメントを通じて、研究活動で求められる思考力・判断力・表現力の向上を目指す(なお、学びに向かう力や人間性等は前提条件であり、その“向上”までは求めない)。修士課程の院生は、何ができる(書ける)ようになるかが研究上重要な資質・能力になり、博士課程の院生においては、ともすれば問題関心が狭小になり、「身の丈」に合った手堅い論文を小綺麗にまとめることに専心する傾向にあるものだが、歴史的アプローチも含めて、これまで特に関心を寄せることのなかった理論や方法論に触れる経験は、今後長らく続くであろう研究活動の幅を広げる意味でも有益であろう。
授 業 計 画	第 1～2 回(11/19)ガイダンス、教育と子どもの歴史社会学について(講義)第 3～4 回(11/26)モダニティと教育第 5～6 回(12/3)子どもの多様性第 7～8 回(12/10)学歴と選抜第 9～10 回(12/17)新教育と教育実践第 11～12 回(12/24)戦後教育・子ども史第 13～14 回(1/14)各自の研究報告
授 業 の 方 法	各回では、講読文献の内容紹介と「書評」(履修者全員が提出)の検討をもとに、主体的・対話的に議論を行い、自身の研究テーマや問題関心を深める。なお、詳細は初回のガイダンスで説明するので履修希望者は必ず出席すること。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	小針誠『増補新版 教育と子どもの社会史』(近刊・仮題)。その他は授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	歴史研究に関連する文献を講読し、歴史的な視点から分析や考察が求められるので、日本(教育)史の基礎知識、歴史社会学や教育社会学などについての理論と方法の習得が履修上の前提条件である。また、前述「授業の目標・概要」をアイロニカルに解読できるかどうか履修の向き不向きの判断材料になるだろう。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-14	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論特殊研究				
講 義 題 目	高等教育の社会学Ⅱ Sociology of Higher Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育研究の分析対象とその分析手法を広く概観しかつ深く洞察することで、研究のフロンティアを開拓し、またそれらの実証的な分析を試みる際の論点・ 이슈の発掘を手助けする。特に高等教育の政策・歴史・制度・組織などに焦点を絞り、それらに関する国内外の社会科学的な理論・分析アプローチを学習し、調査研究・論文執筆の技法を習得する。また、その研究内容のプレゼンテーションなどにおいても、説得的な方法を学ぶ。
授 業 計 画	第1回: イントロダクション: 高等教育研究の概要 第2~4回: 制度・組織としての高等教育 第5~7回: 高等教育界の政治・政策 第8~10回: 高等教育をめぐる言説研究 第11~13回: 事例研究ならびに総括討論
授 業 の 方 法	毎回、様々な重要論文を取り上げ、その内容紹介とレビューを各一人ずつ担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	リーディングスはコピーを用意する。随時指定。Huisman, J. & Tight, M. (Eds.) (2019), Theory and method in higher education research, Emerald Group Publishing Limited. Stage, F. K., & Manning, K. (Eds.) (2016), Research in the college context: approach and methods, Routledge
履修上の注意・備考	S1(金5・6限)の「高等教育の社会学Ⅰ」と連続開講を予定しており、履修していることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論特殊研究				
講 義 題 目	教育と選抜の諸問題 Issues in Education and Selection				

授 業 の 目 標・概 要	教育と選抜に関わる諸問題を理解するうえで重要な基本的文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。
授 業 計 画	この授業は1日につき1つの文献を読み進めていく。授業前半は文献講読に、後半はグループディスカッションと総括討論を行なう。
授 業 の 方 法	毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。文献については初回授業時に示す。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	初回授業時に示す。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-16	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	質的方法論研究Ⅱ Qualitative Research Methods Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。具体的には文献購読とデータを使った演習を組み合わせながら以下の 3 点を扱う。1) 質的方法論の基本的知識に関する文献購読 2) 質的方法論を使った文献の批判的考察 3) 学校参与観察の実践およびデータ分析授業では特にリフレキシビティ(再帰性)に自覚的である近年の質的研究法における展開に注目する。調査者と被調査者の関係性や、調査者の属性、立場や権力性がデータ収集や解釈に及ぼす影響について議論しながら、質的研究法がどのように理論生成へとつながり、人々の意味世界の理解に役立つかという点を考える。
授 業 計 画	第1週 質的研究法とはなにか: 特長・リサーチ デザイン・発展の経緯第2週 1. 参与観察のプロセス: データ収集からエスノグラフィー執筆まで2. 現場で生起する問題: アクセス、ポジショナリティ、ラポール、倫理的問題第3週 小学校訪問・参与観察第4週 1. 質的研究の評価: 信頼性、妥当性、「文化を書く」以後の新しい評価基準2. フィールドノーツの書き方: 学校フィールドノーツの検討第5週 1. 質的研究における理論とデータの関係、理論的サンプリング、コーディング2. コーディングから仮説生成へ: 学校フィールドノーツの検討第6週 1. インタビューの技法2. エスノグラフィーを書く 第7週 プロジェクト発表
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	フリック, U. 2011 『新版 質的研究入門—人間の科学のための方法論』春秋社. エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社
履修上の注意・備考	積極的に議論に参加し、グループプロジェクトに従事することを求める。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-17	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	グローバル時代の国際移動と教育 International Migration and Education in the Era of Globalization				

授 業 の 目 標・概 要	21 世紀は「移民の時代」といわれる。グローバル化の進展によって人・モノ・情報の国境を越えた移動が加速化し、一国内の多民族化・多文化化が進む中、これまでの国民国家を前提とした教育はさまざまな挑戦をつきつけられている。本講義ではグローバリゼーションやトランスナショナリズムを背景とした移民の増加が、どのように日本の学校教育、家族、地域社会に影響を及ぼしているかという問題について、国際比較の視点から理解を深める。特に、移民の若者や子どもたちがホスト社会において直面する文化的・構造的障壁について、階層、ジェンダー、人種、エスニシティの視点を交えて考察を行う。多文化主義、批判的多文化教育、市民性教育の展開について学び、マイノリティのエンパワーメントと教育の関係性について具体的事例をもとに検討する機会を提供する。
授 業 計 画	第一週 イントロダクション: 日本における移民受入れの背景・状況・教育的課題第二週 移民の子どものホスト社会への適応過程第三週 移民家族の資本と教育意識第四週 移民の子どもと学校文化第五週 移民コミュニティの役割第六週 批判的多文化教育・市民性教育第七週 個人プロジェクト発表
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考える一子どもたちを取り巻くグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版.
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求める
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-212-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に無し。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に無し。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡本 智周				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。また 2020 年度には、2019 年度に早稲田大学共生教育社会学研究室が実施した「共生社会と歴史認識に関する調査」から得られたデータを用いて、受講者各人の社会に向けた問いを分析・考察する活動を行う。一人あたり4～6ページほどの小論稿を執筆し、全体をとりまとめて論考集(報告書)を発行する。この論考集には学外の社会学研究者や他大学の学生・院生も参加し、多様な観点からの分析知見を交換することとしたい。
授 業 計 画	第 1 回: オリエンテーション(授業の目的と概要について) 第 2 回: 研究発表と討議 第 3 回: 研究発表と討議 第 4 回: 研究発表と討議 第 5 回: 研究発表と討議 第 6 回: 研究発表と討議 第 7 回: 研究発表と討議 第 8 回: 研究発表と討議 第 9 回: 研究発表と討議 第 10 回: 研究発表と討議 第 11 回: 研究発表と討議 第 12 回: 研究発表と討議 第 13 回: 総括と補遺
授 業 の 方 法	受講者の研究発表と討論によって学修を深める。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』ミネルヴァ書房、2018 年。岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016 年。岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の中で論じられた現象や概念については、自ら調べることが必要となる。
そ の 他	授業計画は、受講者の人数や関心によって適宜変更を行う場合がある。
関 連 ホーム ページ	http://ubiquitous.image.coocan.jp/index.htm
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡本 智周				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。また 2020 年度には、2019 年度に早稲田大学共生教育社会学研究室が実施した「共生社会と歴史認識に関する調査」から得られたデータを用いて、受講者各人の社会に向けた問いを分析・考察する活動を行う。一人あたり4～6ページほどの小論稿を執筆し、全体をとりまとめて論考集(報告書)を発行する。この論考集には学外の社会学研究者や他大学の学生・院生も参加し、多様な観点からの分析知見を交換することとしたい。
授 業 計 画	第 1 回: オリエンテーション(授業の目的と概要について) 第 2 回: 研究発表と討議 第 3 回: 研究発表と討議 第 4 回: 研究発表と討議 第 5 回: 研究発表と討議 第 6 回: 研究発表と討議 第 7 回: 研究発表と討議 第 8 回: 研究発表と討議 第 9 回: 研究発表と討議 第 10 回: 研究発表と討議 第 11 回: 研究発表と討議 第 12 回: 研究発表と討議 第 13 回: 総括と補遺
授 業 の 方 法	受講者の研究発表と討論によって学修を深める。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』ミネルヴァ書房、2018 年。岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016 年。岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の中で論じられた現象や概念については、自ら調べることが必要となる。
そ の 他	授業計画は、受講者の人数や関心によって適宜変更を行う場合がある。
関 連 ホーム ページ	http://ubiquitous.image.coocan.jp/index.htm
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、修士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tknaka/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-33	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tknaka/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-34	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学論文指導。リサーチ・クエスチョン、研究計画、論文執筆、既存研究の把握、オリジナリティ等について、各自の研究に沿って指導をする。個別指導と集団指導を組み合わせる。
授 業 計 画	初回指導ゼミにて説明する。
授 業 の 方 法	発表、討論形式、個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	レジメは二日前までに配布する。
そ の 他	
関連ホームページ	https://ryokotsuneyoshi.jimdosite.com/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-35	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	恒吉 僚子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	研究を進める上での基礎をおさえながら、個別の研究計画や調査、論文に対して論文指導をしてゆく。個別指導と集団指導を組み合わせる。
授 業 計 画	初回に説明する。
授 業 の 方 法	個別指導と集団指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	発表二日前までに提出する。
そ の 他	
関連ホームページ	https://ryokotsuneyoshi.jimdosite.com/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-36	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している修士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-37	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している博士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 生涯学習基盤経営コース

時 間 割 コード	23-213-01	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論基本研究				
講 義 題 目	生涯学習論基本研究Ⅱ Theory of Lifelong LearningⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。今年度は、集中講義で行うため、講読ゼミが基本となる。今年は公民館とまちづくりをテーマにとりあげる。文献研究の中心的なテーマは「公民館はどう語られてきたのか」「公民館をどう実践してゆくのか」とし、戦後に構想され、急速に社会に普及した社会教育・生涯学習の基本的かつ中心的施設である公民館のあり方や機能に対して、どのような議論がなされ、それがどのような社会的な要請を背景にしていたのか、その結果、公民館はどのように変容したのか、そしてそれはどう実践されてきていて、それを今度どう実践していくべきなのかをとらえ、社会教育・生涯学習の実践のあり方への理解を通して、教育・学習という営みと社会とのかかわりを理解する。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論とくに公民館に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。基本的に文献講読を中心に進めるが、必要に応じてフィールド調査、ワークショップ、グループワークなどを行う。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとり、グループ討議を通して、各自の研究の視点と枠組みを発展させる。また、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあり方を体得する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018年)。牧野篤『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018年)。牧野篤『公民館をどう実践してゆくのか—小さな社会をたくさんつくる・2』(東京大学出版会、2019年)。このほか、テーマにより、適宜紹介する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	影 浦 峽				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 基 本 研 究				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 研 究 方 法 論 Research Methods of Library and Information Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 研 究 に 関 連 す る 具 体 的 な 方 法 論 を 身 に つ け る 。 対 人 調 査 方 法 論 、 文 献 研 究 方 法 論 、 計 量 研 究 方 法 論 等 、 方 法 論 の 観 点 か ら 、 お よ び 、 翻 訳 研 究 、 図 書 館 研 究 、 知 識 基 盤 研 究 と い っ た テー マ の 観 点 か ら 、 学 生 の 関 心 を 考 慮 し 、 参 加 者 の 状 況 に 応 じ て 重 点 的 な 学 習 対 象 を 決 め る 。
授 業 計 画	第1回：概要紹介と参加者のグループ化第2回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分第3回～第12回：課題に対応した方法論の検討と議論第13回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ
授 業 の 方 法	授業初回に参加者を3つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特になし。
そ の 他	グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な準備だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。ただし、履修学生の関心等に応じて、内容は大幅に変更するかもしれない。
関 連 ホー ム ペー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学基本研究				
講 義 題 目	図書館情報学総合研究 Topics in Library and Information Science				

授 業 の 目 標・概 要	大学院生の修士論文・博士論文のテーマを中心に、図書館情報学の重要課題について、全員で議論し、研究方法や内容について相互理解を深める。
授 業 計 画	第 1 回 全体の調整とスケジュールリング第 2 回 研究計画・テーマ発表(2名)第3回 研究計画・テーマ発表(2名)第 4 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 5 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 6 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 7 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 8 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 9 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 10 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 11 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 12 回 修士論文検討会第 13 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 14 回 研究計画・テーマ発表(2名)
授 業 の 方 法	参加者の発表と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使わない。
履 修 上 の 注 意・備 考	図書館情報学研究室の大学院生は全員必修とする。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-04	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論特殊研究				
講 義 題 目	生涯学習論特殊研究Ⅱ Seminar in Lifelong LearningⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとる。各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	各テーマに応じて指定する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-05	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論特殊研究				
講 義 題 目	生涯学習論特殊研究 I Seminar in Lifelong Learning I				

授 業 の 目 標・概 要	生涯学習・社会教育研究の蓄積について学び、各人の研究の基盤とすることをめざす。
授 業 計 画	文献講読を中心に進める。
授 業 の 方 法	演習形式による。初回オリエンテーションに参加すること。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業開始時に示す。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コード	23-213-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	安田 節之				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	プログラム評価論 Theory and Methods of Evaluating Programs				

授 業 の 目 標・概 要	教育機関や企業組織そして地域コミュニティには、対人援助・人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在する。これらの実践・介入活動に対して説明責任や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっている。本授業では、様々な実践・介入活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を学ぶ。プログラムの価値は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的效果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高い。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. プログラム評価の目的と評価者・ステークホルダー3. プログラムニーズの種類とアセスメントの方法4. ゴールの明確化5. インパクト理論6. ロジックモデル7. 個人・グループ発表8. 評価可能性アセスメントと評価クエスチョン9. アウトカム評価の概要と評価指標の作成10. 実験・準実験デザインによるアウトカム評価11. プログラムの導入(インプリメンテーション)評価とプロセス評価12. 評価アプローチ①(社会科学・理論主導、他)13. 評価アプローチ②(実用重視・エンパワメント、他)14. 評価報告書・技術報告書(テクニカルレポート)の内容と作成方法 15. 総 括
授 業 の 方 法	講義、ディスカッション、演習(個人・グループワーク)を中心に行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	安田節之『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』新曜社, 2011 年
履修上の注意・備考	※授業は夏季休業中の集中講義期間に実施します。※すでに携わっている実践・介入活動やプログラムがあることが望ましいです。※教科書『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』(安田節之, 新曜社, 2011 年)は事前に一読しておいてください。授業時に本の内容を踏まえたディスカッションを行います。
そ の 他	
関連ホームページ	http://programevaluationlab.jp/training/program-evaluation/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-07	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	久井 英輔				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	社会教育学・生涯学習論研究 Research on Adult Education and Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	新中間層に対する教育のまなざしという観点から近現代日本の社会教育の展開を考察することを通じて、これまでに提示されてきた社会教育の理念、実践を多様な角度から捉える視点を持つことを目指します。また、社会教育の歴史研究が実践的かつ学術的であるために求められる問題設定・分析視座について、受講者各自が深く理解することを目指します。
授 業 計 画	1. 社会教育と階層研究の見取り図 2. 生活改善と「中流」のための社会教育 3. 社会改良主義と生活改善 4. 「合理的消費者」と生活改善 5. 生活改善における都市と農村 6. 生活改善と雑誌メディアの受容者 7. 戦後初期・高度成長期の新生活運動 8. 生活学校と新生活運動 9. 団地と戦後新中間層の共同性 10. 社会教育(行政)の戦後構造 11. 社会教育研究の下部構造 12. 社会教育(史)研究における有用性と実践性 13. 社会教育研究における実践的問題設定
授 業 の 方 法	担当教員が指定した講読文献の発表、および、授業テーマに関して受講者が自由に選択した文献(またはテーマ)に基づく発表と、それらを踏まえた討論を中心とします。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	受講者の発表準備に間に合うよう、下記の参考書またはその他の文献から適宜選択し、受講者に提示します。
履修上の注意・備考	単位取得を必要とする場合は、授業内での発表および最終レポート提出(2000字以上)をお願いします。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	情報媒体構造論 Study of the Structure of Information Media				

授 業 の 目 標・概 要	知識媒体の構造について、言語表現から図書の構成までのいずれかのレベルに着目し、知識の展開・記録・伝達・流通を可能にしてきた基盤をめぐる問いの領域を理解するとともに、それに対する研究の広がり理解する。
授 業 計 画	初回に全体の領域を概説する。第 2 回以降は、参加者に課題を割り当て、順次発表及びディスカッションを繰り返す。テーマは、大きく 3 つのブロックに分けて順に扱う。第一は記号と媒体、第二は言語、第三は図書資料。
授 業 の 方 法	講義 1 割、発表 4、ディスカッション 5 で行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特にありませんが、日英両言語での議論を当たり前とみなせること(技術的な問題は別)
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	図書館情報学理論研究 Theory of Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館、図書館情報学に関わる英語文献を輪読する。輪読を通じて、文献の読み方、そして基本的な概念や歴史などについても学んで行く。
授 業 計 画	1 オリエンテーション2-12 テキストの輪読13 まとめ
授 業 の 方 法	テキストの訳読担当者を毎回事前に指定し、輪読を行う。担当者が担当部分を発表した後、参加者による討議や講評を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	Alex Csiszar "The Scientific Journal -Authorship and the Politics of Knowledge in the Nineteenth Century-"(The University of Chicago Press, 2018)デービス・ベアード『物のかたちをした知識 -実験機器の哲学-』(青土社, 2005)[Davis Baird "Thing Knowledge -A Philosophy of Scientific Instrumen
履修上の注意・備考	とくになし。
そ の 他	
関連ホームページ	https://zoom.us/j/317937782
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-10	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	海野 敏				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	図書館と情報資料 Library and information media				

授 業 の 目 標・概 要	図書館と情報資料について、言語表現からコミュニケーションメディアの構成までのいずれかのレベルに着目し、知識の展開、記録、伝達、流通を数量的なデータに基づいて分析する。具体的には、図書館、情報資料に関するテキストまたは数値のデータがある程度以上の規模で収集し(スクレイピング)、十分に吟味して整形し(クリーニング)、研究目的に適合した統計解析の手法を選んで分析を実行する。分析対象の例としては、大規模な目録データベースに収録されている書誌データ、図書館界・出版産業に関する長期的な経年データ、特定主題の文献コレクションの全文データ、特定テーマに言及したソーシャルメディアのメッセージデータなどが考えられる。分析には、R 言語を使用する。最終的には、参加者それぞれが本講義の成果を学術論文としてまとめるか、学会において研究発表することを目標とする。
授 業 計 画	以下は予定であり、参加者の知識と技能、興味と関心に応じて修正する。第 1 回:ガイダンスおよび統計解析の基本概念第 2 回:R 言語の基礎(1):基本文法および作図第 3 回:R 言語の基礎(2):母数の推定・検定と多変量解析第 4 回:R 言語の基礎(3):テキストデータ処理の基礎第 5 回:図書館情報学と計量書誌学第 6 回:R 言語によるテキスト解析(1):書誌データの基本的特徴第 7 回:R 言語によるテキスト解析(2):文字列処理演算と正規表現第 8 回:R 言語によるテキスト解析(3):RMeCab による形態素解析第 9 回:R 言語によるウェブスクレイピング(1):DOM と XPath 第 10 回:R 言語によるウェブスクレイピング(2):HTML ソースの読解手順第 11 回:R 言語によるウェブスクレイピング(3):apply ファミリーとパイプ演算子第 12 回:R 言語によるウェブスクレイピング(4):XML データと API の利用第 13 回:R 言語によるウェブスクレイピング(5):JSON データの処理第 14 回:発表・総合討論 1:学生のプレゼンテーション(1)第 15 回:発表・総合討論 2:学生のプレゼンテーション(2)およびまとめ
授 業 の 方 法	毎回、配付資料を用いた講義 30%、プログラミング実習 40%、発表とディスカッション 30%の時間配分で進行する予定。実習には、学生各自が持参したネット接続可能なノート PC を用いる。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	毎回、オリジナルの資料を配付する。教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	学生各自がネット接続可能なノート PC を持参すること。プログラミングによる数値データおよびテキストデータの処理を当たり前とみなせること(技術的な問題は別)。R 言語を未修得でも履修可。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	根本 彰				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	日本における図書館の思想史 The historical and philosophical context of library in Japan				

授 業 の 目 標・概 要	日本で図書館情報学を成立させるための人文学的な基礎理論を探る。日本では図書館についての言説は実証主義的かつ実用主義的なものに限定されていた。この授業では、その理由も含めて、日本で図書館の学が成り立つための議論をすでに提示されているものに見いだす。読む文献(日本語、英語)は、図書館情報学以外にメディア論、歴史学、思想史、教育学、社会学等に求める。少々、難解なものも含まれることを覚悟してほしい。
授 業 計 画	第 1 回 図書館情報学とは何か 第 2 回 ハイパーコントロール社会について 第 3 回 言葉の永続性(頭のなかに辞書はない) 第 4 回 知識を位置付ける—中心と周縁 第 5 回 閲覧室と無限 第 6 回 洪水の後に(バベルの壮大な写真帖) 第 7 回 「教育のメディア史」の構想:文字社会と出版文化 第 8 回 記録される思想／流通する思想 第 9 回 近世蔵書文化論 第 10 回 明治期における学問編成と図書館 第 11 回 索引の誕生 第 12 回 テキスト空間の再構成—『柳田国男全集』の試み 第 13 回 ヒューマンライブラリーの多様性とアフォーダンス 第 14 回 まとめ(1) 第 15 回 まとめ(2)
授 業 の 方 法	事前に指定リストの文献を読んで、コメントペーパーを提出する。これを出席者間で共有しつつ議論する。コメントペーパーには授業のレスポンスを書いてもよい。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教科書は使わない。第一回目に指定文献のリストを配布する。
履修上の注意・備考	東大出版会の「図書館情報学シリーズ」全 3 巻の内容を理解している程度の知識があることが履修の前提となる。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	博士院生として、自らの研究課題を大事にしながら、自分の研究の方向性をつくるよう、努力して欲しい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせる。必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	大学院生としての自覚を持って、積極的に参加すること。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峽				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 ・ 言 語 情 報 処 理 ・ 計 量 語 彙 論 ・ 情 報 メ デ ィ ア 論 分 野 で 修 士 ・ 博 士 論 文 の 執 筆 を め ざ す 大 学 院 生 の た め に 、 個 別 お よ び グ ル ー プ で 論 文 指 導 を 行 う 。 修 士 課 程 2 年 お よ び 博 士 課 程 3 年 以 上 の 場 合 は 修 士 論 文 お よ び 博 士 論 文 の 執 筆 お よ び 提 出 を 、 そ れ 以 外 の 年 次 の 学 生 に は 、 修 士 論 文 、 博 士 論 文 に つ な が る 学 会 発 表 、 論 文 執 筆 を 交 え な が ら 各 段 階 で 必 要 な ノ ウ ハ ウ お よ び 蓄 積 を 蓄 え る こ と を 目 標 と す る 。
授 業 計 画	初 回 に 、 各 自 、 自 分 の 研 究 テ マ と 年 度 の 目 標 を 提 出 し て も ら い 、 そ れ に 応 じ て 、 各 自 の 目 標 を 設 定 す る と と も に 、 個 別 指 導 お よ び 全 体 指 導 の ス ケ ジ ュ ー ル を 決 め る 。
授 業 の 方 法	第 1 回 : 研 究 テ マ 、 年 度 目 標 の 提 出 と そ れ に 基 づ く 議 論 第 2 回 - 第 4 回 : 個 別 指 導 第 5 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 6 回 - 第 9 回 : 個 別 指 導 第 10 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 11 回 - 第 14 回 : 個 別 指 導 第 15 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換
成 績 評 価 方 法	選 択 入 力 / Select Input
教 科 書	用 い な い 。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特 に な し
そ の 他	特 に な し
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	海野 敏				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学、情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程 2 年および博士課程 3 年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-23	単 位 数	2	学 期	通年
担 当 教 員	海野 敏				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 大学経営・政策コース

時 間 割 コード	23-214-01	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	比較大学論 Comparative Study in Universities				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、大学を比較と歴史の視点から探究することにより、大学に関する複眼的かつ幅広い視野を獲得することを目指す。主にアメリカの大学を対象に講義を行うが、アメリカの大学に関する知識を習得すること自体が目的ではなく、比較史的考察を通して、各人が「大学とは何か」に関する思考を深めることを重視する。アメリカの大学システムは高度な多様性を備えており、その多様性の検討を通して、大学・高等教育のあり方を多角的に検討し、我々の持つ大学像を拡張することが本授業の主な目的となる。さらには、教育や学術、社会との連携など、多方面でこれまで様々な取組が行われてきた歴史を振り返る中で、現代の問題にも通じる、大学・高等教育の本質的な使命や課題にアプローチする視座を、本授業を通して培ってもらいたい。
授 業 計 画	1.大学の比較・歴史研究とは何か 2.大学教育とガバナンスを巡る討論 3.アメリカの大学システム 4.アメリカの多様な大学 5.カレッジの成立—植民地カレッジ 6.大学の公と私—ダートマスカレッジ・ケース 7.カレッジの教育—イェール・レポートを巡って 8.実務的教育と大学—ランドグラント・カレッジの成立と展開 9.宗教と科学—進化論の受容と反発 10.研究大学の成立—学術研究と大学院教育 11.拡大と多様化・競争・協調・標準化—19 世紀末から 20 世紀前半の大学 12.20 世紀の大学とリベラル・エデュケーション 13.大衆化・民主化・統制—戦後の大学
授 業 の 方 法	講義形式と討論とを併用する。授業中にできるだけ議論の時間を確保するため、事前講義を配信するので、必ず聴いた上で授業に参加すること。また、受講生は期末レポートの中間発表を各自一回授業中に行う。期末レポートは以下のいずれかにより作成すること。(1)海外の個別大学をひとつ取り上げ、その歴史や現状について論じる。(2)特定のテーマを立てて、比較または歴史の観点からそのテーマについて論じる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	主に講師作成の資料による。以下は授業前半で用いる論文の一部。詳細は開講時に指示する。Roger Geiger, "Ten Generations of American Higher Education." Robert Birnbaum, "Governance and Management: US Experiences and Implication for Japan's Higher Education." William Tierney, "Globalization, International
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-02	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福留 東土、両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策演習(1) Seminar on Higher Education Policy and Management (1)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育研究に関わる課題設定, 方法論, 論文執筆に関わる基礎的な作法や考え方を修得することを目的とする。受講者による論文の協同執筆による投稿論文の執筆を主とした取組を考えている。
授 業 計 画	予め授業のテーマ設定は行わず, 受講者の関心と高等教育研究の動向を踏まえて, 年間の取り組み課題を決定する。個々の受講者の課題関心も考慮するが, 高等教育研究に対する視野を拡げるため, 例えば他の受講者が設定した課題であっても, その共有や取り組みを前提とする。アプローチ方法も, 量的, 質的, そして資料分析など, 設定された課題に応じて選択する。なお, 受講者数によって, 取り上げる課題の数等が変更となる場合がある。①導入②第 1 クール: テーマの設定③第 1 クール: 課題設定・先行研究の検討・枠組の決定④第 1 クール: 論文執筆(導入と方法)⑤第 1 クール: 論文執筆(考察Ⅰ)⑥第 1 クール: 論文執筆(考察Ⅱ)⑦第 1 クール: 論文執筆(結論と全体の見直し)⑧第 2 クール: テーマの設定⑨第 2 クール: 課題考察・先行研究の検討・枠組の決定⑩第 2 クール: 論文執筆(導入と方法)⑪第 2 クール: 論文執筆(考察Ⅰ)⑫第 2 クール: 論文執筆(考察Ⅱ)⑬第 2 クール: 論文執筆(結論と全体の見直し)
授 業 の 方 法	受講者は毎回の授業の狙いと成果を理解し, 担当箇所について予め準備・執筆を行い, 授業時に持ちよって, 改善・改訂を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	どのテーマ・方法論を採用するかは, 授業時に受講者の関心も踏まえながら, 受講者間での調整を含めて決定する。
履 修 上 の 注 意・備 考	この授業は通年で隔週に実施される予定。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福留 東土、両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策研究 Research Methods for Higher Education Policy and Management				

授 業 の 目 標・概 要	論文作成に必要な知識、技能、考え方等を講義・演習形式を組み合わせで修得する
授 業 計 画	1:導入(高等教育研究とは)2:論文講読(大学経営①)3:論文講読(大学経営②)4:論文講読(比較大学①)5:論文講読(比較大学②)6:論文講読(大学政策①)7:論文講読(大学政策②)8:協同学習①9:協同学習②10:個人発表前半(関心と課題)11:個人発表後半(関心と課題)12:個人発表前半(先行研究と方法)13:個人発表後半(先行研究と方法)
授 業 の 方 法	受講者全員に同様に取り組んでもらうものと、個々の学生の関心に応じて取り組んでもらうものとを組合せ、共同で学び発表するスタイルと、個人で学び発表するスタイルの双方を用いる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-214-04	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営論 Management of University				

授 業 の 目 標・概 要	大学の経営について、基礎的な知識を身につけるとともに、その現代的な問題点について各自の問題意識を発展させる。
授 業 計 画	下記の内容を扱う予定だが、受講生の関心を見つつ微修正する可能性はある。主に日本の大学を念頭に進めるが、適宜、国際比較をしながら理解を深めてもらう。(1)ガイダンス、日本の大学の制度的特徴(2)大学のガバナンス①(国公立)(3)大学のガバナンス②(私立)(4)大学の組織モデル(5)大学の組織文化とリーダーシップ(6)大学の組織編制原理(7)大学の施設マネジメント①(国公立)(8)大学の施設マネジメント②(私立)(9)大学の人事マネジメント①(教職員)(10)大学の人事マネジメント②(管理職・経営者)(11)大学の財務①(制度的特徴、財務構造、補助金制度)(12)大学の財務マネジメント②(財務指標による分析)(13)大学の戦略・計画・IR、合併と連携
授 業 の 方 法	講義のほかに、グループ学習や履修者による発表などを行う予定。特に今回は、3・4 限の連続授業となるため、1 日に 1 つのテーマを扱い、それに関する事前学習、グループ・クラス討議、そのうえでの講義といった組み合わせで理解を深める予定である。積極的に参加してもらいたい。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に用いない。授業中に必要に応じて参考資料を配布する。
履修上の注意・備考	履修予定で初回の授業に出られない場合は、前日までにメールにて連絡すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	両角 亜希子、石橋 晶、松坂 浩史				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育政策論 Higher Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、日本の大学政策を国立と私立という設置者の相違にも依拠しながら、法制面からの日本の大学制度の成り立ちの基本構造や、現行の大学政策の形成過程のメカニズムを理解した上で、特定の政策課題を取り上げて、受講生とともに議論する。
授 業 計 画	この授業は3名の講師で行う。現行の高等教育政策を理解するだけでなく、高等教育政策を批判的に考察する力を養うことを目的とする。テーマの内容は受講者の数や授業時点の政治・政策の状況によって変わる可能性があるため、授業時に提示することとして、テーマと想定される主たる分野・領域の提示をここでは行う。①導入②高等教育政策①:学術改革③高等教育政策②:教育改革④高等教育政策③:接続改革⑤大学の法制①:憲法、教育基本法、学校教育法⑥大学の法制②:大学設置基準⑦大学の法制③:私学法、国立大学法人法⑧大学の対応:テーマ1(グループワーク)⑨大学の対応:テーマ1(発表)⑩大学の対応:テーマ2(グループワーク)⑪大学の対応:テーマ2(発表)⑫大学の対応:テーマ3(グループワーク)⑬大学の対応:テーマ3(発表)
授 業 の 方 法	授業時に提示するテキストや資料の精読・解説を行うと同時に、グループワーク等を通じた資料の読み込みや報告も適宜入れ込みながら進める予定。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	授業時に提示・配布する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-06	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	小方 直幸				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育論 Introduction to Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、既に実体面では多様化が進行し議論することが困難となっているようにもみえ、他方で高等教育政策上は一面的に捉えられているという印象も拭えない、大学と何なのか、いい換えれば大学の理念を中心に扱う。現在大学をめぐるのは、様々な課題や改革の議論がなされているが、大学の根本を不問にしたものや、歴史的に繰り返し指摘されてきたことも少なくない。そのため、現在どうあるか、とか、これからどうすべきか、というモードとは一歩ひいた視点から大学とは何かを見つめ直すこととし、古典から近年の議論に至るまで可能な限り網羅的に取り上げながら、受講生と共に考察する。
授 業 計 画	①欧州の大学論で、19世紀から20世紀にかけて、イギリスやドイツで展開されたもの、②20世紀半ば以降のアメリカの大学論、等を取り上げつつ、③現在の大学改革・経営や黒糖教育政策との関係を批判的に考察する。なお、授業で取り上げる文献や内容は、受講者の理解や関心状況に応じて、途中で変更や改訂、追加や削除が行われることがある。①導入②イギリスー教養教育型の大学理念(1)③イギリス(2)④ドイツー研究型の大学理念(1)⑤ドイツ(2)⑥その他のヨーロッパにおける大学理念⑦アメリカーイギリス・欧州大陸の理念の折衷と独自展開(1)⑧アメリカ(2)⑨アメリカ(3)⑩現代の大学論(1)⑪現代の大学論(2)⑫大学の現場と大学論⑬総括討議
授 業 の 方 法	授業時に提示するテキストや資料の事前の精読・予習を前提とし、それを踏まえて内容の確認、設定課題に対する受講者間のディスカッションを行いつつ進める。なおこの授業はS2ターム、2限連続の授業で行う予定にしている。集中的に学べるものの、予復習内容もその分集中することを前提に受講をして欲しい。また授業時間が長くなるため、講義形式にとどまらない受講者間のディスカッションや書く作業等も適宜取り入れていく予定でいる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	少なくとも授業の前の週に、予習教材としてその都度提示・配布する予定。
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オンライ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	福留 東土、深堀 聡子、大西 晶子、杉本 和弘				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(3) Topics in Higher Education Policy and Management(3)				

授 業 の 目 標・概 要	大学の国際化、グローバル化について、その意義と課題を理解し、大学にもたらす意味について考える。まず、大学の国際化・グローバル化について理論的に把握し、世界各国の動向と戦略を理解する。また、留学の促進と支援、教育の質保証に関する国際動向について理解を深める。さらに、日本の高等教育におけるグローバル化の動向について学び、グローバル化がもたらす意味とそのインパクトについて考える。
授 業 計 画	(杉本担当分)1. 国際化・グローバル化する高等教育の読み方 2. 高等教育におけるグローバル化と地域化 3. 国境を越える高等教育のインパクト 4. 日本の高等教育におけるグローバル化の意味(大西担当分)1. 日本の大学と留学生の受入れ 2. 留学生支援・支援体制の現状と課題 3. 大学の国際化とキャンパス風土 4. 多様性に対応した学生支援(深堀担当分)1. 学修成果に基づく高等教育の質保証 2. 欧州ボローニャ・プロセスとチューニング 3. 学位プログラムの学修目標と授業科目の到達目標をつなぐエキスパート・ジャッジメント 4. 九州大学における教学マネジメントの取組
授 業 の 方 法	講義、および必要に応じてグループディスカッションを取り入れる。受講生は毎回の授業でリフレクションシートを記入・提出すること。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	大西晶子 2017 多様化する学生を支える大学コミュニティの形成—留学生相談の実践を踏まえた検討と今後の課題 教育心理学年報 56 165－185 [配布します]その他、適宜資料を配布する。
履修上の注意・備考	授業には毎回出席すること。事情があり、欠席する場合は事前に福留まで連絡すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	両角 亜希子、佐藤 浩章、浅野 茂、松下 佳代				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(4) Topics in Higher Education Policy and Management(4)				

授 業 の 目 標・概 要	大学が教育目標を達成するために、教学マネジメントを確立させることが求められている。教育目標に基づき、体系的で組織的な教育課程を編成し、目標に即して学習成果を把握・可視化することが必要であり、そうした取り組みを行うための組織体制の整備を行うことが必要である。本講義では、4名の講師が主に下記のような観点から検討し、大学の教学マネジメントのあり方について学ぶことを目的とする。・学修成果とは何で、それをどのように把握し、可視化するのか(松下)・教学マネジメント、特にカリキュラムマネジメントをどのように行うのか(佐藤)・そうした教学マネジメントを支える学内情報分析 Institutional Research(IR)をどのように行うのか(浅野)・教学マネジメントを支える教育担当理事・副学長、教職員に求められる役割や必要な能力は何か(両角)
授 業 計 画	4人の講師がそれぞれ3回ずつ担当するリレー方式で行う。初回の授業までの事前課題(10/3 松下、10/10 浅野、12/12 佐藤)が出ているので、事前課題をしたうえで、授業に臨むこと。授業の日程とそれぞれの回の担当者は以下の通り。9/26 両角①10/3 松下①10/10 浅野①10/17 松下②10/24 松下③10/31 浅野②11/7 両角②11/28 両角③12/5 浅野③12/12 佐藤①12/19 佐藤②12/26 佐藤③担当者別の内容は以下の通り。(松下担当分)学習成果(学修成果)とは何で、それをどのように把握し、可視化するのか1)学習成果の意味とその可視化 10/32)プログラムレベルの学習成果の評価の方法 10/173)学習成果の可視化の光と影 10/24(事前課題)下記の文献をあらかじめ読んでおくこと(文献のコピーは9/26に配布する)松下佳代(2017)「学習成果とその可視化」『高等教育研究のニューフロンティア(高等教育研究 第20集)』玉川大学出版部, pp. 93-112。(佐藤担当分)教学マネジメント、特にカリキュラムマネジメントをどのように行うのか1)教学マネジメントの構造ー4層モデルとPDCM サイクルー 12/122)カリキュラムの設計ー4つのポリシーの策定と一貫性構築ー 12/193)カリキュラムの評価とメタ学習ーカリキュラム再設計に向けたプロセスー 12/26(事前課題)1)2)3)について準備しておくこと。事前課題1)に必要な文献のコピーは、9/26に配布する。1)事前課題:下記の文献をあらかじめ読んでおくこと。佐藤浩章(2019)「教学マネジメントの構造ーシステムとしての4層モデルの提案ー」『IDEー現代の高等教育』Vol.612, pp.20-25、2019年7月号2)事前課題:所属組織の4つのポリシー(DP:ディプロマポリシー、CP:カリキュラムポリシー、AP:アドミッションポリシー、CAP:カリキュラムアセスメントポリシー)を調べて講師とクラスメートに説明できるようにしておくこと(講師への提出資料は不要)。全学レベルのものであるが、各学位プログラムレベルのものでも構わない。3)事前課題:所属組織のカリキュラム評価の実施状況ならびに評価結果を調べて講師とクラスメートに説明できるようにしておくこと(教員への提出資料は不要)。注 1)2)3)のいずれの課題においても、所属組織に関する当該情報が得られない場合がある。その場合は、情報収集にあたって何を行い、どこまでの情報が得られて、どこからの情報が得られなかったのかという、課題遂行のプロセスを説明できるようにしておくこと。(浅野担当分)担当講義の目標:IRとは何か、なぜ必要とされ、何が出来るのかについて、実践を交えて理解する1)IR 概論:定義、政策動向、日本の大学の現状 10/102)IR 実践:データ収集と分析 10/313)IR 実践:データ活用とレポート 12/5(事前課題)初回講義までの事前課題として「所属組織のIRの現状を整理し、講師とクラスメートに説明できるようにしておく」こと。(両角担当分)担当授業の目標:教学マネジメントを支えるために必要な人材について考え、理解を深める1)上級管理職の役割 9/262)教員の役割 11/73)職員の役割 11/28(事前課題)4名の講師の授業の全体にかかわる内容であるため、文部科学省の「教学マネジメント指針」(各自、ウェブサイトから入手)を読み、感じたことを「A4 1枚以内(片面でも両面でも可、一番上に名前を記載)」にまとめて、初回の授業(9/26)で提出すること。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行うが、部分的にグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。それぞれの担当講師の指示に従うこと。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input

教 科 書	とくに指定しない。授業で資料を配布する。
履修上の注意・備考	授業日程をよく確認の上、毎回の講義に出席し、課題をすべて提出すること。
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	大多和 直樹				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(1) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)				

授 業 の 目 標・概 要	・高等教育を対象とした社会調査の基礎を身につけることを目標とする。修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数量的データの二次分析(エクセル統計等を利用)を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。
授 業 計 画	1. ガイダンス～社会調査:知的創造のためのデータ収集法2. 問いの重要性:研究は問いから始まる3. 問いから仮説へ4. 仮説検証を行う:クロス分析とは5. 検定の考え方:カイニ乗検定6. アウトプット=論文に触れる7. 質問紙の作成法:ワーディングと構成8. サンプリング9. 質的方法に触れる 10. 統計の基礎 11. 回帰分析の考え方<ミニ演習>12.ミニ演習 1 13.ミニ演習 2 14.ミニ演習 315.まとめ
授 業 の 方 法	社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習(既存調査データの二次分析)を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳『社会調査の基礎』弘文堂 2010
履修上の注意・備考	最初から最後まで通して参加できる学生に限る。
そ の 他	授業では統計解析を実際に行うが、その際、各自解析ソフトを用意することが求められる(SPSS が好ましい)。これについては最初の授業の際に説明する(まだ持っていない受講生は、それまでは購入等はしないほうが望ましい)。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	濱中 義隆				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(2) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (2)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育政策のみならず様々な社会的事象を分析する際の基礎となるデータ解析の手法について、統計学的な理論的知識を修得するとともに、実際に既存のデータを分析してみることを通して、幅広く自らの研究や実務に応用することができるようになることを目標とする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが、データ分析に用いるソフトウェア(表計算ソフトや統計パッケージ)の使い方については講義時間中に十分説明することは困難なため、各自で別途学習することが求められる。
授 業 計 画	1 イントロダクション 調査統計の思想と技法(量的調査と質的調査) 2 量的調査の基礎(操作化、測定、変数) 3 度数分布表と記述統計量 4 2つの変数間の関係の記述(クロス集計表、散布図、相関係数) 5 推測統計学の基礎(確率、期待値、確率分布) 6 統計的推測と統計的仮説検定の考え方..... 7 課題発表(1) 8 分散分析と回帰分析 9 多変量解析の考え方(擬似関係、媒介関係、交互作用とは) 10 三重クロス表の分析 11 重回帰分析とパス解析 12 ロジスティック回帰とカテゴリカルデータ分析 13 課題発表(2) 14 課題発表(2) 15 試験
授 業 の 方 法	講義と演習(課題発表)(上記授業計画参照)
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	指定しない
履修上の注意・備考	受講生は夏学期の「高等教育調査と解析(1)」を受講している者に限る。統計学や社会調査法の基礎を学習していることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-11	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	比較大学経営論(2) Comparative Study in University Management (2)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学を訪問して現地で講義を受け、米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態を学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は実は十分に理解されていない。まずは予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、幅広いテーマで講師を依頼するので、各自の関心のあるテーマや研究テーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。また、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い知見を獲得することを目指す。受講に当たって英語力は問わない。英語力そのものよりも、言語は異なっても積極的に対話し、学ぼうとする姿勢を持って参加することが重要である。
授 業 計 画	現地での講義は5日間(月～金)行う。その他、渡航前に事前学習会、渡航後に事後報告会を行う。詳細なスケジュールは決まり次第連絡する。4月上旬に授業ガイダンスを行う(日程は決まり次第通知する)。受講を考えている学生は必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に連絡すること。
授 業 の 方 法	海外で5日間の集中講義を行う。また、事前学習会、現地での検討会、事後報告会を行う。事前学習として、講師による講義を配信するので、指定の期日までに必ず視聴しておくこと。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	適宜支持する。
履 修 上 の 注 意・備 考	・詳細なスケジュールは決まり次第、連絡する。履修希望者はS1開始時に行う授業ガイダンスに必ず参加すること。・原則としてすべての事前学習会、講義に参加すること。・事前に期末レポートの執筆テーマを決め、事前学習会での報告と期末レポートの提出を期日を守って行うこと。・十分な準備を行った上で講義に臨み、現地のセッションでは講義を聴くだけでなく、積極的に質問・コメントをすること。・集中講義が全受講生にとって有意義な経験となるよう、受講生間で情報交換を図り、十分に協力し合うこと。
そ の 他	受講を考えている学生は4月の授業ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に連絡すること。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営事例研究(1) Case Study in University Management(1)				

授 業 の 目 標・概 要	特定の大学やトピックスを選んで、ケーススタディを行う。大学経営に関する特定のテーマについての理解を深めるとともに、ケーススタディの方法を学び、実践することで身につけることを目指す。参加者は共同して対象大学についての概要、問題点、その克服などについて報告書を作成する。
授 業 計 画	今年度は特定の大学を取り上げて、大学のウェブサイト、各種資料の分析、事例大学の関係者へのインタビューなどを通じて、様々な観点から深く掘り下げることを検討している。事例校については、交渉中。詳細は、第1回の授業で説明するので、履修を希望する者は必ず出席のこと。授業は日曜・祝日に実施予定である。
授 業 の 方 法	発表、討議形式で行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	日程は4月に学生と相談の上、速やかに決定し、学内掲示で知らせる予定。履修を希望する者は掲示を確認すること。第1回の授業に出られない場合は、必ず、担当講師に事前にメールで連絡してください。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福留 東土、両角 亜希子、小方 直幸、杉本 和弘				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは 4 月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福留 東土、両角 亜希子、小方 直幸、杉本 和弘				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは 4 月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 教育心理学コース

時 間 割 コード	23-215-01	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学基本研究				
講 義 題 目	学習と問題解決の心理学 Psychology of Learning and Problem Solving				

授 業 の 目 標・概 要	学習、問題解決といった高次の認知活動に関する最近の心理学的知見や、実験を主とした研究方法について理解することを目標とする。
授 業 計 画	記憶、文章理解、潜在学習、洞察、アイデア生成に関する授業担当者自身の研究を含む、最近の心理学的知見を紹介し、今後検討すべき課題は何か？またその課題を扱うために、どのような研究を計画したらよいかについてディスカッションを行う。なお、1つのトピックについて2回の授業で扱う。また、受講者の興味に応じて、トピックの数や順序を変更する可能性がある。
授 業 の 方 法	授業担当者がトピックに関連した研究について講義を行った後に、受講者でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教科書は使用しない。
履修上の注意・備考	初回時により具体的な授業の進め方について指示を行うので必ず出席すること。また、ディスカッションへの積極的な参加を期待する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	感情と進化・文化 Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions				

授 業 の 目 標・概 要	私たちが日々、経験した表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土(climate)の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにしたい。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達 I Language and Cognitive Development I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	言語を獲得するとはどのようなことで、そのためには何が必要なのか。また、言語を獲得することで、思考や認知などはどのような影響を受けるのか。このような問題意識のもと、基本的な文献の購読を行う。
授 業 計 画	この領域の基本文献をとりあげ、輪読する。
授 業 の 方 法	演習
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	初回授業時に指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、発表の割り当て、スケジュールなどを決定するので、履修希望者は必ず初回授業には出席すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学基本研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学 I Psychology of Creative Cognition I				

授 業 の 目 標・概 要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授 業 計 画	文献の講読今年度は、The Cambridge Handbook of Creativity (2nd Edition)を読んで議論する。
授 業 の 方 法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。COVID-19 の問題のため、当初はオンラインで授業をする。zoom の URL は後ほどこのサイトで連絡する。なお、授業は4月10日金曜日から開始する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	論文は授業で指示。教科書は無し。
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学特論 Advanced Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	心理学データ分析のためのベイズ統計学の基礎と考え方, および実際にモデリングを行い, その評価をする上で求められる知識と技術を身につけることを目的とする。
授 業 計 画	初回講義時にテキストの決定と発表の割り当てを行い, 2回目以降は発表者を割り当てて文献講読を行っていく。以下の内容を扱う予定であるが, 状況に応じて変更することがありうる。1. イントロダクション 2. 確率変数, 確率分布, 乱数 3. ベイズ更新, ベイズ推定 4. マルコフ連鎖モンテカルロ法 5. 線形モデル 6. 一般化線形モデル 7. モデルチェック 8. モデル比較 9. モデル平均化 10. 過分散, 混合分布 11. 過剰適合, 正則化 12. マルチレベルモデル 13. 欠測値のモデル 14. 因果推論 15. 応用例とまとめ
授 業 の 方 法	演習(文献講読)による
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	初回講義時に指示する。
履修上の注意・備考	履修希望者は必ず初回授業に出席すること(事情により難しい場合には連絡すること)統計学に関する基礎知識および R 言語の利用経験があることが望ましい。発表時などにはノート PC を持参できることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学演習 Seminar on Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	本科目では、(必ずしも統計学を専門としない)心理学を専攻する大学院生を主たる対象として、量的な心理学研究を行う上で遭遇する疑問等に対して自ら解決する力を養うことを目的とする。心理学研究を進めていく上で、何らかの統計学的な問題について頭を悩ませたことがある研究者は少なくないであろう。本講義では、各自の持つそうした疑問について、少なくとも部分的な答えを与える先行研究の文献を探し、読み、共有しあった上で議論を行う。参加者には、心理統計学に関連する英語論文・文献を読み、発表し、議論することが求められる。
授 業 計 画	初回において、心理統計学にまつわる疑問を履修者から提出してもらう。その後、各疑問に関連する研究論文の検索を行う。第2回以降は、各論文に対して発表者を割り当て、発表をしてもらった上で議論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	関連文献を適宜指示する
履修上の注意・備考	履修を考えている学生は初回に参加すること(事情により参加できない場合には連絡すること)。発表時などにはノート PC を持参できることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	関係性と子どもの社会情緒的発達 Relationships and Children's Socio-Emotional Development				

授 業 の 目 標・概 要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性(親子関係や家族関係など)や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	針生 悦子				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達Ⅱ Language and Cognitive DevelopmentⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	言語や認知、社会性、またそれらの発達をアツカフた研究論文の購読を通じて、最新の研究動向、研究手法などについて学ぶ。
授 業 計 画	参加者が、論文を担当し、順次発表を行っていく。
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、担当の割り当てをするので、履修希望者は必ず初回の授業に参加すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学特殊研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学Ⅱ Psychology of Creative Cognition Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、創造性や芸術創作活動に関する英文論文の講読を行う。
授 業 計 画	文献の講読
授 業 の 方 法	夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ授業方法である。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	教科書は無し。論文は授業中に指示。
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-10	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	心理統計学の近年の展開 Recent Developments in Psychometrics				

授 業 の 目 標・概 要	Psychological Methods や Psychometrika, Annual Review of Psychology 等の海外誌を中心に論文輪読を行い、心理統計学の最新の研究動向について幅広く学ぶことを目指す。
授 業 計 画	各回の論文の担当者は担当した論文の内容を要約し、受講者へ説明する。
授 業 の 方 法	論文輪読
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しないが、参考文献を適宜教示する
履 修 上 の 注 意・備 考	心理統計学や量的研究法に関する最新の研究動向について積極的に学び、自身の研究・実践に活かしたいと考えている方の受講を歓迎します。発表では、粘り強く担当論文と向き合い、自分の得た理解を他人に分かりやすく簡潔に説明する作業を重視します。心理統計学に関する学部程度の知識は前提として進めます。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-11	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	山田 剛史				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	メタ分析 Meta-analysis				

授 業 の 目 標・概 要	メタ分析の方法について理解する。一事例実験のメタ分析について理解する。Rを用いたデータ分析ができるようになる。
授 業 計 画	第 1 回 メタ分析入門第 2 回 効果量第 3 回 効果量の統合第 4 回 調整変数による分析第 5 回 メタ回帰分析第 6 回 効果量の依存性への対処:RVE 第 7 回 研究結果の公表第 8 回 一事例実験のメタ分析(1):効果量第 9 回 一事例実験のメタ分析(2):BC-SMD 第 10 回 一事例実験のメタ分析(3):統合の方法第 11 回 Rを用いたデータ分析演習(1)第 12 回 Rを用いたデータ分析演習(2)第 13 回 Rを用いたデータ分析演習(3)
授 業 の 方 法	講義と PC を用いた演習
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	授業中に配布する。
履修上の注意・備考	授業中に簡単な計算をしてもらうことがある。電卓またはノートパソコン等を持参すること。授業中に PC を用いた実習を行う。R について基本的な操作ができること。村井(2013)程度のスキルを有していることを期待する。村井潤一郎(2013). はじめての R-ごく初歩の操作から統計解析の導入まで 北大路書房
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-215-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	前川 眞一				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	心理測定のための数学的道具 Mathematical Tools for Psychometrics				

授 業 の 目 標・概 要	心理測定学 (psychometrics) を学ぶ際に必要となる数学的道具 (総和記号や行列演算等) を習得する。
授 業 計 画	1 イントロダクション a 心理測定学における数学的道具の利用 2 総和記号演算 a 定義 b 演算規則 c 総和記号を含む関数の微分 3 行列演算 a 定義と行列の種類 b 行列の四則演算規則 c 総和記号 との関係 d その他の行列、その他の演算規則 4 その他の話題 a 行列の階数 b 逆行列と Sweep 演 算子 c 固有値・固有ベクトル・特異値分解 d 関数の微分 e 線型モデル
授 業 の 方 法	主に講義を中心に授業を進めるが、パソコンによる演習も行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	無し
履修上の注意・備考	無し
そ の 他	
関連ホームページ	http://mayekawa.in.coocan.jp/titech/docs/docs.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される。参加者によっては英語もありまぜながら行う。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪(yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp)にメールすること。初回は4月7日、10 時半から薬学部607の植阪研究室で行う(研究室への行き方は、「その他」を参照されたい)。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜、指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	主体的に参加することを期待する。
そ の 他	植阪研究室(薬学部607)への行き方について:薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がってください。十字路右手裏にあるエレベーターで6階にあがってください。エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあけてください。扉からみて、左側の部屋607が研究室です。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される。参加者によっては英語もありまぜながら行う。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪(yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp)にメールすること。初回は、4月7日10時半～薬学部本館 607 号室(植阪研究室)で行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜、指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	主体的に参加することを期待する。
そ の 他	植阪研究室(薬学部607)への行き方について:薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がってください。十字路右手裏にあるエレベーターで6階にあがってください。エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあけてください。扉からみて、左側の部屋607が研究室です。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達分野で修士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 修士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式。参加者は, 各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない, それに対して, 討論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 授業にのぞむこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発 達 心 理 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	教 育 心 理 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達分野で博士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 報告書(論文)を作成する。このようなプロセスの積み重ねにより, 博士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式と個別指導。参加者は, 各自の研究の経過や見通しにもとづき, 議論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 討論・指導にのぞむこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイディアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイディアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 臨床心理学コース

時 間 割 コード	23-216-01	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	下山 晴彦、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ） Practicum in Clinical PsychologyⅠ (Advanced Practical Training in PsychologyⅠ)				

授 業 の 目 標・概 要	学内研究機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関（精神科病院、クリニック、学校、産業組織など）において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねてカンファレンスにおいて事例検討を行う。形態として、受付事例を検討する初期カンファレンス、各ゼミで個別にカンファレンスを行う個別カンファレンス、各ゼミが合同して行う合同カンファレンスに分かれる。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス 3.合同カンファレンス 4.臨床検討会 5.初期・実習カンファレンス 6.合同カンファレンス 7.臨床検討会 8.初期・実習カンファレンス 9.合同カンファレンス 10.臨床検討会 11.初期・実習カンファレンス 12.合同カンファレンス 13.臨床検討会
授 業 の 方 法	受講生は、S1、S2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上（心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上）行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/soudan/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生（特別聴講学生等）	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-02	単 位 数	1	学 期	A1A2
担 当 教 員	下山 晴彦、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ） Practicum in Clinical Psychology Ⅱ（Advanced Practical Training in Psychology Ⅱ）				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。テーマ：臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。その点で、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス 3.合同カンファレンス 4.臨床検討会 5.初期・実習カンファレンス 6.合同カンファレンス 7.臨床検討会 8.初期・実習カンファレンス 9.合同カンファレンス 10.臨床検討会 11.初期・実習カンファレンス 12.合同カンファレンス 13.臨床検討会
授 業 の 方 法	学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会受講生は、A1、A2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上（心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上）行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/soudan/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生（特別聴講学生等）	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	下山 晴彦、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論Ⅰ Clinical PsychologyⅠ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学の全体像と学習にあたっての心構えについて講義する。特に心理援助職を目指すための心構え、教育訓練過程で必要とされる最低限の知識と技能とは何かについて、講義とディスカッションを通して学ぶことがねらいである
授 業 計 画	§1:臨床心理学とは何か §2-4:臨床心理士になることの意味／動機を探る §5-7:臨床心理学の教育訓練の過程 §8-9:学習にあたっての心構え §10-11:学習に臨む姿勢 §12-14:専門性を見直しと発展 §15:まとめ
授 業 の 方 法	レポーターによる発表と、グループディスカッションを中心を授業を進める。グループダイナミクスを取り入れることによって、グループワークのファシリテートについても体験的に学ぶことが出来る構成とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	コーリー＆コーリー(下山監訳)『心理援助の専門職になるために』金剛出版
履修上の注意・備考	レポーターを務めることは、これまであまり経験してこなかった一対一や一対他の人間関係の体験的学びになる。積極的に臨み、自分自身の傾向について考えてみて頂きたい。
そ の 他	
関連ホームページ	http://cpftr.blogspot.jp/p/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性や集団をマネジメントする技法について、講義とワーク、ディスカッションを通して実践的に学ぶことをねらいとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. コミュニティにおける心理援助(1) 3. コミュニティにおける心理援助(2) 4. コミュニティにおける心理援助の実践(1) 5. コミュニティにおける心理援助の実践(2) 6. グループを通しての心理援助(1) 7. グループを通しての心理援助(2) 8. 家族を通しての心理援助(1) 9. 家族を通しての心理援助(2) 10. 人生の移行について理解する(1) 11. 人生の移行について理解する(2) 12. ストレスとバーンアウト(1) 13. ストレスとバーンアウト(2) 14. ストレスとバーンアウト(3) 15. 振り返り
授 業 の 方 法	テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「心理援助の専門職として働くために」 金剛出版 下山晴彦(監訳)
履修上の注意・備考	発表をグループで担当することからも、グループ単位でのチームワークや集団力動を直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論Ⅱ Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としては比較的オーソドックスなカテゴリー分析を基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。
授 業 計 画	以下のようなトピックを扱う。・インタビューの諸理論・インタビュー法のバリエーション・インタビューの手順・ナラティブの分析の諸技法・初期コーディングの手続き・発展的コーディングの手続き
授 業 の 方 法	セメスターの前半では調査インタビューに関するテキストを素材にして、受講者は担当箇所の発表を行うとともに、ディスカッションのファシリテーターの役割を担う。並行して、授業外でインタビューを行ってデータを用意する。セメスターの後半では、分析をいくつかのステップに分けて学んでいくが、受講生が語りのテキストを提供し、それをエクササイズの材料として用いながら分析の手続きを学んでいく。収集したテキストの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	下山 晴彦、滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) Seminar on Assessment of Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Assessment)				

授 業 の 目 標・概 要	<全体テーマ> 公認心理師の実践における心理的アセスメント、及び精神医学的診断の理論と実践の意義、およびその方法を解説し、実践場面における相談、助言、指導にどう応用していくかを、実例も交えながら検討していく。テーマ: アセスメント及び診断の基礎知識と方法の解説 * 臨床活動におけるアセスメントの役割 * 精神障害の分類 * 異常心理学及び精神医学 * DSMの解説と活用法 * 見立ての形成: 機能分析とケースフォーミュレーション * 初回面接
授 業 計 画	1. 臨床心理学と精神医学概説 12. 臨床心理学と精神医学概説 23. アセスメント・診断に関する文献購読と発表① 4. 精神障害解説 5. アセスメント・診断に関する文献購読と発表② 6. 精神障害解説 7. アセスメント・診断に関する文献購読と発表③ 8. 精神障害解説 9. アセスメント・診断に関する文献購読と発表④ 10. 精神障害解説 11. アセスメント・診断に関する文献購読と発表⑤ 12. 精神障害解説 13. アセスメント・診断に関する文献購読と発表⑥ 14. 精神障害解説 15・総括
授 業 の 方 法	1) 臨床心理アセスメント及び精神医学に関する文献購読と発表 2) ビデオ等を活用した精神障害の解説 3) 各障害についての研究成果の発表
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	『公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法』下山晴彦・滝沢龍他(編) 医学書院『精神疾患・メンタルヘルスガイドブック』滝沢龍(訳) 医学書院『臨床心理アセスメント入門』下山晴彦(著) 金剛出版
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/787240582

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博、野中 舞子、滝沢 龍				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習Ⅱ Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	目標: 心理アセスメント—見立てをたてるということ—は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、臨床心理面接におけるクライエントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目指す。概要: はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査を実施しあい、検査結果を書き上げるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。
授 業 計 画	1. ガイダンス 2. 医療領域における心理検査 3. 神経心理学検査 4. 投影法15. 投影法26. WAIS-III 相互実施 7. WAIS-III 解釈 8. WISC-IV 解釈 9. ロールシャッハ・テスト解説 10. ロールシャッハ・テスト実施 11. 様々な面接・質問紙検査の解説と実習112. 様々な面接・質問紙検査の解説と実習213. ロールシャッハ・テスト解釈 14. 事例検討 15. まとめ
授 業 の 方 法	講義と実習をおこなう。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-08	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	下山 晴彦、高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習 I Basic Practicum in Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標・概 要	＜全体テーマ＞臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。テーマ：臨床面接法の基礎理論と技能実習 * 臨床面接法とは * 臨床面接法の基礎理論と技能 * 共感的面接技能の基礎訓練 * ロールプレイ実習1とグループ討議 * 査定の面接技能の基礎理論と技能 * ロールプレイ実習2とグループ討議 テキスト：「心理臨床の基礎1：心理臨床の発想と実践」岩波書店 下山晴彦（著）
授 業 計 画	§ 1～2：レクチャー「臨床面接法とは」§ 3～9：共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り § 10～14：アセスメント面接のロールプレイとその振り返り § 15：質疑応答
授 業 の 方 法	講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「臨床心理学をまなぶ1 これからの臨床心理学」東京大学出版会 下山晴彦（著）「臨床心理学をまなぶ2 実践の基本」東京大学出版会 下山晴彦（著）
履修上の注意・備考	ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/545922419

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-216-09	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博、野中 舞子、高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習Ⅱ Basic Practicum in Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	心理教育相談室を具体的な事例としながら組織の実際を学ぶことによって、社会的活動としての臨床実践の基礎を理解する。また、遊戯療法についての理論を理解した上で、児童臨床現場で役立つ様々なアプローチの理論と実践について、事例や体験を通して包括的に学ぶ。さらに、実践に向けてインテーク・陪席についても体験的に理解する。
授 業 計 画	第1回:ガイダンス第2回:相談機関の組織とは 第3回:相談機関の組織の実際 第4回:遊戯療法とは 第5回:遊戯療法のトピックス 1 第6回:遊戯療法のトピックス 2 第7回:遊戯療法のトピックス 3 第8回:遊戯療法のトピックス 4 第9回:芸術療法の実際 1 第10回:芸術療法の実際 2 第11回:インテークを学ぶ第12回:インテーク実践1 第13回:インテーク実践2
授 業 の 方 法	概説とディスカッションを中心とする。ただし、内容によっては、ロールプレイやワークなども交える。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) Interview Methods for Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Support)				

授 業 の 目 標・概 要	目標: 心理面接の基礎と、ケース運営の一連の流れを理解するとともに、様々な心理療法や臨床実践における多様な関わりを学び、臨床実践力を高めることを目的とする。概要: 実際のケース運営と心理実践の様々な技法のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて、一連の流れを理解する。さらに、様々な心理療法の理論や技法を習得することに加え、臨床実践における多様な関わりを理解し、臨床実践を行うための基礎を習得する。
授 業 計 画	第1回: 試行カウンセリング第2回: ケースの経過第3回: ケースマネジメント第4回: 適切な支援方法の選択・調整第5回: 来談者中心療法第6回: 力動的な心理療法第7回: 行動論、認知論に基づく心理療法第8回: 家族療法第9回: 保護者面接・並行面接第10回: 心理検査を用いたケース運営第11回: チームワークと連携第12回: コンサルテーション・心理教育第13回: 研修
授 業 の 方 法	各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	臨床心理学研究法 I Research Methods in Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標・概 要	近年、臨床心理学領域においてますます研究活動が重視されるようになっているが、質的研究法はそのなかでも特に注目されている方法である。この授業では、質的研究の基本文献や論文を読みながらその背景や理論について議論していく。本年は、質的研究の背景にある社会構成主義の考え方とそれに基づく具体的な研究の方法について理解を深めることを目標とする。
授 業 計 画	1 社会構成主義とは何か2 社会構成主義の主張3 社会構成主義における言語の役割4 ディスコースとは何か5 ディスコースの外に実在世界は存在するか6 巨視的社会構成主義におけるアイデンティティと主体性7 微視的社会構成主義におけるアイデンティティと主体性8 社会構成主義の探究9 社会構成主義における問題と論争 10～14 社会構成主義に基づく質的研究
授 業 の 方 法	基本的には輪読方式で、受講生が文献のレジュメを作ってその内容を紹介すると同時に、社会構成主義とそれに基づく質的研究について議論を進めながら、ディスコース分析やナラティブ分析等に関する全体的な理解をする。授業の後半では、グループディスカッションなどを取り入れて、理解をさらに深める
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	バー (2018)『ソーシャル・コンストラクショニズム―ディスコース・主体性・身体性』(川島書店)
履修上の注意・備考	積極的に議論に参加すること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	臨床心理学研究法Ⅱ Research Methods in Clinical PsychologyⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学研究において必要な量的研究法のスキルの習得を目指す。臨床心理学的な対人援助技法には、効果がありそれが持続すること、副作用や害がないことについて、良質なエビデンスが存在することが望ましい。場合によってはどのような形でエビデンスを取り出せばよいか、新たな仮説を生成していくことも必要になる。本授業では、臨床心理学的な研究を行うための知識と技能を身につけるため、量的研究法の基礎を学ぶ。
授 業 計 画	授業計画（ガイダンス時に日程に合わせたものを配布）第1回：ガイダンス第2回：量的研究のデザイン（1）：研究テーマと研究計画第3回：量的研究のデザイン（2）：研究対象と測定方法第4回：量的研究のデザイン（3）：サンプルサイズとパワー推定第5回：記述研究第6回：偶然第7回：バイアス第8回：交絡第9回：ケースコントロール研究第10回：横断研究とコホート研究第11回：ランダム化比較試験（1）：盲検的比較試験第12回：ランダム化比較試験（2）：その他の比較試験第13回：スクリーニング・医学検査第14回：メタアナリシス第15回：システマティックレビュー
授 業 の 方 法	教科書の各章の内容をまとめて担当者が発表。それについて解説と議論を行う。毎回おおむね、発表・講義（70分）、質疑応答（30分：講義開始時に前回分20分、講義終了後に今回分10分）、リアクションペーパー（5分）で構成される。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	適宜、資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	基礎的な心理統計学を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-13	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 Support Theory and Applications in Forensics and. Criminology Area.				

授 業 の 目 標・概 要	犯罪・非行に対する心理学的理解を深め, リスクアセスメント, 治療, 社会的な対策について, 最新最善のエビデンスを考慮しながら検討する。To have psychological understanding of crime and delinquency, and to discuss risk assessment, treatment and social measures considering up-to-date and high-quality research evidence.
授 業 計 画	1 オリエンテーション/ Orientation2 エビデンスに基づく犯罪臨床/ Evidence-based practice 3 個別発表(第1-2章)/Individual presentation4 個別発表(第3-4章)5 個別発表(第5-6章)6 個別発表(第7-8章)7 個別発表(第9-10章)8 個別発表(第11-12章)9 個別発表(第13-14章)10 個別発表(第15章)11 主な臨床的技法/Basic clinical techniques12 まとめ/ Conclusions
授 業 の 方 法	講義と演習/Lecture and seminar
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	ボンタ&アンドリュース, 原田隆之訳犯罪行動の心理学(北大路書房)Bonta & Andrews, Psychology of Criminal Conduct, 6th ed.
履 修 上 の 注 意・備 考	履修生は教科書を分担してレジュメ(PPT)を作成し, 個別発表を行います。事前に履修生の間で分担を決め, 発表の準備をしておいてください。事前に質問があるときは, 誰かが代表して下記メールアドレスまでお尋ねください。Students are requested to make an individual presentation with PPT slides on each chapter of the textbook.Please assign one or two chapter(s) to each me
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-15	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	下山 晴彦、高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) Mental Health Management Basic (Support Theory and Applications in Industry and Work Area)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、産業・労働分野の支援で求められる知識やスキルの習得を目指す。具体的には、臨床心理支援の基盤となる、心理的アセスメントと心理支援の基本面接技能を確認する。その上で企業を中心とする産業・労働分野における支援のあり方について、組織へのコンサルテーションやチーム支援の技能を含めて学ぶ。
授 業 計 画	1.臨床心理実践の基本 2.物語論からみた技能の全体構造 3.語りとしての物語技能 4 劇としての物語技能 5.共感・動機づけ面接の技能 6.アセスメント面接の技能 7.産業領域の全体像 8.産業領域に必要な法令・制度 9.キャリア支援 10.組織の視点 11.働き方の違いによる問題 12.過労死とワークエンゲージメント 13.治療と仕事の両立支援
授 業 の 方 法	講義とそれに関するディスカッションにより構成される。適宜、グループワークや発表も行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「臨床心理学をまなぶ2 実践の基本」(下山晴彦 東京大学出版会)
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/891302968

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	下山 晴彦、野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント応用(心の健康教育に関する理論と実践) Mental Health Management Applied (Theory and Practice of Mental Health Education)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業は、メンタルヘルスの向上に役立つ臨床心理学の研究とは何か、そのような研究を企画し、実践し、論文化し、さらにメンタルヘルス実践に役立てることに関しての知識及び技法を発展させることを目的とする。方法は、参加メンバー自身の研究成果、あるいは関心領域の研究レビューを発表し、その内容について議論を深める。具体的には、研究論文として発展させるプロセス及び研究成果を臨床活動に役立てるプロセスの理解を深め、メンタルヘルスのマネジメントに役立つ研究の扱い方、つまりエビデンスベーストプラクティスについての学習を深める。また、心の健康教育に関する理論を重視し、その実践を中心に検討する。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. 臨床心理学における研究の実際13. 臨床心理学における研究の実際24. 臨床心理学における研究の実際35. 参加者による発表と討論6. 参加者による発表と討論7. 参加者による発表と討論8. 参加者による発表と討論9. 参加者による発表と討論10. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際 111. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際 212. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際 313. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際 414. 心の健康教育に関するメンタルヘルス支援の実際 515. まとめ
授 業 の 方 法	参加メンバー自身の研究成果、あるいは心の健康教育に関する研究レビューを発表し、その内容について議論を深める
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	出席と発表を重視する
そ の 他	特になし
関連ホームページ	http://cpftr.blogspot.jp/p/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) Psychiatry (Support Theory and Applications in Medical and Health Area)				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野に役立つ精神医学・メンタルヘルスの診断・治療・対処法について講義する。DSM 診断に沿って精神医学各論を実践的な診断・治療・予防に役立つ知識を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画(初回ガイダンスで詳細の日程を配布する)1. ガイダンス／治療の要点(第20章)2. 神経発達症群(第1章)3. 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群(第2章)4. 双極性障害および関連障害群(第3章)5. 抑うつ障害群(第4章)6. 不安症群(第5章)／身体症状症および関連症群(第9章)7. 心的外傷およびストレス因関連障害群(第7章)／解離症群(第8章)8. 強迫症および関連症群(第6章)／食行動障害および摂食障害群(第10章)9. 睡眠-覚醒障害群(第12章)10. 秩序破壊的・衝動制御・素行症群(第15章)11. パーソナリティ障害群(第18章)12. 神経認知障害群(第17章)／身体疾患に伴う精神障害(症状精神病)13. 薬物療法(1)14. 薬物療法(2)15. まとめ・小テスト
授 業 の 方 法	毎回おおむね、・発表・講義(60分)、・質疑応答(30分:講義開始時に前回分15分、講義終了後に今回分15分)、・リアクションペーパー記入(15分)、で構成される。初回ガイダンス参加者の希望にて、講義の各論の内容・順番を調整することがある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「精神疾患・メンタルヘルスガイドブック —DSM-5 から生活指針まで—」(著)American Psychiatric Association、(訳)滝沢龍、(2016) 医学書院その他、適宜プリントを配布する。
履修上の注意・備考	授業内容は、各論や事例が中心となるので、精神医学・異常心理学・臨床心理学の分野での基本的な知識(症状学[精神症状の種類など]・診断学[面接法・査定法など])を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-216-18	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	日下 華奈子				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョン I Clinical Supervision I				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースの学生の担当ケースについて、スーパーヴィジョンを行う。ケースマネジメントにおけるアセスメントはもちろんのこと、臨床実践の基礎となるケースへの取り組み、姿勢を洗練させていく。ケースフォーミュレーションの構築、ケースに即した心理療法の実際、介入、さらには並行面接、合同面接等の面接構造を活かすスキル、各心理検査の活用方法について習得できる機会としたい。加えて今後より臨床場面で必須となる、各領域との協働のあり方についても考えていく視点を培う。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. コミュニケーションについて(1)3. コミュニケーションについて(2)4. コミュニケーションについて(3)5. クライアントとの関係について(1)6. クライアントとの関係について(2)7. クライアントとの関係について(3)8. アセスメントについて(1)9. アセスメントについて(2)10. アセスメントについて(3)11. アセスメントについて(4)12. ケース・マネジメントについて(1)13. ケース・マネジメントについて(2)14. ケース・マネジメントについて(3)15. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事例検討のすすめ方はそれぞれの履修者、ケースの枠組みを考慮しながら相談して決定する。指導教員の承認を得た上で受講すること。なお、ケースの展開を考えて計画的に発表すること、スキル習得のためには、単発よりは継続的に発表を行うことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-19	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	日下 華奈子				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅡ Clinical Supervision Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースの学生の担当ケースについて、スーパーヴィジョンを行う。ケースマネジメントにおけるアセスメントはもちろんのこと、臨床実践の基礎となるケースへの取り組み、姿勢を洗練させていく。ケースフォーミュレーションの構築、ケースに即した心理療法の実際、介入、さらには並行面接、合同面接等の面接構造を活かすスキル、各心理検査の活用方法について習得できる機会としたい。加えて今後より臨床場面で必須となる、各領域との協働のあり方についても考えていく視点を培う。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. コミュニケーションについて(1)3. コミュニケーションについて(2)4. コミュニケーションについて(3)5. クライアントとの関係について(1)6. クライアントとの関係について(2)7. クライアントとの関係について(3)8. アセスメントについて(1)9. アセスメントについて(2)10. アセスメントについて(3)11. アセスメントについて(4)12. ケース・マネジメントについて(1)13. ケース・マネジメントについて(2)14. ケース・マネジメントについて(3)15. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事例検討のすすめ方はそれぞれの履修者、ケースの枠組みを考慮しながら相談して決定する。指導教員の承認を得た上で受講すること。なお、ケースの展開を考えて計画的に発表すること、スキル習得のためには、単発よりは継続的に発表を行うことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-20	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	林 潤一郎				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅢ Clinical Supervision Ⅲ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。スーパービジョンを通して、これまで学んできた心理療法や支援にまつわる様々な知識や代表的スキルを、個々のクライアントの個別性に則した形で実践的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、クライアントの個別状況や特徴(有する困難や障がい含む)やニーズを把握しながら支援を展開するスキルを一層高めていくとともに、支援者としての自分自身の効果的な活かし方を模索できる場ともなるよう、各自が担当している事例(面接経過)を題材に指導(検討・質疑・作戦会議)をすすめる予定である。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. コミュニケーションについて(1)3. コミュニケーションについて(2)4. コミュニケーションについて(3)5. クライアントとの関係について(1)6. クライアントとの関係について(2)7. クライアントとの関係について(3)8. アセスメントについて(1)9. アセスメントについて(2)10. アセスメントについて(3)11. ケース・マネジメントについて(1)12. ケース・マネジメントについて(2)13. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	事例検討のすすめ方は履修者一人ひとりと相談して決定する。また、指導教員の承諾を得た上で受講することが望ましい。なお、ケースの展開を考え、計画的に発表を行うこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-21	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	林 潤一郎				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅣ Clinical Supervision Ⅳ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。スーパービジョンを通して、これまで学んできた心理療法や支援にまつわる様々な知識や代表的スキルを、個々のクライアントの個別性に則した形で実践的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、クライアントの個別の状況や特徴(有する困難や障がい含む)やニーズを把握しながら支援を展開するスキルを一層高めていくとともに、支援者としての自分自身の効果的な活かし方を模索できる場ともなるよう、各自が担当している事例(面接経過)を題材に指導(検討・質疑・作戦会議)をすすめる予定である。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. 技法について(1)3. 技法について(2)4. 介入について(1)5. 介入について(2)6. 効果の検証について(1)7. 効果の検証について(2)8. 各種心理障害への対応について(1)9. 各種心理障害への対応について(2)10. 心理療法の統合的実践について(1)11. 心理療法の統合的実践について(2)12. 心理療法の統合的実践について(3)13. 振り返りとまとめ
授 業 の 方 法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事例検討のすすめ方は履修者一人ひとりと相談して決定する。また、指導教員の承諾を得た上で受講することが望ましい。なお、ケースの展開を考え、計画的に発表を行うこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-22	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	障害学演習 Seminar in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	「障害学」は、障害児・者を単に医療や福祉、特殊教育の対象としてのみとらえるのではなく、「障害」という切り口をとおして、人間の営みや社会のあり方を問い直すことをめざす学問・研究領域である。
授 業 計 画	1:障害＝ 障害者、障害の定義2:障害学＝ ディスアビリティ・スタディーズ、障害学の国内外の研究・実践動向3:バリアフリーとユニバーサル・デザイン＝ バリアフリーとユニバーサル・デザインの概念と実践、両概念の関係と実践をめぐる状況4:平等(論)＝ 障害をめぐる平等、現代政治・経済と平等論の関係5:能力主義(メリトクラシー＝ 「能力」をどう把握するか、「能力」と価値の序列)6:障害者権利条約(差別禁止法)＝ 障害者権利条約、(障害者)差別禁止法7:障害者自立支援法と総合福祉法＝ わが国における障害者施策の変遷、今後の展望8:盲ろう者(視覚・聴覚重複障害者)＝ 「盲ろう」(deafblindness)、盲ろう者の実状9:ヘレン・ケラー＝ 盲ろう者としてのヘレン・ケラーの障害と生涯、アニー・サリヴァン10:「盲ろう」という障害がもたらす困難＝ コミュニケーションと情報の入手、移動11:「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション＝ 「感覚」遮断と人間への影響、コミュニケーションは人にとってどういう意味を持つか12:人間にとっての言語・コミュニケーション＝ 人にとってのコミュニケーションの意味、知的発達と感情的成長との関係13:コミュニケーションを支える感覚情報＝ コミュニケーションを支える非言語的情報、非言語的情報はどれほどコミュニケーションに貢献しているか? 14:コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈＝ 「文脈」とは何か、「感覚・言語的文脈」とコミュニケーション15:「苦悩」の意味と「生」の意味＝ 「苦悩」とは何か、我々の「生」を支えるものは何か。
授 業 の 方 法	本演習では、障害学関連の参考文献を参照しつつ、参加メンバー相互のディスカッションをとおして、「障害」をとりまく現代日本の状況について考察を深める。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)『障害学』杉野昭博、東京大学出版会(2007)『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクフル、みすず書房(2002)『障害者自立支援法違憲訴訟』生活書院(2011)
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理システム論の分野で修士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理システム論の分野で博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学研究指導
授 業 計 画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し, 研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究指導及び論文指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	履修について事前に打ち合わせのこと
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	原田 隆之				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学学研究指導
授 業 計 画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し, 研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究・論文指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	履修に当たっては事前に打ち合わせのこと
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて博士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの修士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの博士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	発達臨床心理学分野で修士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者は年に 2 回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授 業 の 方 法	個別指導及び集団指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	発達臨床心理学分野で博士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者は年に 2 回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授 業 の 方 法	個別指導及び集団指導
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能です
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-33	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	下山 晴彦、星加 良司				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	1. ブレインストーミング2. ブレインストーミング3. ブレインストーミング4. 先行研究レビュー5. 先行研究レビュー6. 先行研究レビュー7. 先行研究レビュー9. 構想発表 10. 構想発表 11. 構想発表 12. 構想発表 13. 論文中間発表 14. 論文中間発表 15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	個別指導と小集団討論
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	主体的な研究態度を重視する。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-34	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	下山 晴彦、星加 良司				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	1. ブレインストーミング2. ブレインストーミング3. ブレインストーミング4. 先行研究レビュー5. 先行研究レビュー6. 先行研究レビュー7. 先行研究レビュー9. 構想発表 10. 構想発表 11. 構想発表 12. 構想発表 13. 論文中間発表 14. 論文中間発表 15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	個別指導と小集団討論
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	段階的な論文執筆を重視する
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-35	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	発達障害(DSM-5 では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し、それに対する支援方法について考えていく。具体的には、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して、その原因が脳機能障害にあることを念頭におき、生物学的要因、認知的要因を解説することで、行動や心理の理解をすすめたい。更に、発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し、適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授 業 計 画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化、薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1:SLD と ADHD6. アセスメント2:ASD のスクリーニング 7. アセスメント3:ASD の診断・評価 8. アセスメント4:発達障害に関連する評価(適応行動、感覚)9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1:TEACCH 11. ASD への支援2:応用行動分析 12. ASD への支援3:認知行動療法 13. ASD への支援4:家族への支援
授 業 の 方 法	講義形式:発達障害について、最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は、一方的に講義を聴くのではなく、問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-36	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	発達障害(DSM-5 では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し、それに対する支援方法について考えていく。具体的には、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して、その原因が脳機能障害にあることを念頭におき、生物学的要因、認知的要因を解説することで、行動や心理の理解をすすめたい。更に、発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し、適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授 業 計 画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化、薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1:SLD と ADHD6. アセスメント2:ASD のスクリーニング 7. アセスメント3:ASD の診断・評価 8. アセスメント4:発達障害に関連する評価(適応行動、感覚)9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1:TEACCH 11. ASD への支援2:応用行動分析 12. ASD への支援3:認知行動療法 13. ASD への支援4:家族への支援
授 業 の 方 法	講義形式:発達障害について、最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は、一方的に講義を聴くのではなく、問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 身体教育学コース

時 間 割 コード	23-217-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育学科学基本研究				
講 義 題 目	身体教育学科学の諸問題 I Topics in Physical Education I				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育学科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス: 教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降: 担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで) 特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学基本研究				
講 義 題 目	身体システム論 I System Analysis of Human Activity I				

授 業 の 目 標・概 要	人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、自然科学から人文・社会科学にわたる幅広い分野の知見に基づく、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、主として数理モデルおよび解析手法の立場から、このような総合的アプローチの方法論を身につける。
授 業 計 画	【重要なお知らせ】新型コロナウイルスへの対応で、第 1 回(4 月 3 日)の授業は原則オンラインで短時間のガイダンスを行う。受講希望者は以下の URL から Zoom のミーティングに参加されたい。 https://zoom.us/j/4391736635 オンライン参加が無理な場合、別途相談すること-----過去本講義で取り上げた論文については http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html を参照のこと。新たな論文情報は適宜掲載する。
授 業 の 方 法	論文・テーマの選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で討論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミクス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-03	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	多賀 厳太郎				
授 業 科 目	発達脳科学基本研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論 I Developmental Brain Sciences I				

授 業 の 目 標・概 要	ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目指す。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、発生生物学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。文献の紹介、具体的な課題の演習、履修者による研究発表等を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習、発表、参加者全員によるディスカッション
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	http://dbsl.p.u-tokyo.ac.jp
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学基本研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題 I Topics in Health Education I				

授 業 の 目 標・概 要	精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。また国際誌への論文投稿・採択に必要な、英文文献の読解力、特に方法論などに関する批判的読解力、英文論文の記述力を養うことも本授業の重要な目標の1つである。This is a journal-club style course. Students are required to select and present a recent paper in areas of mental health, sleep, school health and related ones. An aim of this course is to develop the ability of critical reading of scientific papers.
授 業 計 画	毎回担当学生が、精神保健とその疫学等に関連する英文論文を選び、その紹介を行う。興味あるテーマについて複数の論文を紹介し、仮説立案を行っても良い。最終的には、自ら英文論文を書くことが出来る力を養うことが目的である。文献の選び方は初回の授業で説明する。なお基本的に英語で授業を行うので、スライド(PPT)も基本的に英語で作成のこと(つまり英文文献の内容の日本語翻訳は不要、ということである)。口頭での説明は、英語で説明しきれない場合には、日本語で補っても良いが、なるべく英語で行うこと(ただし、英語での presentation の練習と思って気楽に参加して欲しい)。
授 業 の 方 法	各学生の発表に対して、質疑応答を教員・学生が行う。Students are recommended to actively make comments and/or questions to the presentation.
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	The course may be in English when foreign students participate. 留学生が参加する場合には、英語での授業とすることもある。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学特殊研究				
講 義 題 目	身体教育科学の諸問題Ⅱ Topics in Physical Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-217-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	柏野 牧夫				
授 業 科 目	身体教育科学特殊研究				
講 義 題 目	スポーツ脳科学特論 Sports Brain Science				

授 業 の 目 標・概 要	スポーツにおいては、知覚、運動制御、予測、意思決定、心身状態の最適化など、各種認知機能が決定的な役割を果たしている。この授業では、トップアスリートの認知機能や脳情報処理に関する研究の具体例の検討と、パフォーマンスや生体信号の計測実習を通じて、基礎知識や研究の方法論を学ぶ。また、スポーツの研究や現場における情報技術の利用の現状についても理解を深め、トレーニングやコーチングの将来像を探る。
授 業 計 画	講義：野球やソフトボール、e スポーツなどのトップアスリートの研究例を取り上げつつ、以下の項目について概説する。・スポーツにおける主観と客観の乖離・潜在脳機能・視覚運動系、眼球運動、注意、錯覚・意思決定・心身相互作用・プレイヤー間相互作用・情報技術を利用した技能向上（可視化・可聴化、VR・AR、感覚フィードバック、非侵襲脳刺激、他）・スポーツアナリティクス 他体験実習：ウェアラブルセンサ、コンピュータビジョン、VR等の情報技術を用いた各種計測の体験
授 業 の 方 法	集中講義形式で、スポーツ脳科学に関する基礎知識や研究の具体例に関する講義と、実地での計測等の体験実習とを行う。体験実習は、NTT 厚木研究開発センタ(神奈川県厚木市)で実施する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	なし。
そ の 他	
関連ホームページ	http://sports-brain.ilab.ntt.co.jp
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-217-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学特殊研究				
講 義 題 目	身体システム論Ⅱ System Analysis of Human Activity Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 計 画	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 の 方 法	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-217-08	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学特殊研究				
講 義 題 目	日常生活下調査から認知・行動変容までの教育・健康科学応用 Application of ambulatory technique in education and health sciences: From assessment through cognitive and behavior modification				

授 業 の 目 標・概 要	近年、行動医学・健康心理学領域を中心に、生態学的妥当性の高い調査として、携帯型コンピュータやセンサを利用して日常生活下で事象を評価記録する日常生活下調査が重要視されてきた。今日では、日常生活下で評価するだけでなく人の認知や行動を変容させていこうとする試みが行われつつある。本講義では日常生活下調査についての基礎的な知識や解析法を含む具体的な手法をまず学び、介入を含めた今後の発展可能性について考察することにより、これらの手法を教育・健康科学分野で活用していけるようになることを目指す。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(1) 3. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(2) 4. 食行動に関する日常生活下調査 5. 生理指標・身体活動に関する日常生活下調査 6. 日常生活下調査データの解析 7. 日常生活下調査の活用例 8. 日常生活下調査体験実習 9. 日常生活下調査の関連領域 10. 日常生活下調査データ解析実習 11. 今後の発展: 項目反応理論・適応型問診、介入 12. まとめ
授 業 の 方 法	講義(グループディスカッション、論文紹介を含む)および実習をおこなう。当該分野の代表的な文献に触れるため、初回の講義時に担当論文の割り当てを行うので、論文紹介の発表準備を担当回までに行うこと。講義後半では、日常生活下調査の実際について、実際に調査やデータの取り扱いを体験しながら学習し、教育・健康科学分野への応用について考える。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	参考図書および文献は講義の際に提示する。
履修上の注意・備考	事前の知識は多くを求めないが、講義の中で、意見や質問を出してもらう機会を多く持ちたいと考えているので、素朴な疑問でも気後れせず発言していただきたい。また積極的な参加を期待する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-217-09	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	多賀 厳太郎				
授 業 科 目	発達脳科学特殊研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論Ⅱ Developmental Brain SciencesⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	S1 に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、行動学、発生生物学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。文献の紹介、具体的な課題の演習、履修者による研究発表等を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習と発表。参加者全員によるディスカッション。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	http://dbsl.p.u-tokyo.ac.jp
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学特殊研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題Ⅱ Topics in Health Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。かつ英語での presentation の練習も行う。方法論や結果と考察との一貫性に関する批判的論文読解の力を養うことも大きな目標である。This course will be given in a journal-club style. Students are required to select a recent paper on mental health (especially adolescents' mental health) or related issues and give a presentation, once or twice. The presentation and discussion are recommended to be made in English in principle, which may help you practice presentations in international meetings. Development of ability for critical reading of scientific papers is also a major aim of this course.
授 業 計 画	健康教育に関連する英文論文を各自選択し、それについての説明を行う。あるいはあるテーマについての英文文献検索を行い、テーマに関する複数の論文について review し、新たな研究遂行に役立つ仮説構築を行っても良い(ある程度習熟レベルが進んだ学生には後者をむしろ勧める)。
授 業 の 方 法	健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。なお発表および質疑応答は原則として英語で行う。ただし英語でのやりとり慣れていない学生も多いと思われるので、どうしても分からない時は日本語の使用もOKとする。将来の英語での学会発表や論文書きの練習と思って、気楽に考えて参加してほしい。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	This course will be given in English in principle, but Japanese may also be used when required/needed.
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-11	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	柏野 牧夫				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	柏野 牧夫				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標・概 要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	学生の状況に合わせて実施する。
授 業 の 方 法	学生の状況に合わせて実施する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	菊地 裕絵				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	学生の状況に合わせて実施する。
授 業 の 方 法	学生の状況に合わせて実施する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標・概 要	発達脳科学に関する修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標・概 要	発達脳科学に関する博士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授 業 計 画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は無意味であることを得ること。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授 業 計 画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

学校教育高度化専攻 教職開発コース

時 間 割 コード	23-301-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	秋田 喜代美				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業における学習研究 Research on Learning in Classroom				

授 業 の 目 標・概 要	学校教育における教師の省察と協働に関する基本的な文献と最近の動向を英語で当該分野の文献を読んで議論ができるようにする。
授 業 計 画	振り返りを主題とし、生徒側の学習における振り返りと専門家の省察、研修における協働省察に関する基本文献とその理念による国内外の研究の発展を議論する。ドナルドショーン、ファンマネン、コルトハヘン、ゼイヒナーなどについて検討を行う予定である。
授 業 の 方 法	グループで特定文献の論文を担当しその論文について発表するとともに協働で議論をしながら理解を深める。またふりかえりに関する本のビブリオトーク等を行う予定である。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	開始時に指示する。
履修上の注意・備考	原則として隔週で1, 2時間目2コマ連続で実施する予定である。評価は平常点とレポート等の報告、最終小レポートを総括して行う
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/staff
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-02	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業研究の理論と方法 Theory and Method of Research on Teaching and Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究をはじめとする教育実践研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究の理論を構築し検討する。具体的には、授業研究の理念や歴史、研究主体の違いによる、研究視点や背景となる理論、目的の多様性に着目しながら、研究者として、あるいは実践者としてどのように授業研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。さらには、教師の専門的熟達を支える授業研究や校内研修体制を研究者や教育行政担当者としてどのように構築し支援していくかについて議論する。授業研究や教育実践研究の、教育学研究、教師の学習環境、教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。また、教育実践研究において多くとられる事例研究や質的研究について、その進めかたや留意点、認識論について理解することを通して、質の高い授業研究や教育実践研究のあり方についても検討する。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス第2回～第7回 発表担当者による文献の概要報告および議論と解説今年度は、授業研究とデータや事例の解釈について検討を進める。
授 業 の 方 法	1. 授業研究や教育実践研究の理論や方法について文献を講読することを通して理解する。2. 事例研究や質的研究法に関する文献の講読を通して研究の方法論的基礎を固める。3. 国内外の「授業研究」や「教育実践研究」に関する文献を講読することを通して、授業研究の可能性や課題について検討する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-301-03	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	秋田 喜代美				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)				
講 義 題 目	保育学研究 Studies on Early Childhood Education				

授 業 の 目 標・概 要	保育者の専門性とキャリア形成に関する文献等での検討を行う。
授 業 計 画	上記テーマに関する近年の研究文献を順に読みあい議論を通して理解を深める。また幼稚園か保育所でのフィールド観察とその記録や分析の検討を合わせて行う。
授 業 の 方 法	毎回文献の講読と議論を中心にするが、1回は園での保育参観とそれに基づく議論を行う予定である。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	学期当初に講読文献を指定する。前半ではまず以下の本を読む予定である。OECD 2019 TALIS Starting Strong 2018 Technical report. Paris/OECD
履修上の注意・備考	フィールドワーク等が含まれるために、園参観の日などは1限からとなることもあることには留意されて参加されたい。
そ の 他	原則として隔週で1, 2時間目2コマ連続で実施予定である。日程は初回時に教示する、。
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/staff
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-04	単 位 数	2	学 期	その他
担 当 教 員					
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)				
講 義 題 目	教職経験の研究 Research on Teaching Experience				

授 業 の 目 標・概 要	授業を中心とする教職経験は、その語りによってその意味を構成され規定されている。この授業では教育にナラティブな方法でアプローチする研究論文の講読を通して、経験をとらえる理論と方法を考察する。今年度はスウェーデンのレッジョ・インスパイアの幼児教育に関する理論的・実践的な文献を読む。教育ドキュメンテーションに関する文献のうち、創造性にアプローチするものを中心にする。スウェーデンのレッジョ・インスパイアの幼児教育を主導した Gunilla Dahlberg をゲストに迎え、文献について話をしてもらう予定である。
授 業 計 画	1・2回 オリエンテーションとテーマ設定3・4回 文献購読5・6回 文献購読7・8回 ゲスト講師9・10回 ゲスト講師11・12回 グループワーク13回 グループワークの発表
授 業 の 方 法	文献購読グループワーク
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	倉 石 一 郎				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	包摂と排除の教育学:比較教育福祉社会史の視点から On Inclusion and exclusion in education: From the perspective of comparative social history of education-welfare				

授 業 の 目 標・概 要	教育福祉の重要な一角をなす教育支援の意義、可能性、限界を、米国のビジティング・ティーチャーおよび日本の福祉教員制度の成立史を手がかりに理解し、教育福祉の理解に不可欠の知識・教養を獲得すること。教育支援の理解に不可欠な、背景となる社会科学的素養を獲得すること。
授 業 計 画	第 1 回:子どもをとりまく困難と教育福祉・教育支援の重要性第 2 回:アメリカの学校教育の特性:日本との類似と相違点第 3 回:映画『The Miracle Worker(奇跡の人)』に隠されたテーマ第 4 回:アメリカ教育福祉の前史(植民地期から 19 世紀後半までの救済事業)第 5 回:20 世紀初頭アメリカの社会状況:革新主義の潮流、児童救済運動、進歩主義教育運動第 6 回:ビジティング・ティーチャー登場の背景:ニューヨーク市の動向第 7 回:初期ビジティング・ティーチャーの活躍から制度化へ第 8 回:ビジティング・ティーチャーと障害児特別学級の開始第 9 回:「精神衛生」運動ブームのなかのビジティング・ティーチャー第 10 回:アメリカのソーシャルワーク点描:映画『プレシャス』を視聴しながら第 11 回:戦後日本の教育における包摂と排除の構図第 12 回:長欠・不就学問題と福祉教員制度の誕生第 13 回:福祉教員の業務の変容
授 業 の 方 法	講義およびディスカッションによる。必要に応じて視聴覚教材も使用する。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	倉石一郎『アメリカ教育福祉社会史序説:ビジティング・ティーチャーとその時代』春風社、2014 年、ISBN:978-4861104169
履修上の注意・備考	教科書を必ず購入しておくこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	姫野 完治				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教師の学びと教師教育 Teacher Learning and Teacher Education				

授 業 の 目 標・概 要	本講義は、今後の学校教育の直接的な担い手である教師を育む上で基盤となる教師研究について深く理解することを目指し、教師教育の思想や制度、カリキュラムにおいて「教師が学ぶということ」および「教師を教育すること」がどのように捉えられてきたのかを概観するとともに、教師の成長・発達のプロセスや、教師のわざ・知恵を伝承するための方法等について検討する。
授 業 計 画	第 1 回 : ガイダンス: 教師研究のこれまで 第 2 回 : 教師の学びと教師教育: 教師を目指す学生の学びのプロセスからみえること 第 3 回 : 学び続ける教師の学びの特質: 開いた教師・閉じた教師 第 4 回 : 教師の学びと授業研究①: 校内授業研究の意義と課題 第 5 回 : 教師の学びと授業研究②: 「授業研究」から「授業を研究する自己の研究」へ 第 6 回 : 教師のわざを科学すること: 教師にとっての実践研究の意義 第 7 回 : 教師のわざと「みえ」①: ベテラン教師と教育実習生の授業実施中の「みえ」の比較 第 8 回 : 教師のわざと「みえ」②: 教師の「みえ」をいかに伝承するか 第 9 回 : 教師の養成・研修と質保証: 教員育成指標・モデルコアカリキュラムの光と影 第 10 回 : 教師の学びと教師教育: 教職の高度化とは何か 第 11 回 : 教師を教育するのは誰か: 教師教育者研究の胎動 第 12 回 : 教師の学びを促す教育と環境: これからの教師の学びを考える 第 13 回 : これからの教師研究に求められること
授 業 の 方 法	受講者の人数にもよるが、講義、個人やグループでの課題探究、参加者同士のディスカッションにより進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	本講義は、参加者同士のディスカッションや協働によるワークがあります。人それぞれの考えや立ち位置の違いをふまえて、これからの教師の学びや教師研究と一緒に考えていきましょう。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 U R L	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐藤 将之				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	こども環境デザイン特論 Advanced children's environmental design				

授 業 の 目 標・概 要	この講義では、こども環境や環境デザインに関する原理や学問としての規範的理論からこれらに関する実践や実践的理論や最前線の研究まで幅広くこども環境デザインを取り扱う。この講義でいうデザイン論とは、単にデザイナー向けのものだけではなく、ユーザー向けの意識啓蒙や環境への構え、環境とのつきあい方を意識したものを含んでいる。これらの知識を前提として、環境デザインや人間環境のコーディネートを検討することも目的のひとつとしている。
授 業 計 画	01) こども環境/環境デザイン の諸説 02) 保育の環境デザイン 01 保育建築のこれまで 03) 保育の環境デザイン 02 屋内環境を創る 04) 保育の環境デザイン 03 活動からみた保育環境 05) 保育の環境デザイン 04 屋外環境を創る 06) 学校の環境デザイン 01 開かれた教室と教育 07) 学校の環境デザイン 02 施設一体型小中一貫校 08) 学校の環境デザイン 03 多様な学習に応じた学校空間 09) 保育・学校建築のプロセスデザイン/ 安全安心と環境デザイン 10) 児童福祉の環境デザイン 01 子育て支援・学童等 11) 児童福祉の環境デザイン 02 児童養護等 12) こどもと住居 13) ごちゃまぜのこども環境デザイン 幼老複合施設の環境・駄菓子屋付帯 14) ごちゃまぜのこども環境デザイン 都市空間と子ども 15) まとめ
授 業 の 方 法	話題提供およびそれに関連したディスカッション
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	こどもの環境づくり事典, ほか参考図書等講義でアナウンスします。
履修上の注意・備考	特に無し
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.f.waseda.jp/satomasayuki/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-08	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日的な学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション(国語科教育における理論) 2. 国語科教育の目標、内容構造 3. 国語科における学習過程と指導方法 4-6. 教科書教材(「読むこと」)の分析 7-9. 国語学力の測定と教員養成における「国語」10-12. 授業事例(実践記録・授業映像)の検討 13. 総括討論
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストを各自で購入し持参すること。
関連ホームページ	https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/hamada-laboratory/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	近藤 孝弘				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から History and Civic Education for Democratic Citizenship in Austria and Germany				

授 業 の 目 標・概 要	戦後世界のなかに民主主義国家を建設・維持するために、ドイツならびにオーストリアではどのような歴史教育と政治教育が進められてきたのかを理解し、それを通して、これまでの日本の教育になにが不足していたのかを考察する。
授 業 計 画	この 2 単位の集中講義は以下の内容を含み、3 日間にわたって実施される。第1回：戦後ドイツの政治と社会について第2回：戦闘的民主主義と憲法愛国主義の考え方第3回：国際歴史教科書対話の思想第4回：戦前におけるドイツ・フランス歴史教科書対話の開始第5回：戦後初期のドイツ・フランス歴史教科書対話の再開第6回：戦前におけるドイツ・ポーランド歴史教科書対話開始第7回：戦後のドイツ・ポーランド歴史教科書対話の発展第8回：ヨーロッパにおける国際的な共同歴史教科書作成プロジェクト第9回：ドイツの外交政策のなかの国際教科書研究第10回：ドイツとオーストリアの歴史教育の比較第11回：ドイツにおける政治教育の発展第12回：現実の政治問題に取り組む政治教育第13回：オーストリアにおける政治教育の発展
授 業 の 方 法	講義を基本とするが、環境が許す範囲で受講者による能動的な学習の可能性を追求する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業開始時に資料を配布する。
履修上の注意・備考	基本的に他の集中講義科目に準ずる。質問がある場合には授業期間中に担当教員に問い合わせること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	有本 真紀				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受けたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。
授 業 計 画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と討論を行う。 ・人と音楽行動の根源 ・儀式と音楽 ・芸としての音楽 ・近代学校の中の音楽教育 ・専門教育としての音楽教育 ・教養教育としての音楽教育 ・社会教育と音楽 ・メディアと音楽教育 ・音楽教育と記憶
授 業 の 方 法	講義と発表および討論。担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と話題提供を行い、全員による討論を通して理解を深める。可能であれば聞き取り調査を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-11	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	佐藤 修司				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育法制の理論と展開 Theory and Development of Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	戦後から現在にいたるまでの、教育法学、特に国民の教育権論に関わる教育法理論の展開を、代表的な論者を取り上げながらその時代背景とともに検討する。受講者は、戦後の教育法学の成果と課題を把握し、現在の教育状況、社会状況、理論状況を踏まえた上で、教育法に関わる自分なりの理論展開を構想することができるようになる。
授 業 計 画	1. 内外事項区分論と教育法学 2. 戦後教育改革とキャンデル 3. 戦間期アメリカの理論状況 4. 1947 年教育基本法と 2006 年教育基本法 5. 国民の教育権論の誕生 6. 国民の教育権論の発展 7. 国民の教育権論の種々相 8. 国民の教育権論への初期の批判 9. 子どもの人権、親の権利からの批判 10. 選択の自由からの批判 11. 憲法学からの批判 12. 法学以外からの批判 13. 近年の状況
授 業 の 方 法	受講者は担当を決めて、指定する論文等の内容について整理し、レジュメを作成し、全員の討議を通じて理解を深まる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	論文を適宜配布する。
履修上の注意・備考	事前に論文を読んでおくこと
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-12	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の検討にかかわる論文を読む。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)				
講 義 題 目	言語教育の事例研究 Case Studies on Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	言語教育の実践を、個々の指導現場での事例に即して分析することにより、言語教育についての理解を深め、よりよい言語教育の理論と方法論を研究する。まず言語教育および事例研究の理念と方法論について概観したのち、主にビデオや DVD 資料を用いて、さまざまな言語教育の実践を個々の事例に即して見ていく。
授 業 計 画	第1回:ガイダンス第2回:日本の初等教育における外国語活動の事例(小学校)第3回:日本の中等教育における英語教育の事例(中学校)第4回:日本の中等教育における英語教育の事例(高等学校)第5回:日本の高等教育における英語教育の事例(大学)第6回:日本における国語教育の事例第7回:日本における外国人に対する日本語教育の事例第8回:英語圏における英語話者に対する英語教育の事例第9回:英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(初級)第10回:英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(中・上級)第11回:日本における英語以外の外国語教育の事例第12回:外国における英語以外の外国語教育の事例第13回:日本における特殊な英語教育の事例(早期教育、イマージョンなど)第14回:その他の事例第15回:まとめ
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注意すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	プリント使用。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析史、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-14	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)				
講 義 題 目	人文社会教育の事例研究 Case Studies of Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育観や学力観が大きく変化している今日、学校教育の現場でもさまざまな取り組みが国内外で積み重ねられている。既存の教科枠組みに必ずしも縛られることなく、さまざまな授業の実践についての理解を深めることが、本講義の目的である。とくに、グローバル化時代の学校教育のあり方を考えるために、教科としては社会科を中心としつつ、総合的な学習の時間を利用した国際理解教育や ESD(持続可能な開発のための教育)などについてみていきたいと考えている。
授 業 計 画	第 1 回: 導入(講義の説明): グローバル化時代の学校教育における授業のあり方 第 2 回: 社会科の事例研究(1) 第 3 回: 社会科の事例研究(2) 第 4 回: 総合的な学習の時間の事例研究(1) 第 5 回: 総合的な学習の時間の事例研究(2) 第 6 回: 新しい概念にもとづく授業の事例研究/その他の教科の事例研究 第 7 回: まとめ* 履修者の関心を踏まえて、研究する授業の事例については修正を行うことがある。
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	講義のなかで指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもとめられる。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。修士1年生は冬学期以降の履修を原則とする。時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校における特定の教科について継続的にフィールドワーク(授業観察等)を行い、そこでの教科学習のプロセスについて学習者の視点から理解を深めることを目標とする。各自、研究テーマを設定して上記のフィールドワークを実施して、教科学習のプロセスについての心理学的分析を行い、その研究レポートを作成して提出する。
授 業 計 画	最初にガイダンスを行い、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画にもとづき、依頼する学校や教師との協議の後、フィールドワークを実施する。中間発表会および最終報告会を実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは原則として認められない。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	必要に応じて、履修中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	本授業を履修する際には、前学期(セメスター)までに、①基本研究または発展研究、②事例研究の①および②を履修済みであることが必要である。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	秋田 喜代美				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく形をとる。また研究室MLへの参加によって日々検討を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。夏休み前後等にはまとめて終日指導等を行うことがある。
そ の 他	隔週とあるが開講日は追って授業開始日にアナウンスをする。人数により毎週4－7、10－1月は実際されることもある。
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/staff
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	秋田 喜代美				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく形をとる。また研究室MLへの参加によって日々検討を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。夏休み前後等にはまとめて終日指導等を行うことがある。
そ の 他	隔週とあるが開講日は追って授業開始日にアナウンスをする。人数により毎週4－7、10－1月は実際されることもある。
関連ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/staff
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエストを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエストから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエストを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエストから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導：参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導：研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Teacher Professional Development				

授 業 の 目 標・概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Teacher Professional Development				

授 業 の 目 標・概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

学校教育高度化専攻 教育内容開発コース

時 間 割 コード	23-302-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研究)				
講 義 題 目	数学的・科学的思考の発達と学習過程 Development of Mathematical and Scientific Thinking and Learning Processes				

授 業 の 目 標・概 要	子どもの数学的思考・科学的思考の発達と学習過程について、教育心理学や発達心理学領域の領域で、どのような知見が得られているか、またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて、教科書や国内外の学術誌掲載論文等の実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。 数学的思考、科学的思考の発達については、問題解決 (problem solving)、概念変化 (conceptual change)、概念的理解 (conceptual understanding) と手続き的知識 (procedural knowledge) の関係性、他者との社会的相互作用 (social interaction) などに焦点をあて、認知発達研究や個別・協同介入研究の知見やそれを導く心理学の研究的方法論について、解説と検討を行う。数学、科学に関する学習過程については、言語に関わる学習を含めて、探究や協同を含む教科学習の認知プロセスに焦点をあて、その知見と方法論について解説と検討を行う。
授 業 計 画	1: 数学的思考・科学的思考をめぐる状況と教育心理学・発達心理学研究 2: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点①手続き的知識 3: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点②概念的理解 4: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点③定型の問題解決 5: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点④非定型の問題解決 6: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点①概念変化 7: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点②探究過程 8: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点③社会的相互作用 9: 教科学習の認知プロセス①授業を通じた言語的思考の高まり 10: 教科学習の認知プロセス②授業を通じた数学的思考の高まり 11: 教科学習の認知プロセス③授業を通じた科学的思考の高まり 12: 教科学習の認知プロセス④思考・理解の時間的・空間的広がりや深まり 13: 教科教育の心理学の展開: 発達と学習の相互関係を探る
授 業 の 方 法	授業の内容について、教科書や参考書を用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献について、各参加者はレポートとコメントを行い、参加者全体で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履修上の注意・備考	期末レポートや授業におけるレポートに加えて、他の参加者のレポートや教員による解説に関する討論に対する積極的な参加が望まれる。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)				
講 義 題 目	英語教授法 English Language Teaching Methodologies				

授 業 の 目 標・概 要	外国語教授法、特に英語教授法に関する諸理論を細かく検討し、それらが日本の学校英語教育に応用可能なものかどうかを議論する。
授 業 計 画	第1回: Grammar-Translation Method 第2回: 訳読第3回: Oral Method 第4回: Audio-Lingual Method 第5回: Total Physical Response 第6回: Suggestopedia 第7回: Silent Method 第8回: Oral Introduction 第9回: Communicative Approach 第10回: Task-Based Language Teaching 第11回: Focus on Form 第12回: Content and Language Integrated Learning 第13回: 多読第14回: その他の教授法第15回: まとめ
授 業 の 方 法	毎回の発表担当者がそれぞれの教授法の歴史、理論、実践などについて調査し、それを授業で発表する。その発表に基づいて議論をし、それぞれの教授法についての理解を深めるとともに、それらが現在の日本の英語教育の現場に応用可能なものかを検討する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても授業で扱う教授法を勉強し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-03	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)				
講 義 題 目	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts Education in the Era of Globalization: Asian Contexts				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	This course aims at helping students better understand current situations of education in Asia, particularly under the influence of globalization. We will discuss theoretical, institutional and practical dimensions of education, with particular interests of how education could contribute to the promotion and realization of more sustainable society.
授 業 計 画	1. Introduction to the course 2. Globalization and education 3. Global education networks and discourses 4. Global model of education and international agencies 5. Education for Sustainable Development (ESD) 6. Local contexts of education and global mobility of the people 7. Concluding session
授 業 の 方 法	Each student will assign one of the reading materials and make presentation on it in the class. Based on the presentation, we will discuss various issues raised in the reading material. Also, students will write a short essay for each reading material to
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	Joel Spring (2009) Globalization of Education: An Introduction. New York and London: Routledge.
履修上の注意・備考	Please note that the syllabus has been modified and we will not have the intensive lectures. The lectures will take place on every Tuesdays (1st and 2nd periods).Also, active participation in the discussion is expected.
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-302-04	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日的な学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション(国語科教育における理論) 2. 国語科教育の目標、内容構造 3. 国語科における学習過程と指導方法 4-6. 教科書教材(「読むこと」)の分析 7-9. 国語学力の測定と教員養成における「国語」10-12. 授業事例(実践記録・授業映像)の検討 13. 総括討論
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストを各自で購入し持参すること。
関連ホームページ	https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/hamada-laboratory/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-05	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	近藤 孝弘				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)				
講 義 題 目	民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から History and Civic Education for Democratic Citizenship in Austria and Germany				

授 業 の 目 標・概 要	戦後世界のなかに民主主義国家を建設・維持するために、ドイツならびにオーストリアではどのような歴史教育と政治教育が進められてきたのかを理解し、それを通して、これまでの日本の教育になにが不足していたのかを考察する。
授 業 計 画	この 2 単位の集中講義は以下の内容を含み、3 日間にわたって実施される。第1回：戦後ドイツの政治と社会について第2回：戦闘的民主主義と憲法愛国主義の考え方第3回：国際歴史教科書対話の思想第4回：戦前におけるドイツ・フランス歴史教科書対話の開始第5回：戦後初期のドイツ・フランス歴史教科書対話の再開第6回：戦前におけるドイツ・ポーランド歴史教科書対話開始第7回：戦後のドイツ・ポーランド歴史教科書対話の発展第8回：ヨーロッパにおける国際的な共同歴史教科書作成プロジェクト第9回：ドイツの外交政策のなかの国際教科書研究第10回：ドイツとオーストリアの歴史教育の比較第11回：ドイツにおける政治教育の発展第12回：現実の政治問題に取り組む政治教育第13回：オーストリアにおける政治教育の発展
授 業 の 方 法	講義を基本とするが、環境が許す範囲で受講者による能動的な学習の可能性を追求する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業開始時に資料を配布する。
履修上の注意・備考	基本的に他の集中講義科目に準ずる。質問がある場合には授業期間中に担当教員に問い合わせること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	有本 真紀				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)				
講 義 題 目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受けたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。
授 業 計 画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と討論を行う。・人と音楽行動の根源 ・儀式と音楽 ・芸としての音楽 ・近代学校の中の音楽教育 ・専門教育としての音楽教育 ・教養教育としての音楽教育 ・社会教育と音楽 ・メディアと音楽教育 ・音楽教育と記憶
授 業 の 方 法	講義と発表および討論。担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と話題提供を行い、全員による討論を通して理解を深める。可能であれば聞き取り調査を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	倉石 一郎				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	包摂と排除の教育学: 比較教育福祉社会史の視点から On Inclusion and exclusion in education: From the perspective of comparative social history of education-welfare				

授 業 の 目 標・概 要	教育福祉の重要な一角をなす教育支援の意義、可能性、限界を、米国のビジティング・ティーチャーおよび日本の福祉教員制度の成立史を手がかりに理解し、教育福祉の理解に不可欠の知識・教養を獲得すること。教育支援の理解に不可欠な、背景となる社会科学的素養を獲得すること。
授 業 計 画	第 1 回: 子どもをとりまく困難と教育福祉・教育支援の重要性第 2 回: アメリカの学校教育の特性: 日本との類似と相違点第 3 回: 映画『The Miracle Worker(奇跡の人)』に隠されたテーマ第 4 回: アメリカ教育福祉の前史(植民地期から 19 世紀後半までの救済事業)第 5 回: 20 世紀初頭アメリカの社会状況: 革新主義の潮流、児童救済運動、進歩主義教育運動第 6 回: ビジティング・ティーチャー登場の背景: ニューヨーク市の動向第 7 回: 初期ビジティング・ティーチャーの活躍から制度化へ第 8 回: ビジティング・ティーチャーと障害児特別学級の開始第 9 回: 「精神衛生」運動ブームのなかのビジティング・ティーチャー第 10 回: アメリカのソーシャルワーク点描: 映画『プレシャス』を視聴しながら第 11 回: 戦後日本の教育における包摂と排除の構図第 12 回: 長欠・不就学問題と福祉教員制度の誕生第 13 回: 福祉教員の業務の変容
授 業 の 方 法	講義およびディスカッションによる。必要に応じて視聴覚教材も使用する。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	倉石一郎 『アメリカ教育福祉社会史序説: ビジティング・ティーチャーとその時代』 春風社、2014 年、ISBN:978-4861104169
履修上の注意・備考	教科書を必ず購入しておくこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	姫野 完治				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教師の学びと教師教育 Teacher Learning and Teacher Education				

授 業 の 目 標・概 要	本講義は、今後の学校教育の直接的な担い手である教師を育む上で基盤となる教師研究について深く理解することを目指し、教師教育の思想や制度、カリキュラムにおいて「教師が学ぶということ」および「教師を教育すること」がどのように捉えられてきたのかを概観するとともに、教師の成長・発達のプロセスや、教師のわざ・知恵を伝承するための方法等について検討する。
授 業 計 画	第 1 回 : ガイダンス: 教師研究のこれまで 第 2 回 : 教師の学びと教師教育: 教師を目指す学生の学びのプロセスからみえること 第 3 回 : 学び続ける教師の学びの特質: 開いた教師・閉じた教師 第 4 回 : 教師の学びと授業研究①: 校内授業研究の意義と課題 第 5 回 : 教師の学びと授業研究②: 「授業研究」から「授業を研究する自己の研究」へ 第 6 回 : 教師のわざを科学すること: 教師にとっての実践研究の意義 第 7 回 : 教師のわざと「みえ」①: ベテラン教師と教育実習生の授業実施中の「みえ」の比較 第 8 回 : 教師のわざと「みえ」②: 教師の「みえ」をいかに伝承するか 第 9 回 : 教師の養成・研修と質保証: 教員育成指標・モデルコアカリキュラムの光と影 第 10 回 : 教師の学びと教師教育: 教職の高度化とは何か 第 11 回 : 教師を教育するのは誰か: 教師教育者研究の胎動 第 12 回 : 教師の学びを促す教育と環境: これからの教師の学びを考える 第 13 回 : これからの教師研究に求められること
授 業 の 方 法	受講者の人数にもよるが、講義、個人やグループでの課題探究、参加者同士のディスカッションにより進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	本講義は、参加者同士のディスカッションや協働によるワークがあります。人それぞれの考えや立ち位置の違いをふまえて、これからの教師の学びや教師研究と一緒に考えていきましょう。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 U R L	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐藤 将之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	こども環境デザイン特論 Advanced children's environmental design				

授 業 の 目 標・概 要	この講義では、こども環境や環境デザインに関する原理や学問としての規範的理論からこれらに関する実践や実践的理論や最前線の研究まで幅広くこども環境デザインを取り扱う。この講義でいうデザイン論とは、単にデザイナー向けのものだけではなく、ユーザー向けの意識啓蒙や環境への構え、環境とのつきあい方を意識したものを含んでいる。これらの知識を前提として、環境デザインや人間環境のコーディネートを検討することも目的のひとつとしている。
授 業 計 画	01) こども環境/環境デザイン の諸説 02) 保育の環境デザイン 01 保育建築のこれまで 03) 保育の環境デザイン 02 屋内環境を創る 04) 保育の環境デザイン 03 活動からみた保育環境 05) 保育の環境デザイン 04 屋外環境を創る 06) 学校の環境デザイン 01 開かれた教室と教育 07) 学校の環境デザイン 02 施設一体型小中一貫校 08) 学校の環境デザイン 03 多様な学習に応じた学校空間 09) 保育・学校建築のプロセスデザイン/ 安全安心と環境デザイン 10) 児童福祉の環境デザイン 01 子育て支援・学童等 11) 児童福祉の環境デザイン 02 児童養護等 12) こどもと住居 13) ごちゃまぜのこども環境デザイン 幼老複合施設の環境・駄菓子屋付帯 14) ごちゃまぜのこども環境デザイン 都市空間と子ども 15) まとめ
授 業 の 方 法	話題提供およびそれに関連したディスカッション
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	こどもの環境づくり事典, ほか参考図書等講義でアナウンスします。
履修上の注意・備考	特に無し
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.f.waseda.jp/satomasayuki/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-10	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	佐藤 修司				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育法制の理論と展開 Theory and Development of Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	戦後から現在にいたるまでの、教育法学、特に国民の教育権論に関わる教育法理論の展開を、代表的な論者を取り上げながらその時代背景とともに検討する。受講者は、戦後の教育法学の成果と課題を把握し、現在の教育状況、社会状況、理論状況を踏まえた上で、教育法に関わる自分なりの理論展開を構想することができるようになる。
授 業 計 画	1. 内外事項区分論と教育法学 2. 戦後教育改革とキャンデル 3. 戦間期アメリカの理論状況 4. 1947 年教育基本法と 2006 年教育基本法 5. 国民の教育権論の誕生 6. 国民の教育権論の発展 7. 国民の教育権論の種々相 8. 国民の教育権論への初期の批判 9. 子どもの人権、親の権利からの批判 10. 選択の自由からの批判 11. 憲法学からの批判 12. 法学以外からの批判 13. 近年の状況
授 業 の 方 法	受講者は担当を決めて、指定する論文等の内容について整理し、レジュメを作成し、全員の討議を通じて理解を深まる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	論文を適宜配布する。
履修上の注意・備考	事前に論文を読んでおくこと
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	言語教育の事例研究 Case Studies on Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	言語教育の実践を、個々の指導現場での事例に即して分析することにより、言語教育についての理解を深め、よりよい言語教育の理論と方法論を研究する。まず言語教育および事例研究の理念と方法論について概観したのち、主にビデオや DVD 資料を用いて、さまざまな言語教育の実践を個々の事例に即して見ていく。
授 業 計 画	第1回:ガイダンス第2回:日本の初等教育における外国語活動の事例(小学校)第3回:日本の中等教育における英語教育の事例(中学校)第4回:日本の中等教育における英語教育の事例(高等学校)第5回:日本の高等教育における英語教育の事例(大学)第6回:日本における国語教育の事例第7回:日本における外国人に対する日本語教育の事例第8回:英語圏における英語話者に対する英語教育の事例第9回:英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(初級)第10回:英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(中・上級)第11回:日本における英語以外の外国語教育の事例第12回:外国における英語以外の外国語教育の事例第13回:日本における特殊な英語教育の事例(早期教育、イマージョンなど)第14回:その他の事例第15回:まとめ
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	プリント使用。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-12	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	人文社会教育の事例研究 Case Studies of Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育観や学力観が大きく変化している今日、学校教育の現場でもさまざまな取り組みが国内外で積み重ねられている。既存の教科枠組みに必ずしも縛られることなく、さまざまな授業の実践についての理解を深めることが、本講義の目的である。とくに、グローバル化時代の学校教育のあり方を考えるために、教科としては社会科を中心としつつ、総合的な学習の時間を利用した国際理解教育や ESD(持続可能な開発のための教育)などについてみていきたいと考えている。
授 業 計 画	第 1 回: 導入(講義の説明): グローバル化時代の学校教育における授業のあり方 第 2 回: 社会科の事例研究(1) 第 3 回: 社会科の事例研究(2) 第 4 回: 総合的な学習の時間の事例研究(1) 第 5 回: 総合的な学習の時間の事例研究(2) 第 6 回: 新しい概念にもとづく授業の事例研究/その他の教科の事例研究 第 7 回: まとめ* 履修者の関心を踏まえて、研究する授業の事例については修正を行うことがある。
授 業 の 方 法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	講義のなかで指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オ ン ラ イ ン 授 業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-13	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の検討にかかわる論文を読む。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校における特定の教科について継続的にフィールドワーク(授業観察等)を行い、そこでの教科学習のプロセスについて学習者の視点から理解を深めることを目標とする。各自、研究テーマを設定して上記のフィールドワークを実施して、教科学習のプロセスについての心理学的分析を行い、その研究レポートを作成して提出する。
授 業 計 画	最初にガイダンスを行い、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画にもとづき、依頼する学校や教師との協議の後、フィールドワークを実施する。中間発表会および最終報告会を実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは原則として認められない。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	必要に応じて、履修中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	本授業を履修する際には、前学期(セメスター)までに、①基本研究または発展研究、②事例研究の①および②を履修済みであることが必要である。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもとめられる。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。修士1年生は冬学期以降の履修を原則とする。時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標・概 要	教科教育(算数・数学教育, 科学教育など)に関連する研究について, 修士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に, 研究の進め方, 論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して, 先行研究の検討, 研究目的・研究計画の設定, 実証的研究の実施, 研究結果の心理学的分析, 分析結果にもとづく考察について, 研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は, 一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い, その発表内容について, 参加者全員で集団的に検討を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	原則として, 自身が研究発表を行うだけではなく, 他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標・概 要	教科教育(算数・数学教育, 科学教育など)に関連する研究について, 博士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に, 研究の進め方, 論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して, 研究の全体構想, 先行研究の検討, 研究目的・研究計画の設定, 実証的研究の実施, 研究結果の心理学的分析, 分析結果にもとづく考察について, 研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は, 一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い, その発表内容について, 参加者全員で集団的に検討を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	原則として, 自身が研究発表を行うだけでなく, 他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	とくになし
履修上の注意・備考	とくになし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	有本 真紀				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)				
講 義 題 目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	主に音楽教育にかかわるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	初回に、履修者個別の研究関心と研究計画を聞いたうえで、その後の執筆計画を立てる。論文執筆を進める中で、問題関心と研究の目的、先行研究のレビュー、研究の理論的枠組み、研究方法、史資料やデータの分析、などについての理解を深める。
授 業 の 方 法	年度の初めに履修者との面談を行い、それぞれの研究関心に沿って論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループでの討論や検討を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	有本 真紀				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)				
講 義 題 目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	主に音楽教育にかかわるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	初回に、履修者個別の研究関心と研究計画を聞いたうえで、その後の執筆計画を立てる。論文執筆を進める中で、問題関心と研究の目的、先行研究のレビュー、研究の理論的枠組み、研究方法、史資料やデータの分析、などについての理解を深める。
授 業 の 方 法	年度の初めに履修者との面談を行い、それぞれの研究関心に沿って論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループでの討論や検討を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-24	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	荒木 啓史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	Research Methods in Education Research Methods in Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	Are you a quantitative researcher or a qualitative researcher (or a mixed methodologist)? This is the frequently asked question in academia. However, what do “quantitative” and “qualitative” mean in educational research? Aren’t there any risks by adopting this dichotomous perspective when you investigate your research question? Understanding the advantages and limitations of various research methods, ranging from classical approaches to state-of-the-art ones, is essential for students to conduct quality independent research whilst critically assessing prior academic work. This course aims to develop students’ knowledge and skills concerning research methods in education via lectures, discussions, and presentations. Having successfully completed the course, students will be able to:- understand and explain the basic concept, advantages, and limitations of research methods in education;- critically assess previous educational research in terms of research methods;- design and use appropriate research methods in accordance with their own research interests/questions.
授 業 計 画	■26 January 2021 (Tuesday)1. Introduction to research methods in education2. Research questions3. Literature review■27 January 2021 (Wednesday)4. Qualitative research 1: Scope and basic concepts5. Qualitative research 2: Application and further development6. Quantitative research 1: Scope and basic concepts7. Quantitative research 2: Application and further development■28 January 2021 (Thursday)8. Mixed methods 1: Scope and basic concepts9. Mixed methods 2: Application and further development10. Research writing■29 January 2021 (Friday)11. Presentation by students 112. Presentation by students 213. Summary and feedback
授 業 の 方 法	I will give an introductory lecture at the beginning of each class, followed by discussions around the advantages and limitations of existing research methods in education. Students are encouraged to read the relevant literature (see “Reference” below) be
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	There is no textbook for this course. I will prepare presentations for each class and share them with students. In the meantime, students are encouraged to read the literature as indicated below.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Although the primary language of instruction will be English, all students regardless of English proficiency are welcome to take this course. If you are interested in this course but foresee a clash with other courses and/or assignments, please feel free
そ の 他	
関 連 ホーム ページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

学校教育高度化専攻 学校開発政策コース

時 間 割 コード	23-303-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)				
講 義 題 目	現代学校改革の諸問題 Issues in Contemporary School Reforms				

授 業 の 目 標・概 要	現代日本(及び諸外国)の学校改革に関する政策や制度改革、及びその学校教育に及ぼす影響について、考察を深めることを目的とし、そのために必要な理論や概念の獲得を目指す。授業は、その週でとりあげる理論・概念や課題について、指定された文献の内容を基に議論を行い、理解を深める形で進める。参加者は、指定された文献を読んで、内容に関する意見・疑問を整理して授業に臨み、議論に参加することが求められる。
授 業 計 画	以下のようなテーマ、文献をとりあげる(変更がありうる)。①政治(官僚制)批判と市場の優位性(1) ミルトン・フリードマン(村井章子訳)『資本主義と自由』(日経 BP、2008 年)、第 2 章「自由社会における政府の役割」、第 6 章「教育における政府の役割」②政治(官僚制)批判と市場の優位性(2) Chubb, J. E. & Moe, T. M. (1990) Politics, Markets and America's School, Washington: Brookings Institute Press. Chap. 2 An institutional perspective on schools Chap3. The organizations of effective schools ③社会関係資本・「信頼」と学校改善(1) 稲葉陽二ほか編『ソーシャル・キャピタルのフロンティア-その到達点と可能性-』(ミネルヴァ書房、2011 年)序章「ソーシャル・キャピタルとは」、第 1 章「座談会—ソーシャル・キャピタルの多面性」、第 8 章「教育」④社会関係資本・「信頼」と学校改善(2) Bryk, A. & Schneider, B. (2002) Trust in schools: A core resource for Improvement, New York: Russell Sage Foundation. Chap.2 Relational trust Chap.6 Relational trust and improving academic achievement ⑤ヒューマン・サービス組織と専門職(1) 田尾雅夫『ヒューマン・サービスの組織 医療・保健・福祉における経営管理』(法律文化社、1995 年)第 2 章「ヒューマン・サービスの組織」第 5 章「プロフェッショナリズム」⑥ヒューマン・サービス組織と専門職(2) 田尾雅夫『ヒューマン・サービスの組織 医療・保健・福祉における経営管理』(法律文化社、1995 年)第 7 章「クライアント関係(1) クライアント支配の構造」第 8 章「クライアント関係(2) 協働関係の形成と維持」⑦学校におけるリーダーシップへのアプローチ 露口健司『学校組織のリーダーシップ』(大学教育出版、2008 年)第 1 章 校長のリーダーシップ研究の課題と展望 第 2 章 リーダーシップ・アプローチの開発 ⑧分散型リーダーシップ(1) Spillane, J.P. & Diamond, J.B. (2007). Distributed leadership in practice. New York: Teachers college Press. Chap.1 Taking a distributed perspective Chap. 2 Spanning the boundary between school leadership and classroom instruction at Hillside Elementary School ⑨分散型リーダーシップ(2) Spillane, J.P. & Diamond, J.B. (2007). Distributed leadership in practice. New York: Teachers college Press. Chap.3 Systems of practice and professional community: The Adams case Chap. 6 The practice of leadership in Mathematics and Language Arts: The Adams case
授 業 の 方 法	講義とその内容に関するディスカッションにより進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可

他大学生(特別聴講学生等)

履修 可

時 間 割 コー ド	23-303-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	教育政策基礎論 Foundation of Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	この授業の目的は、教育政策・行財政について研究を進めるうえで必要な知識と考え方を習得することにある。単に教育に関する法制度や政策について知るだけでなく、教育政策・行財政に関する理念・価値や考え方としてどのような類型や対立軸があるのかを理解し、教育政策・行政を考えるうえでの理論的視点を獲得することが目標である。
授 業 計 画	1 授業ガイダンス 2 教育行政・政治文献輪読 13 教育行政・政治文献輪読 24 教育行政・政治文献輪読 35 教育行政・政治文献輪読 46 教育行政・政治文献輪読 57 教育行政・政治文献輪読 68 教育財政・政策文献輪読 19 教育財政・政策文献輪読 210 教育財政・政策文献輪読 311 教育財政・政策文献輪読 412 教育財政・政策文献輪読 513 教育財政・政策文献輪読 6
授 業 の 方 法	英語文献の輪読を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。事前に課題文献(1 回につき、20～40 頁)を読んでおくことを前提とする。課題文献は初回時に教員と受講者で協議して決定する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	・事前に文献に目を通す時間を確保することが求められる。・教育政策・行政に関して学部レベルの知識を有していることを前提に授業を進めるため、教育政策・行政をはじめて学ぶ場合は、早い段階で学部レベルのテキスト(参考書に挙げているようなテキストを参照)に目を通しておくことが望ましい。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	https://zoom.us/j/324570684?pwd=ZktnUXlyTERmcHBLL056d3dzanFXQT09

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	中川 律				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	現代教育法の課題 Contemporary Issues in Education Law				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業は、教育法学の基本的な知識を土台に、現代における教育をめぐる諸課題を、法律学の視点から考察できるようになることを目標とするものである。内容は、教育裁判、教育制度、教育政策などを素材に、日本の現代的な動向を考察することに重点を置く(もちろん、比較法的な視点や歴史的な視点からの考察を排除するわけではない)。
授 業 計 画	各回の内容は受講者と相談のうえ決定する予定だが、おおよそ次のような内容について取扱うことができると考えている。1 教育制度の憲法論 中川律「教育制度の憲法論:2006 年教育基本法の下での教育制度改革に関する考察」佐々木弘通・大戸常寿編『現代社会と憲法学』(弘文堂、2015 年)2 教師の教育の自由の射程——「日の丸・君が代」裁判、七生養護学校性教育裁判 中川律「教師の教育の自由」法学セミナー712 号(2014 年) 中川律「教師の教育の自由の射程:旭川学力テスト事件最高裁判決再読」阪口正二郎・江島晶子・只野雅人・今野健一編『憲法の思想と発展:浦田一郎先生古稀記念』(信山社、2017 年) 中川律「日の丸・君が代」訴訟——到達点と課題」教育 1089 号(2012 年) 3 教科書検定制度改革 中川律「改めて憲法を考える(23)教科書検定制度と政府見解」時の法令 1978 号(2015 年) 中川律「教科書検定制度に関する考察」日本教育法学会年報 44 号(2015 年)4 教育勅語のどこが問題なのか? 中川律「改めて憲法を考える(37)教育勅語のどこが問題なのか?: 道徳教育のあり方を考えるために」時の法令 2035 号(2017 年) 中川律「国家の中立性概念の意味と意義: 教育を題材に」『憲法問題』29 号(2018 年)5 政治教育の仕組みはどうあるべきか? 中川律「改めて憲法を考える(29)学校での政治教育の仕組みは、どうあるべきか?: 18 歳選挙権をめぐる 1 つの論点」時の法令 1994 号(2016 年)6 高校生の政治的活動——文科省の新通知の問題点 中川律「改めて憲法を考える(32)高校生の政治的活動: 文科省の新通知の問題点」時の法令 2007 号(2016 年)7 教育委員会制度改革 中川律「改めて憲法を考える(14)教育委員会制度と教育を受ける権利: 改正地方教育行政法を考える」時の法令 1960 号(2014 年)8 学問の自由と大学の自治 中川律「改めて憲法を考える(17)大学の自治: 改正学校教育法・国立大学法人法を考える」時の法令 1966 号(2014 年)9 憲法を改正すれば教育は良くなるのか? 中川律「教育の無償化は憲法改正によって実現されるべきものなのか?」阪口正二郎・愛敬浩二・青井未帆『憲法改正をよく考える: Taking Constitution Seriously』(日本評論社、2018 年)10 朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える 中川律「朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える: 3 つの地裁判決を素材に」法学セミナー757 号(2018 年) 中川律「朝鮮高校と「不当な支配」の禁止: 授業料無償化不指定裁判を考える」時の法令 2067 号(2019 年)
授 業 の 方 法	基本的には、毎回受講者の一人が報告を担当し、それを受けて他の参加者も含めて議論をする演習形式を予定している。文献読解や一定のテーマに関する報告など、受講者と相談のうえ決定する。* 初回 4 月 8 日(水)5限からオンライン授業とすることにしました。下記のオンライン授業 URL からエクセスワークシートに移動して、Zoom のオンライン会議に参加してください。受講にあたっての事前の質問等は、エクセスワークシートに書いておいてください。答えることができる範囲でお答えします。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	教育法に関心がある者。
そ の 他	ITC—LMS を通じて資料配布を行います。初回の授業前にチェックしてください。オンライン授業の方法などに関して、シラバスの内容の更新を適宜行いますので、受講希望の者は適宜チェックするようにしてください。* 履修予定であるが、何らかの理由で初回のオンライン授業に参加できないという方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。

関連ホームページ	
オンライン授業 URL	https://univtokyo-my.sharepoint.com/:x:/g/personal/5248917204_utac_u-tokyo_ac_jp/EcNHt9WBLINJhNg7uNc_aQYBvwC096jnmngxzIlJrBG-kfQ?e=DF9yuN

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策研究方法論 Research Design and Methods of Education Policy Studies				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育行財政・学校経営に関する計量分析の方法について学ぶ。実際の実証分析で用いられる手法について、その原理、統計ソフトの操作・プログラミング、研究・実務における適用を一体的に理解する。教育行財政・政策、学校経営に関するデータ・実証研究を実習・文献輪読の題材とし、データ分析の方法だけでなく、これらのトピックに関しても理解を深めることを目指す。
授 業 計 画	1. オリエンテーション: 近年の教育政策研究の動向と問題意識 2. パネル・クラスターデータ分析 I: 基本的な考え方 3. パネル・クラスターデータ分析 II: 教員評価・学校評価における付加価値モデル 4. パネル・クラスターデータ分析の応用 III: 階層モデル 5. パネル・クラスターデータ分析の応用 IV: メタアナリシス 6. 実証分析の検討 7. 制限的従属変数の回帰モデル 8. 政策評価における諸問題 9. 因果的推論の諸手法 I 10. 因果的推論の諸手法 II 11. 因果的推論の諸手法 III 12. 因果的推論の諸手法 IV 13. 実証分析の検討
授 業 の 方 法	文献輪読・発表と、データ分析の実習を併用する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特に指定しない。講義ノートまたは関連資料を配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	・第2回以降は、パソコンを持参すること。・データ分析の実習にはExcelおよびフリーソフトRを用いる。・この授業の内容は、「教育行政・学校経営演Ⅵ」(学部)の発展的内容であり、「教育行政・学校経営演Ⅵ」を履修していることを受講の前提にする。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-05	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	佐藤 修司				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育法制の理論と展開 Theory and Development of Education Law				

授 業 の 目 標・概 要	戦後から現在にいたるまでの、教育法学、特に国民の教育権論に関わる教育法理論の展開を、代表的な論者を取り上げながらその時代背景とともに検討する。受講者は、戦後の教育法学の成果と課題を把握し、現在の教育状況、社会状況、理論状況を踏まえた上で、教育法に関わる自分なりの理論展開を構想することができるようになる。
授 業 計 画	1. 内外事項区分論と教育法学 2. 戦後教育改革とキャンデル 3. 戦間期アメリカの理論状況 4. 1947 年教育基本法と 2006 年教育基本法 5. 国民の教育権論の誕生 6. 国民の教育権論の発展 7. 国民の教育権論の種々相 8. 国民の教育権論への初期の批判 9. 子どもの人権、親の権利からの批判 10. 選択の自由からの批判 11. 憲法学からの批判 12. 法学以外からの批判 13. 近年の状況
授 業 の 方 法	受講者は担当を決めて、指定する論文等の内容について整理し、レジュメを作成し、全員の討議を通じて理解を深まる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	論文を適宜配布する。
履修上の注意・備考	事前に論文を読んでおくこと
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	倉石 一郎				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	包摂と排除の教育学:比較教育福祉社会史の視点から On Inclusion and exclusion in education: From the perspective of comparative social history of education-welfare				

授 業 の 目 標・概 要	教育福祉の重要な一角をなす教育支援の意義、可能性、限界を、米国のビジティング・ティーチャーおよび日本の福祉教員制度の成立史を手がかりに理解し、教育福祉の理解に不可欠の知識・教養を獲得すること。教育支援の理解に不可欠な、背景となる社会科学的素養を獲得すること。
授 業 計 画	第 1 回:子どもをとりまく困難と教育福祉・教育支援の重要性第 2 回:アメリカの学校教育の特性:日本との類似と相違点第 3 回:映画『The Miracle Worker(奇跡の人)』に隠されたテーマ第 4 回:アメリカ教育福祉の前史(植民地期から 19 世紀後半までの救済事業)第 5 回:20 世紀初頭アメリカの社会状況:革新主義の潮流、児童救済運動、進歩主義教育運動第 6 回:ビジティング・ティーチャー登場の背景:ニューヨーク市の動向第 7 回:初期ビジティング・ティーチャーの活躍から制度化へ第 8 回:ビジティング・ティーチャーと障害児特別学級の開始第 9 回:「精神衛生」運動ブームのなかのビジティング・ティーチャー第 10 回:アメリカのソーシャルワーク点描:映画『プレシャス』を視聴しながら第 11 回:戦後日本の教育における包摂と排除の構図第 12 回:長欠・不就学問題と福祉教員制度の誕生第 13 回:福祉教員の業務の変容
授 業 の 方 法	講義およびディスカッションによる。必要に応じて視聴覚教材も使用する。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	倉石一郎『アメリカ教育福祉社会史序説:ビジティング・ティーチャーとその時代』春風社、2014 年、ISBN:978-4861104169
履修上の注意・備考	教科書を必ず購入しておくこと。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	姫野 完治				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	教師の学びと教師教育 Teacher Learning and Teacher Education				

授 業 の 目 標・概 要	本講義は、今後の学校教育の直接的な担い手である教師を育む上で基盤となる教師研究について深く理解することを目指し、教師教育の思想や制度、カリキュラムにおいて「教師が学ぶということ」および「教師を教育すること」がどのように捉えられてきたのかを概観するとともに、教師の成長・発達のプロセスや、教師のわざ・知恵を伝承するための方法等について検討する。
授 業 計 画	第 1 回 : ガイダンス: 教師研究のこれまで 第 2 回 : 教師の学びと教師教育: 教師を目指す学生の学びのプロセスからみえること 第 3 回 : 学び続ける教師の学びの特質: 開いた教師・閉じた教師 第 4 回 : 教師の学びと授業研究①: 校内授業研究の意義と課題 第 5 回 : 教師の学びと授業研究②: 「授業研究」から「授業を研究する自己の研究」へ 第 6 回 : 教師のわざを科学すること: 教師にとっての実践研究の意義 第 7 回 : 教師のわざと「みえ」①: ベテラン教師と教育実習生の授業実施中の「みえ」の比較 第 8 回 : 教師のわざと「みえ」②: 教師の「みえ」をいかに伝承するか 第 9 回 : 教師の養成・研修と質保証: 教員育成指標・モデルコアカリキュラムの光と影 第 10 回 : 教師の学びと教師教育: 教職の高度化とは何か 第 11 回 : 教師を教育するのは誰か: 教師教育者研究の胎動 第 12 回 : 教師の学びを促す教育と環境: これからの教師の学びを考える 第 13 回 : これからの教師研究に求められること
授 業 の 方 法	受講者の人数にもよるが、講義、個人やグループでの課題探究、参加者同士のディスカッションにより進める。
成 績 評 価 方 法	選択入力 / Select Input
教 科 書	指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	本講義は、参加者同士のディスカッションや協働によるワークがあります。人それぞれの考えや立ち位置の違いをふまえて、これからの教師の学びや教師研究と一緒に考えていきましょう。
そ の 他	
関 連 ホ ム ペ ー ジ	
オ ン ラ イ ン 授 業 U R L	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐藤 将之				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	こども環境デザイン特論 Advanced children's environmental design				

授 業 の 目 標・概 要	この講義では、こども環境や環境デザインに関する原理や学問としての規範的理論からこれらに関する実践や実践的理論や最前線の研究まで幅広くこども環境デザインを取り扱う。この講義でいうデザイン論とは、単にデザイナー向けのものだけではなく、ユーザー向けの意識啓蒙や環境への構え、環境とのつきあい方を意識したものを含んでいる。これらの知識を前提として、環境デザインや人間環境のコーディネートを検討することも目的のひとつとしている。
授 業 計 画	01) こども環境/環境デザイン の諸説 02) 保育の環境デザイン 01 保育建築のこれまで 03) 保育の環境デザイン 02 屋内環境を創る 04) 保育の環境デザイン 03 活動からみた保育環境 05) 保育の環境デザイン 04 屋外環境を創る 06) 学校の環境デザイン 01 開かれた教室と教育 07) 学校の環境デザイン 02 施設一体型小中一貫校 08) 学校の環境デザイン 03 多様な学習に応じた学校空間 09) 保育・学校建築のプロセスデザイン/ 安全安心と環境デザイン 10) 児童福祉の環境デザイン 01 子育て支援・学童等 11) 児童福祉の環境デザイン 02 児童養護等 12) こどもと住居 13) ごちゃまぜのこども環境デザイン 幼老複合施設の環境・駄菓子屋付帯 14) ごちゃまぜのこども環境デザイン 都市空間と子ども 15) まとめ
授 業 の 方 法	話題提供およびそれに関連したディスカッション
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	こどもの環境づくり事典, ほか参考図書等講義でアナウンスします。
履修上の注意・備考	特に無し
そ の 他	
関連ホームページ	http://www.f.waseda.jp/satomasayuki/index.html
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-09	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日的な学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授 業 計 画	1. オリエンテーション(国語科教育における理論) 2. 国語科教育の目標、内容構造 3. 国語科における学習過程と指導方法 4-6. 教科書教材(「読むこと」)の分析 7-9. 国語学力の測定と教員養成における「国語」10-12. 授業事例(実践記録・授業映像)の検討 13. 総括討論
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストを各自で購入し持参すること。
関連ホームページ	https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/hamada-laboratory/
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-10	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	近藤 孝弘				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から History and Civic Education for Democratic Citizenship in Austria and Germany				

授 業 の 目 標・概 要	戦後世界のなかに民主主義国家を建設・維持するために、ドイツならびにオーストリアではどのような歴史教育と政治教育が進められてきたのかを理解し、それを通して、これまでの日本の教育になにが不足していたのかを考察する。
授 業 計 画	この 2 単位の集中講義は以下の内容を含み、3 日間にわたって実施される。第1回：戦後ドイツの政治と社会について第2回：戦闘的民主主義と憲法愛国主義の考え方第3回：国際歴史教科書対話の思想第4回：戦前におけるドイツ・フランス歴史教科書対話の開始第5回：戦後初期のドイツ・フランス歴史教科書対話の再開第6回：戦前におけるドイツ・ポーランド歴史教科書対話開始第7回：戦後のドイツ・ポーランド歴史教科書対話の発展第8回：ヨーロッパにおける国際的な共同歴史教科書作成プロジェクト第9回：ドイツの外交政策のなかの国際教科書研究第10回：ドイツとオーストリアの歴史教育の比較第11回：ドイツにおける政治教育の発展第12回：現実の政治問題に取り組む政治教育第13回：オーストリアにおける政治教育の発展
授 業 の 方 法	講義を基本とするが、環境が許す範囲で受講者による能動的な学習の可能性を追求する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	授業開始時に資料を配布する。
履修上の注意・備考	基本的に他の集中講義科目に準ずる。質問がある場合には授業期間中に担当教員に問い合わせること。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	有本 真紀				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授 業 の 目 標・概 要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受けたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。
授 業 計 画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と討論を行う。・人と音楽行動の根源 ・儀式と音楽 ・芸としての音楽 ・近代学校の中の音楽教育 ・専門教育としての音楽教育 ・教養教育としての音楽教育 ・社会教育と音楽 ・メディアと音楽教育 ・音楽教育と記憶
授 業 の 方 法	講義と発表および討論。担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と話題提供を行い、全員による討論を通して理解を深める。可能であれば聞き取り調査を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	吉良 直				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)				
講 義 題 目	教育行政事例研究Ⅲ Case Study in Educational Administration Ⅲ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育政策の変遷を主題とし、教育改革の理念と実践のについての理解を深めることを目標とする。そのために、アメリカ合衆国における主に 1960 年代からの教育改革を事例として扱い、1965 年制定の初等中等教育法(ESEA)の変遷を中心に様々な分析事例を通して理解を深め、日本への示唆も導き出すことを目指していく。
授 業 計 画	1. イントロダクション — 現代アメリカの教育改革を考える視点 2. 伝統的教育と進歩主義教育、そして民主的教育 3. 1954 年ブラウン判決と公民権運動、国家防衛教育法など(大桃①)4. 1960 年代の平等保障政策(1965 年 ESEA 制定)(大桃①)5. 1980 年代の 3 つの波の改革(橋爪)6. 1990～2000 年代のアウトカム重視の政策(2002 年 NCLB 法制定)(吉良②)7. 2010 年代の「頂点への競争」(篠原③)8. 連邦と州のテスト政策の展開(黒田④)9. 連邦と州の教員政策の展開(高橋⑧)10. 公立学校内の改革動向(ワシントン DC の事例)(大桃、吉良他)11. 教育のガバナンス改革と NPM と新自由主義(大桃)12. 2015 年以降の最新の改革動向(2015 年 ESSA 制定)(吉良)13. 授業のまとめと総括 — 日本への示唆
授 業 の 方 法	シラバスの授業計画で指定した文献をあらかじめ読み授業に参加する。報告者を設け、報告者は選択した文献の概要とコメントを 3000～4000 字程度で執筆し、それに基づいて授業内で報告を行う。授業では、報告者の報告の後に、他の参加者のコメントも交えながら討論を進める。内容に関連するビデオがある場合はその視聴も行う。授業の最後に、受講生全員が授業の要点、興味を持った点、疑問点を書き出して振り返りの時間とする。
成 績 評 価 方 法	選択入力/Select Input
教 科 書	教科書は以下の著作となるが、絶版となっているので、プリントで配布する(本書の章を使う場合、授業計画では、第 1 章の場合、「大桃①」と表記している)。・北野秋男、吉良直、大桃敏行編著(2012)『アメリカ教育改革の最前線 — 頂点への競争』学術出版会。その他の授業で扱う文献も配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	初回到授業の進行と取り上げる文献の概要について説明を行い、受講生に担当する論文を選択する機会を与える。毎回、事前に文献を読み、1 回以上は選択した論文の報告を行うことが求められるので、そのための時間を確保することが求められる。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-13	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)				
講 義 題 目	学校経営実践の開発Ⅱ Developmental Study of School Management Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	日本と外国の学校改革を社会的・政治的文脈に位置付けるとともに、学校の組織や教育活動の性質に即して分析する。そのために必要な基礎理論や分析概念を習得する。学校経営の動態的理解を深め、さらに校長のリーダーシップの日本の特徴を比較文化的視点から考察する。
授 業 計 画	Day, C. (ed.) (2012). The Routledge International Handbook of Teacher and School Development, London: Routledge. の Theme 8 (School Effectiveness and Improvement)、Theme 9 (Successful Schools, Successful Leaders)、Theme 10 (Learning About Professional Communities)所収の論文を講読するとともに、日本の学校経営・リーダーシップに関する小規模な調査を実施し、その結果を検討する。
授 業 の 方 法	文献研究に加えて、日本の学校経営に関する調査研究を実施し、その結果を検討する。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)				
講 義 題 目	学校経営実地研究 Fieldwork in School Management				

授 業 の 目 標・概 要	学校経営の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む)を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。
授 業 計 画	最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。
授 業 の 方 法	受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)				
講 義 題 目	教育政策実地研究 Fieldwork in Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	教育政策に関する調査を通して、研究の構想および調査の設計を深めることを目標とする。受講生それぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、調査を進める。
授 業 計 画	初回授業時に、実地研究の方法と進め方について説明する。受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進めた上で、中間報告と最終報告を行う。
授 業 の 方 法	受講生による研究報告と討論による。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-303-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	受講者と相談し、決定する。
授 業 の 方 法	学校経営論文指導(勝野教授)と共同で指導を行う。
成 績 評 価 方 法	選択入力／Select Input
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。
そ の 他	
関連ホームページ	
オンライン授業 URL	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
ix. 地図	削除